

想像人ノ私文書ヲ偽造スルカ即チ私文書ノ偽造ナルハ

ル者ニアラス之ヲ換言スレハ商人ハ權利義務ヲ證明スヘキ證書ニ就キテ信實ノ變更ヲ爲シタル者ニアラス或ハ他人カ此所爲ヲ誤信シテ此商人ト取引スルコト有リテ多少ノ損害ヲ生スルコト無キニシモ非サルヘシト雖モ其誤信ハ則チ過失ニ係レリ之ヲ以テ商人ヲ文書偽造罪ニ擬スルコト得ス之ニ反シテ官吏ノ手ニ成リタル文書ハ調製スルノ能力アルモノ之ヲ調製シタルニヨリ其文書ハ直チニ他ニ對シテ權利義務ヲ生シ得ヘク即チ權利義務ヲ證明スルコト得ヘキ文書ナルヲ以テ官吏カ之ヲ偽造スルハ官文書偽造罪トナル彼此固ヨリ同一ニ論スルコト得ス  
想像人ヲ署名シタル私文書ハ偽造ハ私文書偽造罪トナルカ此問題ハ既ニ官文書偽造并ニ私印偽造ノ條下ニ於テ一言シタル所ナリ而シテ官文書偽造ノ場合ニテハ想像的官署ノ名義ヲ以テ文書ヲ偽造スルモ

官文書偽造罪ヲ成サスト言ヒタリ乃チ私文書偽造ノ場合ニテモ亦想像人ヲ署名シタル者ハ罪トナラスト論シ得ルカ如シ然レモ私文書偽造ハ場合ニテハ全ク其反對ニシテ偽造罪ヲ成スト謂ハサルヘカラス其理由如何曰ク予曾テ論述シタルカ如ク想像的官署即チ現存セザル官署ハ固ヨリ文書ヲ發行スヘキ理由ナク從ヒテ官文書ノ資格ナキニ因リ想像的官署ノ名義ヲ以テ文書ヲ偽造スルモ罪トナラス之ニ反シテ私文書ハ假令其書中ニ想像人ヲ署名スルモ爲メニ私文書ノ資格ヲ失スル者ニアラス例ヘハ甲商人アリ想像人ノ振出シタル爲替手形ヲ偽造シ裏書ヲ以テ之ヲ乙者ニ讓渡シタルニ乙ナル手形所持人ハ此偽造ヲ以テ甲者ニ手形面ノ金圓ヲ請求スルコト得サルニアラス之ヲ換言スレハ偽造又ハ變造ノ手形ハ手形トシテ其効力ヲ有スルモノトス私文書偽造ノ性質ソレ此ノ如シ是レ想像的官署ノ名義ヲ用ヒタル文

書ノ偽造ト同一ニ論スルコトヲ得サル所以ナリ現ニ第二百九條第二項ニハ詐僞ノ真書ヲ爲シテ行使シタル者云々ト規定セラレタルハ實ニ流通手形ニ想像人ヲ真書シタル場合又ハ想像ノ振出人等ヲ署名シタル場合等ヲモ包含セラレタルコト明カナリトス諸君此ニ至リ想像人ノ私印ノ偽造モ亦印章偽造罪ニ問ヒテ躊躇セサル所以ノ理ヲ氷解セラレタルナルヘシ(第二百三條第一項ノ解並ニ第二百八條第二問ノ解參照)

第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ送ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處断ス

本條ハ私印又ハ私書ノ偽造罪ノ未遂犯ヲ罰ストイフ規定ナリ元來重罪ノ未遂犯ハ別ニ條文ニ規定セサルモ總テ之ヲ罰シ輕罪ノ未遂犯ハ各本條規定ノモノニアラザレハ之ヲ罰セス而シテ私文書偽造罪ニハ重罪アリ又輕罪アリ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

私印私書ノ偽造ハ如何ナル場合ニ生ズルカ

爰ニ一言ヲ要スルモノアリ曰ク私印私書偽造罪ハ未遂犯ハ如何ナル場合ニ生ズヘキヤ元來私印若クハ文書ノ偽造又ハ變造ハ豫備ノ行爲ナリ豫備ノ行爲ヲ罰スルニハ特ニ規定ヲ要ス第二百二條ノ詔書ノ偽造罪是ナリ而シテ其他ノ文書偽造罪ハ偽造又ハ變造ノミヲ罰スルノ條文ナシ即チ偽造變造ナル一箇ノ豫備ノ行爲アルノミナラス尙ホ使用若クハ行使ナル決行ノ行爲アルコトヲ必要トス是故ニ私印私書偽造變造ノミニテハ未タ以テ未遂犯トスルニ足ラス何トナレハ未遂犯ハ決行ノ端緒ニ着手シタルコトヲ要スルモノナルニ此場合ハ未タ其決行ニ着手セザレハナリ是ヲ以テ私印私書ノ偽造罪ハ未遂犯ハ其偽造變造既ニ成テ之ヲ行使若クハ使用スルニ當リ意外ノ障礙又ハ舛錯ニヨリテ未タ遂ケサル場合ニ於テ始メテ生ズルモノトス

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ノ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

本條ハ之ヲ解スルノ要アルヲ見ス

### 第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

本節ハ罪ノ性質ヨリ言ヘハ文書偽造罪ナリ立法者ハ唯通常ノ文書偽造罪ノ例外トシテ之ヲ掲ゲタルニ過キス是故ニ犯罪構成ノ條件其他ノ事項ハ總テ第三節第四節ヲ適用スヘシ

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四回以上四十回以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盗用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

本條以下ノ罪ノ目的

本條以下ノ罪ハ文書偽造罪ト其性質ヲ相同フスト雖モ特種ノ目的ノ存スルアリ即チ公務ヲ免レ又ハ警察規則ヲ免レント欲スルヲ以テ目的トス故ニ其社會ニ及ホス所ノ害亦甚ク大ナラス概シテ刑ノ輕キハ之カ爲メナリ

本條ニ掲載スル文書ハ官ノ免狀又ハ鑑札ニシテ旅行免許狀獵獵鑑札ノ類ヲ云フ禁苑博物館等ノ入場券ノ偽造ハ蓋シ此中ニ包含セサルヘシ

本條ニハ別ニ必要ノ問題ナシ

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二回以上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下附シタル者ハ一等ヲ加フ

本條ノ刑ハ之ヲ前條ニ比スレハ頗ル輕シ即チ半減ノ刑ヲ以テ處斷ス蓋シ前條ハ書面上ノ詐稱ニシテ本條ハ口頭ノ詐稱ニ係ル而シテ口頭ノ詐稱ハ官吏之ヲ發見スルコト大ニ容易ナレハナリ

第二百十五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タズ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三回以上三十回以下ノ罰金ヲ附加ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

(第二百六十七條)第二編第四章第五節免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪 三九八

公務ヲ免カレ可キ云々公務トハ本編第三章第九節ニ掲載セル公務ヲ  
イフ(第七十七條乃至第八十一條)故ニ民事裁判所ヨリ被告トシテ  
出廷ヲ命セラレシ醫師ノ疾病證書ヲ偽造シ之ヲ提供シテ出頭セサルカ  
如キハ所謂公務ヲ免ルトイフヲ得ス蓋シ公務トハ刑法上制裁アル  
ルモノヲイフ制裁ナキハ公務ニアラス民事裁判所ニ出廷セサルカ如  
キハ只缺席裁判ヲ受クルトアルモ固ヨリ別ニ制裁アルニアラス是レ  
之ヲ公務ヲ免カレタルモノニアラストイフ所以ナリ

第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免ル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行  
使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ  
例ニ照シ各一等ヲ加フ

本條ハ兵役ニ就クノ義務ヲ以テ國民ノ一大義務トシ尋常公務ノ比ニ  
アラストシテ之ヲ重ク罰シタルナリ  
第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者  
ハ亦偽造ノ罪ニ同シ

本條モ亦説明ヲ要セサル所ノ條文ナリ唯一言スヘキモノ有リ本條ハ  
免狀鑑札及ヒ疾病證書ノ變造ヲ規定シ前數條ハ其偽造ヲ規定スト雖  
モ猶ホ文書偽造罪ノ諸條ノ如クニ變造ト偽造ト同一條文中ニ規定ス  
レハ則チ太佳ナラシニ此ニ出ラスシテ別ニ本條ヲ設ケタルハ編纂其  
宜キヲ得タル者ト謂フ可カラサルナリ

### 第六節 偽證ノ罪

偽證ノ罪タル縱ニ三寸ノ舌頭ノ行爲ニ屬スト雖モ其危害ノ及フ所甚  
タ大ナリトス即チ刑事ニ在リテハ罪犯爲メニ刑ヲ免カレ無辜爲メニ  
刑ヲ受ケ或ハ刑ヲ加重シ又ハ減輕セシメ民商并ニ行政ノ訴ニ關シテ  
ハ人ノ私權又ハ公權ヲ侵害スルノ結果ヲ生スル等危害實ニ大ナリ是  
レ本節ノ規定アル所以ナリ  
偽證罪トハ如何曰ク證人カ裁判所ニ於テ虛罔ノ陳述ヲ爲シタル行爲

第二編 第四章 第六節 偽證ノ罪 三九九

偽證罪ノ  
定義

ヲ謂フ。此定解タル只一般的ニ觀察シタル者ナリ尙ホ其性質ヲ明ニセ  
 ント欲セハ本罪構成ノ條件ヲ見之ニ就キテ詳細ニ論述セサル可カラ  
 ス所謂本罪構成ノ條件ト如何曰シ  
 第一、證言ノ信實ニ反スルヲ要ス  
 第二、其證言カ損害ヲ生シ又ハ生シ得ヘキモノナルヲ要ス  
 第三、惡意アルヲ要ス  
 以上三條件ノ一ヲ缺クハ則チ偽證罪成立セス以下此三元素ニ就キテ  
 逐次辯明スヘシ  
 第一、證言ノ信實ニ反スルヲ要ス  
 證言トハ何ンヤ曰ク證人トシテ裁判所ニ於テ申述シタル言辭ヲ謂フ  
 是故ニ證人タルノ資格ナキ者ノ爲シタル申述ハ假令信實ニ反スルモ  
 之ヲ證言トスルコトヲ得ス刑事訴訟法第二百二十三條ニ曰ク左ニ記載シ

タル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス……………第一民事原告人第二民事原  
 告人及被告人ノ親屬但シ姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルト雖モ亦同  
 シ第三民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル  
 者第四民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人第二百二十四條ニ曰ク  
 左ニ記載シタル者前條ニ同シ第一十六歳未滿ノ幼者第二知覺精神ノ  
 不十分ナル者第三瘡啞者第四公權ヲ剝奪セラシ又ハ公權ヲ停止セラ  
 レタル者第五重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付キ公  
 判ニ付セラレタル者第六現ニ供述ヲ爲ス可キ事件ニ付キ曾テ訴ヲ受  
 ク其證憑十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者。此等諸人ハ  
 現ニ事實參考人トシテ事實ヲ陳述スルコトヲ得ルモ證人トシテ陳述ス  
 ルコトヲ得サル者ナルカ故ニ其陳述ハ之ヲ證言ト爲スコトヲ得ス證言タ  
 ルヲ得サレハ此等諸人カ裁判所ニ於テ虛罔ノ陳述ヲ爲スモ偽證罪ト

證人ノ資格ナキモ  
證人トシテ宣誓  
ノ際虚偽ヲ宣  
言シタルハ  
罪トナル

自己ノ爲メニ  
虚偽ノ證言  
ヲ爲スルハ  
罪トナル

スルヲ得サルナリ、然レモ此等證人タルノ資格ナキ者若シ詐リテ宣誓  
誓ヲ爲シ又ハ裁判官カ誤リテ之ニ宣誓ヲ爲サシメテ證人ト爲シタル  
場合ニ於テ此者若シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル時ハ之ヲ偽證罪トシテ罰  
スルヤ否ヤ此問題ニ付キテハ大ニ議論アリ佛蘭西ノ裁判例ニ據ンハ  
之ヲ偽證罪トシテ罰スルヲ見ル其理由ハ一旦式ヲ覆ミテ證人トナリ  
タル時ハ裁判官ハ其言ヲ確信スルヲ得ヘク且充分事實ヲ陳述スルノ  
義務ヲ負フヲ以テ偽證罪ヲ構造ス可キ者ナリトイフニ在リ是レ妥當  
ナル解説トスルニ足ル乃チ證人タルノ資格ナキ者ト雖モ詐リテ宣誓  
ヲ爲シテ證人トナリテ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ偽證罪ヲ成スモノ  
トス  
爰ニ一疑問アリ自己ノ爲メニ虚偽ノ證言ヲ爲シタル時ハ罪トナルヤ  
否ヤ一見スレハ何人モ自己ノ爲メニ證言ヲ爲スモノ無カルヘク從ヒ

罪ヲ成ス  
カ

テ之ヲ決スルノ必要無キカ如シト雖モ實際其必要アルヲ見ル例ヘハ  
共犯甲乙兩人アリ獨リ甲ノミ被告人トナリ乙ハ其證人トシテ出廷シ  
タリ此場合ニ於テ乙ハ必ス自己ノ爲メニ證言ヲ爲スナル可シ蓋シ乙  
若シ甲ノ有罪ノ事實ヲ陳述スレハ則チ勢自己ノ犯罪ヲ暴白セサルヲ  
得サルニヨリ甲ハ有罪ノ所爲ヲ爲シタルヲ無シト陳述スヘキナリ此  
乙ノ陳述ハ偽證罪ヲ成スヘキ證言ヲ爲シタリト謂フヲ得ヘキ乎乙ハ  
式ヲ履ミテ證人トナリ而シテ信實ニ反シタルヲ陳述シタルニヨリ  
然リト答フルヲ得ルカ如シ如何此疑問ニ關シテ佛法解釋家種々ノ  
議論ヲ爲シ其大審院ノ斷例モ亦或ハ無罪トシ或ハ有罪トシ其說屢々變  
更スルヲ見ル予ハ斷シテ偽證罪ヲ成スヘキ證言アリト爲サス其理由  
如何曰ク夫レ證言ナルモノハ他人ノ爲メニスル者ニシテ自己ノ爲メ  
ニスル者ニアラス之ヲ換言スレハ被告人タルヲ得ヘキ者ハ證言ヲ

借質ニ反  
スルトハ  
何ナルハ  
如クナル  
事トスル  
キ生ナリ  
ナリ

四〇四  
爲ス、下ヲ得サルヲ原則トス、被告人ナルモノハ、信實ヲ陳述スヘキ、下  
誓フ可キ者ニアラサルヲ原則トス、乙者ハ現ニ證人トシテ出廷スルト  
ハ、イヘ其實被告人トナリ得ヘキ者ナリ、被告人ハ自己ヲ保護スルノ切  
ナル虚罔ノ陳述ヲ爲ス、是レ人情ノ免レサル所ナリ、是ヲ以テ偽證罪  
ヲ成ス、證言ハ必ス他人ノ行爲ヲ證明スルニ當リ、信實ニ反シタル者ナ  
ル、下ヲ要シ、自己ノ爲メニ證言シタリトテ、偽證罪ヲ成スノ限ニ在ラザ  
ルナリ、  
所謂信實ニ反スル、下ハ如何ナル事件ニ付キ生スルモノナリヤ、信實ニ  
反スル、下即チ虚罔ノ陳述ヲ爲ス、下ハ其種類甚タ多シ例ヘハ、裁判官證  
人ニ問ヒテ曰ク、此被告人ノ年齢幾何、證人曰ク、三十歳ナリ、下而シテ  
其實二十五歳ナリ、又問ヒテ曰ク、被告人カ殺人罪ヲ犯シタル時何ヲ  
以テモシカ、證人曰ク、棒ナリ、下而シテ其實刀ナリ、シ此等ノ場合ニ於テ

被告事件  
主ナル  
事トスル  
間事ノ  
實ノ虚

證人其實際ヲ了知シタルニモ拘ハラズ、此ノ如キ陳述ヲ爲シタルトハ  
信實ニ反シタル陳述ト謂ハサルヲ得ス、即チ之ヲ偽造罪ト爲シテ罰セ  
シカ、其事タル實ニ輕微ニシテ危害モ亦多カラズト爲ス、偽證罪ノ如キ  
重キ刑ヲ以テ之ヲ罰スルノ必要ナキ、下ハ吾人ノ良心ニ於テ之ヲ悟ル  
ヲ得ヘシ要スルニ假令信實ニ反スル陳述ナリトモ、或ハ罪トナルアリ  
或ハ罪トナラサル有リ、乃チ予ハ此ニ其有罪無罪ノ標準ヲ指示セ、ト  
欲ス、曰ク、所謂信實ニ反スル、下ハ被告事件ノ主ナル事實ニ付キ、虚罔ノ  
證言アル場合ヲ謂フ、故ニ事件ノ從タル事實ニ付キ、信實ニ反スルトモ  
偽證罪ヲ成サズ、主ナル事件トハ犯罪ノ構成、又ハ刑ノ加減ニ關スル事  
項ヲ謂フ、主ナル事件ニ付キ、虚偽ノ陳述アレハ、危害甚タ大ナリ、之ニ反  
シテ事件ノ從タル者ニ至リテハ、其事件ニ何等ノ結果ヲ生セサルヲ以  
テ之ヲ罪ト爲サルナリ、例ヘハ強盜罪ノ被告事件アリ、證人曰ク、被告

人ハ決シテ財物ヲ強取セス其財物ヲ握取シタルハ贈與ヲ受ケタルナ  
 リト、檢事曰ク彼ハ持兇器強盜ナリ證人曰ク彼ハ携帶シタルハ刀劍ノ  
 類ニ非ス木刀銀ヲ塗リタル者ナリト、又甲乙ヨリ挑撥セラレテ激怒ニ  
 堪ヘス乙ヲ殺シタリ證人曰ク甲ハ自ラ進ミテ乙ヲ殺シタル者ナリト  
 以上三例ニ就キテ觀察スルニ第一ノ證言ハ犯罪ヲ成立セザラシメ第  
 二ノ證言ハ刑ヲ輕カラシメ第三ノ證言ハ刑ヲ重カラシムルノ結果ヲ  
 生ス即チ是レ被告事件ノ主タル事實ニ付キ信實ニ反シタル證言ナリ  
 トス例ヘハ午前八時ニ殺人事件アリ證人曰ク事件ハ午前十時ニ於テ  
 生セリト又甲地ニ於テ犯罪事件アリ證人曰ク乙地ハ犯罪ノ場所ナリ  
 ト此等ハ犯罪ノ構成刑ノ加減ニ毫絲モ關係スル所ナシ即チ是レ被告  
 事件ノ從タル事實ニ付キ信實ニ反シタル證言ニシテ偽證罪ヲ成サ、  
 ル所ノモノナリト是ニ由テ之ヲ觀レハ所謂信實ニ反スルトハ主タ

如何ナル  
場合ニ信

ル事實ニ付キ虚罔ナルトチ要シ從タル事實ニ付キテハ假令信實ニ反  
 スルトモ偽證罪ヲ成スノ限ニ非サルナリ然レモ茲ニ留意スヘキモノ  
 有リ前ニ掲ケタル從タル事實ノ例トシテ犯罪ノ時ト場所トニ付キ舉  
 示シタリト雖モ時ト場所ニ付キ信實ニ反シタル事ハ總テ從タル事實  
 ナリト斷定スルト勿レ例スルニ夫ノ家宅侵入罪ハ或ハ晝間ト夜間ト  
 ニ於テ其刑ヲ異ニシ或ハ人ノ住居セル家屋ナルト否トニヨリテ其刑  
 ヲ異ニシ或ハ皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵ナルトハ其刑一層加重ス  
 ルカ如ク放火罪ニ付キテモ亦人ノ住居シタル家屋ニ放火スルト否ト  
 ニヨリテ其刑ヲ異ニスルカ如ク犯罪ノ時ト場所トハ必ス事實ノ從タ  
 ルモノトナルニアラス要スルニ事實ノ主從ノ區別ハ事實ノ問題ナリ  
 ト謂ハサル可カラサルナリ  
 如何ナル場合ニ信實ニ反シタル證言アリトスルヲ得ルカ主タル事實



實ニ反シタル證言アリトスルヲ得ルカ

ニ對シテ虛罔ノ陳述ヲ爲ス時ハ直チニ之ヲ信實ニ反シタル證言ナリトスルヲ得レトモ證人カ被告人ヲ曲庇若クハ陷害セントスル意思ヨリシテ事實ヲ陳述セス終始知ラズト答フルカ又ハ終始緘黙ニシテ口ヲ開カサルカ又ハ只首肯スルノミニテ別ニ言辭ヲ發セサルカ此等數者ハ場合ニ於テ偽證罪成立スルヤ否ヤ先ツ其首肯ノ場合ニ就キテ之ヲ觀察セン例ヘハ裁判官實際被告事件ノ事實ヲ詳知スル證人ニ問ヒテ曰ク此被告事件ハ斯々ナリヤト證人之ニ對シテ首肯スルノ外一言ヲ發セス因テ裁判官ハ其間ヒタル事實ヲ信實ナリト思惟スルノ外無キヲ以テ終ニ之ニ依テ審判シタリシニ何ソ圖ラノ裁判官ノ問ヒタル所全ク眞ノ事實ニアラス此場合ノ如キハ如何蓋シ其虛罔ノ證言ハ之ヲ口頭ニコソ表出セザン之ヲ舉動ニ表出シタルモノナリ舉動ヲ以テ信實ニ反スル證言ヲ爲シタル者ナリ乃チ之ヲ偽證罪ニ要スル信實ニ反

シタル證言アリト謂フヲ得ヘシ、證人裁判官ノ問ニ對シテ實際其事實ヲ知リタルニモ拘ハラズ唯知ラストノミイヒタル場合例ヘハ甲乙ヲ殺ス甲ノ友丙證人トシテ出廷ヲ命セラル若シ眞實ヲ申述スルハ甲ハ罪ニ陥ルノ外ナシ因テ終始不知トノミイヒテ他亦一言ヲ發セサル場合ハ如何此場合ハ裁判官ヲシテ審判ヲ誤ラシメ罪アル者ヲシテ刑ヲ免カレシムルカ如キ危險ヲ生スヘク隨ヒテ之ヲ偽證罪トシテ罰スルヲ得ルカ如シト雖モ是レ當初ヨリ裁判所ノ命ヲ拒ミテ毫モ證據トスヘキ陳述アラサルカ故ニ公務ヲ行フヲ拒ム罪即チ第百八十條ノ罪トナリ得ヘキモ偽證罪ト爲スニ足ラサルナリ、緘黙即チ事實ヲ知リタルニモ拘ハラズ終始一言ヲモ發セサル場合ハ如何例ヘハ甲強盜アリ裁判官乙證人ニ對シ其暴行ノ事實ヲ供述セシメタルニ乙甲ヲ曲庇セント欲シ如何ホト裁判官ヨリ供述ヲ強ヒラル、モ黙シテ曾

テ一言片語ヲモ發スルヲ無キ時ハ如何蓋シ此場合ニ於テハ前問ト同  
 シク消極的行爲ニ屬ス可ク因テ之ヲ公務ヲ行フヲ拒ミタル罪ト爲ス  
 テ至當ト爲スカ如ク多數ノ學者モ亦之ヲ公務ヲ行フヲ拒ミタル罪ト  
 シテ偽證罪タルヲ認メサルカ如シ然リト雖モ證人ノ緘黙ハ之ヲ偽  
 證罪ト爲スヤ否ヤハ事實論ナリト謂ハサル可カラズ蓋シ被告事件ノ  
 主タル事實即チ犯罪ヲ構成スル事實若クハ刑ヲ輕重スル情狀ヲ故意  
 ニ陳述セサル時ハ偽證罪ヲ成スヘク否ラサル場合ニ於ケル緘黙ハ之  
 ヲ偽證罪トスルニ足ラサルナリ本問乙者ノ所爲ノ如キハ正ニ偽證罪  
 ヲ成スヘキモノトス何トナレハ暴行ハ被告事件ノ主要ナル事實ニシ  
 テ此事實ヲ緘黙ニ附シタルハ即チ信實ニ反スル證言ヲ陳述シタルト  
 一般ナレハナリ尙ホ例ヲ轉シテ之ヲ説明セシ甲正當防衛ノ爲メニ乙  
 ヲ殺害シタリ證人アリ其殺害ノ事實ヲ證言シ而シテ裁判官ヨリ甲ノ

所爲タル乙ヨリ避ク可カラサル暴行ヲ受ケ已ムヲ得サルニ出テタリ  
 ヤ否ヤヲ問ハンシニ證人甲ヲ陷害セント欲シ黙シテ言ヲ發セス此場  
 合ハ一ハ信實ヲ供述シ一ハ信實ヲ供述セサル者ナレハ信實ニ反シタ  
 ル證言ナリト謂フヲ得ヘシ況ヤ甲ハ或ハ殺人罪ノ刑ヲ受クル奇險  
 アルニ於テヤ

以上解説シタル所ヲ要約スルニ信實ニ反スル證言トハ證人タル資格  
 ヲ有スルモノカ被告事件ノ主タル事實ニ對シテ虛罔ノ陳述ヲ爲シタ  
 ルヲ謂フ此等ノ要件ヲ具備セサルモノハ偽證罪構成ノ元素タル信實  
 ニ反スル證言ト謂フヲ得サルナリ  
 第二、損害ヲ生シ又ハ損害ヲ生シ得ヘキヲ要ス  
 偽證罪ヲ成スニハ損害アルヲ要ス而シテ其損害ハ必スシモ現實ノ  
 者ナルヲ要セス將來ノ損害即チ損害ノ生シ得ヘキ地位ニ在レハ則

チ足レリトス因テ損害ノ生シ又ハ損害ノ生ジ得ヘカラサル偽證ハ罪トナラス彼ノ被告事件ノ從タル事實ニ對シテ虛罔ノ陳述ヲ爲シタルカ如キハ損害ノ生スルヲ無シ  
 偽證ヲ爲スモ中途ニテ之ヲ取消シタル時ハ如何。或ハ偽證ヲ爲シ半途ニテ疾病ニ罹リ其陳述ヲ取消サハル時ハ如何。或ハ全ク偽證ヲ爲シ了リシカ裁判宣告以前ニ自首シタル時ハ如何。此等ハ損害ニ關シタル問題トシテ茲ニ説明スヘキモノナレトモ之ヲ本節各本條ノ下ニ讓ル可シ

第三、惡意アルヲ要ス

損害ノ生スヘキ虛罔ノ證言ト雖モ惡意ナキトモ罪トナラス例ヘハ殺人罪ノ證人有リ其實際ノ事實ヲ詳知セザレトモ偶々犯罪ノ場所ヲ通行シタル爲メ出廷ヲ命セラレシニ其事實ヲ錯誤シ全ク事實ト相反シテ

信實ニシテ  
 實ニシテ  
 證ニシテ  
 場合ニ  
 重アリ  
 ア

被告以外ノ人ノ所爲ニ出テタルモノナリト言ヒ放チタルカ如シ蓋シ吾人ノ五官ハ常ニ活動スト雖モ心意ニ注カサレハ毫モ感覺ナキヲ有リ從ヒテ事物ノ判斷ヲ誤ルヲ往々ニシテ之ノ有リ然レトモ誤見認解ハ人ノ免ル能ハサル所ナレハ假令信實ニ反シタル證言ヲ爲シタリトモ證言カ損害ヲ生スヘキモノナリトモ毫モ惡意ナキカ故ニ之ヲ罰スルコトヲ得サルナリ

以上三個ノ元素ヲ具備シテ始メテ偽證罪ヲ成立スル者トス

本節ノ各條ニ入ルニ先タテ尙ホ一言スヘキ者有リ。偽證罪ハ信實ニ反シタル事實ノ模様ニヨリテ刑ニ輕重ノ區別アリ請フ左ニ之ヲ見ノ一、民事ト刑事トニヨリテ刑ニ輕重アリ蓋シ民事ニ關シテ爲シタル偽證ハ其危害ノ及フ所吾人ノ財産ニ止マル之ニ反シテ刑事ニ在リテハ吾人ノ身體又ハ生命ヲ危害スルノ結果ヲ生スルカ故ニ一般的ニ論

下スレハ刑事ノ偽證ハ民事ノ偽證ヨリモ其刑ヲ重ク爲サ、ル可カラ  
 ス  
 二、被<sub>レ</sub>告人ニ利<sub>テ</sub>ハ<sub>レ</sub>ト不利ナルトニヨリ刑ニ輕重アリ之ヲ換言スレ  
 ハ被<sub>レ</sub>告人ヲ曲庇スル爲メニ偽證ヲ爲スト陷害スル爲メニ偽證ヲ爲ス  
 トニヨリテ刑ニ輕重ヲ爲<sub>ス</sub>佛國刑法及ヒ其他各國ノ刑法ハ多ク其曲  
 庇ト陷害トノ間ニ刑ニ輕重ノ別ヲ置カス獨リ伊國刑法ハ之ヲ區別ス  
 至當ト謂フヘシ蓋シ人ヲ曲庇スル者ト陷害スル者トハ其惡意ノ程度  
 ニ於テ大差ヲキテ得ス曲庇ハ多クハ愛憐ノ至情ヨリ發シ陷害ハ怨仇  
 ノ欲心ヨリ生ス或ハ二者共ニ或ル欲望ヲ達センカ爲メニ出ツル有  
 ルモ曲庇ハ陷害ヨリ輕視セサル可カラス且社會ノ公害ヨリ觀察スル  
 モ有罪ヲ曲庇シテ刑罰ヲ免カシムルハ無辜ヲ陷レテ罪トスルヨリ  
 モ其公害ノ度寡少ナリト謂ハサル可カラス是レ我刑法ノ右ノ區別ヲ

爲シタル所以ナリ

三、被<sub>レ</sub>告事件ノ種類ニヨリテ刑ニ輕重アリ即チ曲庇又ハ陷害ヲ爲ス  
 罪ノ重罪輕罪違警罪ナルニ從ヒテ刑ニ輕重ノ別アリ第二百十八條第  
 二百十九條ニ至リテ其理由ヲ明ニスヘシ  
 四、偽證ハ爲<sub>ス</sub>生<sub>ス</sub>ル結果ハ大小ニヨリテ偽證罪其物ハ刑ヲ輕重<sub>ス</sub>  
 第二百二十一條以下ニ至リテ其理由ヲ明ニスヘシ  
 偽證罪ノ一般ノ性質ハ上來説ク所ニヨリテ粗<sub>ク</sub>其要領ヲ會得セラレタ  
 ルナラン以下各條ニ就キテ解説スヘシ

第二百十八條 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告  
 人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シ  
 テ處斷ス

一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ  
 處シ四回以上四十回以下ノ罰金ヲ附加ス  
 二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ

三 處シニ罰以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
本條ハ證人カ刑事ノ被告人ヲ利益スルカ爲メニ偽證シタル場合ヲ規定シタル法文ナリ

「裁判所ニ呼出サレタル者云々トハ文辭其物ヨリ解釋テ下スルハ證人カ裁判所即チ公廷ニ出頭シタル場合ノミヲ想像シタルカ如ク彼ノ證人カ疾病事故ノ爲メニ公廷ニ出頭スルヲ能ハサルヲ以テ裁判所ヨリ證人ノ住所ニ就キテ訊問スル場合(刑事訴訟法第百十六條第百九十一條)ハ之ヲ想像セザルカ如シト雖モ敢テ然ルニアラス故ニ證人ハ裁判所ニ出頭セスシテ自宅ニ於テモ亦本條ノ罪ヲ犯スヲ得ルモノトスル可シ文辭ニ拘泥シテ法意ヲ誤ルヲナキヲ要ス  
「事實ヲ掩蔽シ云々是レ亦文辭其物ヨリスレハ現ニ之レ有リシ事實ヲ隱匿シテ之レ無シト發言シタルトト解セザルヘカラサルカ如シト雖

本條ノ重罪ノ輕罪ノ區別ハ何處ニ在リキカ

モ其實證人ハ現在之レ無カリシ事實ヲ之レ有リト陳述スル場合アリ例ヘハ人ヲ謀殺シタル者アリ證人曰ク此者ハ正當防衛ノ爲メニ殺害シタルナリト是レ無キ事實ヲ有リト發言シタル者ナリ而シテ此證言ノ偽證罪トナルトハ固ヨリ論ヲ待タス故ニ本條ノ掩蔽ノ文辭ハ其當ヲ得タル者ニアラス草案ニハ「誤認アル事件ヲ確實ナリトイヒ若シハ事實ヲ掩蔽シ其他總テ詐僞ノ方法ヲ以テ云々ト有リ實ニ至當ノ文辭ヲ使用シタリト謂フ可シ  
又本條ニ重罪ヲ曲庇スル爲メ云々輕罪ヲ曲庇スル爲メ云々違警罪ヲ曲庇スル爲メ云々ト有リ其重罪輕罪又ハ違警罪トハ何ヲ以テ之ヲ定ム可キカ例ヘハ殺人罪ノ被告事件アリ證人之ヲ曲庇センカ爲メニ偽證ヲ爲ス而シテ審判ノ未被告人無期徒刑ニ處セラル此場合ハ被告事件重罪ニシテ而シテ重罪ノ刑ニ處セラレタルカ故ニ其證人ハ重罪ヲ

曲庇シタルモノトシテ本條第一ヲ適用セラルヘキヲ疑テ容レスト確  
 モ若シ其被告人宥恕減輕未遂犯ノ減輕等ニヨリテ輕罪ノ刑即チ重禁  
 錮ニ處セラレタルハ如何被告事件ハ重罪ニシテ其受クル所ノ刑ハ  
 輕罪ナリ是レ重罪ヲ曲庇シタル者ナリヤ將タ輕罪ヲ曲庇シタル者ナ  
 リヤ惟フニ此場合ハ被告人輕罪ノ刑ヲ受クルト雖モ宥恕減輕又ハ未  
 遂犯ノ減輕ハ犯罪ノ性質ヲ變更スル者ニアラサレハ所謂重罪ヲ曲庇  
 シタルモノト爲ス者有ラン然レモ刑ノ減等カ犯罪ノ性質ヲ變更スル  
 場合又ハ輕罪事件カ誤リテ重罪事件トシテ公訴セラレ終ニ輕罪ノ刑  
 ヲ科セラレタル場合ノ如キハ如何タトヘハ過失殺ノ犯人故殺罪トシ  
 テ公訴セラレタリシニ終ニ過失殺ノ刑ヲ受ケタルハ被告人ヲ曲庇  
 シタル證人ハ重罪ヲ曲庇シタル者ナリヤ將タ輕罪ヲ曲庇シタル者ナ  
 リヤ之ヲ要スルニ本條ハ重罪輕罪又ハ違警罪ハ被告事件ニヨリテ之

ヲ定ム可キカ或ハ被告人カ裁判ノ結果ニヨリ受クル所ノ刑ニヨリテ  
 之ヲ定ム可キカ此問題タル之ヲ攻究ス可キ價值アルヲ知ル予ハ先ツ  
 普通ノ説ヲ掲ク後ニ予カ所持ノ議論ヲ縷述セン  
 人助モスレハ概チ曰ク本條ハ重罪輕罪又ハ違警罪ハ被告人カ裁判ノ  
 結果ニヨリテ罰セラレタル犯罪其物ヲ謂フ即チ審判ノ未被告人ヲ罰  
 スルニ重罪ノ刑ヲ以テシタルハ假令輕罪又ハ違警罪ノ被告事件ト  
 シテ公訴セララルモ其僞證者ハ重罪ヲ曲庇シタルモノトシテ之ヲ罰  
 ス其輕罪又ハ違警罪ニ於ケルモ亦同シク被告人ハ結局罰セラレタル  
 犯罪ヲ以テ本條ハ輕罪又ハ違警罪ヲ定ムルハ標準ト爲ス故ニ爰ニ重  
 罪犯アリ檢事誤リテ之ヲ輕罪トシテ公訴シタリトセンニ本件ノ僞證  
 者ハ即チ重罪ヲ曲庇シタル者トシテ罰セラルヘク又輕罪犯アリ檢事  
 之ヲ重罪トシテ公訴シタリ是レ被告人ハ輕罪ヲ犯シタル者ナルヲ以

四三〇

テ偽證者ハ輕罪ヲ曲庇シタル者トシテ罰セラル、ナリ要スルニ刑事  
 被告人ヲ曲庇スル偽證者ハ其呼出サレタル裁判所ノ如何ニ拘ハラス  
 又其被告事件ノ如何ニ關セス結局被告人カ罰セラレタル犯罪其物ニ  
 因リテ本條ノ重罪輕罪又ハ違警罪ヲ定ムルモノトスト  
 此論決ハ普通論者ノ唱道スル所ナリトス是レ唯文辭ノ上ヨリ攻究シ  
 タル皮想ノ解釋ニ過キス此說ニ從ヒテ諸種ノ場合ヲ想像スレハ甚々  
 奇怪ナル結果ヲ生ス例ヲ擧ケテ之ヲ見ン爰ニ重罪犯アリ檢事之ヲ違  
 警罪ト誤信シテ區裁判所ニ公訴シタリ其證人被告人ノ刑ヲ受クルヲ  
 憫察シ之ヲ曲庇セント欲シテ虛偽ノ陳述ヲ爲シタリ此偽證者ノ罪ハ  
 之ヲ重罪ヲ曲庇シタル者トシテ罰スヘキ乎被告人ノ罪ハ賢明ノ裁判  
 官ニ因リテ始メテ其重罪タルヲ知ルヲ得タリト雖モ當初ハ檢事スラ  
 尙之ヲ違警罪ナリト思惟シタリ證人何ソ之ヲ重罪視シテ以テ偽證セ

ンヤ況ヤ被告人ハ現ニ區裁判所ニ在ルヲ以テ違警罪ヲ曲庇セント欲  
 シテ偽證シタルト明白ナルニ於テテヤ夫レ自ラ其重罪犯タルト知  
 ラス又知ルヲ能ハスシテ偽證ヲ爲シタルニ偶、被告人ノ重罪ナリシカ  
 爲メニ重罪曲庇ノ刑ヲ受ケサル可カラサルハ大ニ罪刑ノ權衡ヲ失シ  
 タルモノト謂ハサルヲ得サルナリ、證人虛偽ノ證言ヲ爲スモ毫モ其  
 効ナク被告人刑ヲ受ケタルトハ論者ノ說ニ從ヒテ被告人ノ罰セラレ  
 タル罪ニヨリ偽證者ノ罪ヲ定ムルヲ得ルト雖モ若シ偽證其効ヲ奏  
 シテ被告人無罪トナリシトハ何ニ由リテ偽證者ノ罪ヲ定ムヘキ乎例  
 ヘハ重罪犯アリ之ヲ曲庇セントカ爲メニ偽證シタル證言其効ヲ奏シテ  
 犯人無罪トナリタルノ後偽證ノ事實發覺シタリトセン此場合ニハ何  
 ニ由リテ證人ヲ罰スヘキ乎當初被告人ハ刑ヲ受ケサリシカ故ニ證人  
 ハ重罪ヲ曲庇セス又輕罪若クハ違警罪ヲモ曲庇セスト謂ハサル可カ

ラスシテ結局無罪ト謂ハサル可カラサルニ至ル可シ偽證ノ爲メニ有  
 罪者ノ無罪トナルカ如キハ犯罪ノ度實ニ重大ナルハキニ論者ノ説ニ  
 從ヘハ之ヲ罰スルヲ無クシテ止マサル可カラサルニ至ル實ニ奇怪ナ  
 リト謂ハサルヲ得ス要スルニ普通ニ解スル所ハ立法ノ精神ヲ探究セ  
 サルカ故ニ上ノ如キ不都合ノ結果ヲ生スルニ至ルナリ  
 然ラハ則チ其正當ナル解釋ハ如何以下予ハ信スル所ハ解釋ヲ示サシ  
 本條ノ「重罪ヲ曲庇シタル」云々「輕罪ヲ曲庇シタル」云々等ノ文辭ノ沿革  
 ヲ考フルニ本法ノ草案即チボ氏ノ起草シタル草案ニ據レハ「重罪ノ被  
 告事件ニ關シ云々」輕罪ノ被告事件ニ關シ云々ト有り又本法ノ母法タ  
 ル佛國刑法ヲ案スルニ我草案ト同様ナル意義ニテ規定セラル同法第  
 二百六十一條以下是ニ由テ之ヲ觀シハ草案及ヒ佛法ニ於テ被告人ヲ  
 曲庇セント欲シテ偽證シタル者ヲ罰スルニハ被告人ノ罰セラレタル

犯罪ノ如何ニ拘ハラスシテ其被告事件ハ重罪タリ輕罪タリ又違警罪  
 タルヲ標準トシテ其刑ヲ定ムルモノトス之ヲ詳言スレハ當初重罪ノ  
 被告事件ノ證人トシテ出廷シタル者被告人ヲ曲庇セシカ爲メニ偽證  
 ヲ爲シタルトハ其事件ノ結果輕罪トナリ違警罪トナリ若クハ無罪ト  
 ナルニ關セス被告事件タル重罪ヲ標準トシテ其刑ヲ受ク其輕罪被告  
 事件又ハ違警罪被告事件ノ偽證者ノ刑ヲ定ムルモ亦前ト同一標準ニ  
 據ルモノトス元來偽證罪ハ裁判所ニ於テ虛偽ヲ陳述シタル所爲ヲ罰  
 スル所ハモノナレハ偽證者ノ目的ヲ遂成シタルト否トハ固ヨリ之ヲ  
 究ムルヲ要セス隨ヒテ被告人ノ罰セラレタル犯罪ノ種類ノ如何ヲ問  
 フヲ用ヒス總テ虛偽ノ陳述終了スレハ則チ犯罪茲ニ成立スルモノト  
 ス之ヲ偽證罪ノ本質トス是レ我草案并ニ佛刑法ニ於テ被告事件ヲ標  
 準トシテ偽證者ノ刑ヲ定メタル所以ナリ。此論實ニ道理ニ適シタル



者ナリトハイヘ我法文ニハ唯重罪ヲ曲庇シ又ハ輕罪ヲ曲庇シ云々トアルノミニテ被告事件ナル文辭ヲ用ヒラレサレハ則チ草案并ニ佛法ト同一論決ヲ爲スヲ得サルヤノ嫌ナキニアラス然レモ本法ノ母法并ニ草案ニ於テ共ニ此ノ如ク掲載シ而シテ本法ニ於テ故サラニ之ヲ改メタルノ理由ヲ發見セス加之草案并ニ佛法ト同一ニ論セスシテ普通ニ論スル所ノモノニ從ヘハ上ニ縷述シタルカ如キ奇怪ナル結果ヲ生スルニ由リ予ハ斷シテ本條ノ重罪ヲ曲庇スル爲メ云々ハ文辭ハ重罪被告事件ニ關シ曲庇スル爲メ云々ト解釋シ他ノ輕罪違警罪モ亦皆被告事件ニ關シノ文辭ヲ加ヘテ之ヲ解釋スヘキモノト信ス曲庇ノ重罪タリ輕罪タリ又違警罪タルニヨリテ偽證者ハ刑ニ輕重ノ別ヲ爲シタルハ何故ナリヤ曰ク重罪被告事件ハ之ヲ輕罪被告事件ニ比シ輕罪被告事件ハ之ヲ違警罪被告事件ニ比シテ事件ノ性質重大ナ

本條ノ正當ノ刑ヲ免カレトスルハ如何トシテ之ヲ解スルニキヤ

ルモノナレハ此等ノ事件ニ對シテ虛偽ノ陳述ヲ爲シ因テ以テ裁判ヲ誤ラシメントスル所爲ニモ亦從ヒテ輕重ノ差ナクハアラス是本條第一第二第三ニ於テ輕重ヲ爲シタル所以ナリ  
第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免レタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各ニ等ヲ加フ  
被告人ヲ曲庇セント欲シテ偽證シタルカ爲メニ被告人ヲシテ法律上正當ニ受クヘキ刑ヲ免レシメタルトハ之ヲ被告人カ正當ノ刑ヲ受ケタル場合ニ比スルハ其罪ノ度一層重大ナラサル可カラス何トナレハ兇棍ヲシテ刑ヲ免レシメタルハ社會ヲ害スルノ度一層重大ナレハナリ是レ本條ニ於テ前條ノ刑ニ一等ヲ加ヘタル所以ナリ  
本條ハ簡單ナル條文ニシテ敢テ至困ナル問題ヲ生セサルハ唯「正當ノ刑ヲ免カレタル」云々ハ少シク解釋ヲ要スヘキ文辭ナリトス請フ左ニ之ヲ説明セン

例へハ謀殺罪ノ犯人アリ謀殺罪ハ法律上之ヲ死刑ニ處ス證人アリ此犯人ヲ曲庇センカ爲メニ其所爲ヲ正當防衛ナリト陳述シ裁判官チシテ其證言ヲ信實ナリト思惟セシメ犯人遂ニ無罪トナレリ此場合ハ即チ僞證ニヨリテ犯人法律上受クヘキ死刑ヲ免レタルモノニシテ所謂正當ノ刑ヲ免レタルナリ持兇器強盜ハ法律上重懲役ニ處セラレ通常ノ強盜ハ輕懲役ニ處セララル證人アリ持兇器強盜犯ヲ曲庇スル爲メ兇器ヲ持セスト僞證シ之カ爲メ犯人輕懲役ニ處セラレタリトセン是レ亦正當ニ受クヘキ刑即チ重懲役ヲ免レタルモノトス此等ノ例ハ實ニ賭易シト雖モ他ニ僞證ニヨリテ犯人果シテ正當ノ刑ヲ免レタルモノナリヤ否ヤヲ判別スルニ苦ム場合ナキニアラス爰ニ犯人アリ二月以上四年以下ノ刑期間ニ於テ二年ヲ科スヘキヲ以テ相當トス而シテ僞證ノ爲メ裁判官其情狀ヲ憫諒シテ二月ノ刑期ヲ以テ之ヲ罰シタリト

セシ此場合ハ犯人正當ノ刑ヲ免レタルモノナリヤ犯人アリ法律上二年以上四年以下ノ刑期間ニ於テ罰セラルヘキニ曲庇ノ僞證アリタルカ爲メ裁判官ハ酌量減輕ノ規定ヲ適用シテ二等ヲ減シテ一年ノ刑期ヲ以テ之ヲ罰シタリトセハ犯人正當ノ刑ヲ免レタルモノナリヤ否ヤ又裁判官一等減ノ酌量減輕ヲ適用セント欲シタルニ僞證アリシカ爲メニ二等減ヲ爲シタル時モ亦犯人正當ノ刑ヲ免レタルモノナリヤ否ヤ曰ク此場合ハ僞證ノ爲メニ犯人相當ノ刑ヲ免レタルニ相違ナシ然レ此等裁判官ノ心裡ニ於テ増減伸縮スルヲ得ル場合ニハ其僞證ノ爲メ果シテ正當ノ刑ヲ免レタルヤ否ヤ外面上ヨリ之ヲ知ルヲ得ス假令裁判官後日ニ至リテ予ハ僞證ナカリセハ酌量減輕ヲ適用セザリシナリト曰フモ固ヨリ信ヲ措クニ足ラス故ニ僞證ハ爲メニ正當ノ刑ヲ免レタリト謂ヒ得ルニハ絶對的ニ觀察シテ相當ノ刑ヲ免カレ

タル場合即チ法律上該當スヘキ刑ヲ免レタル場合ニ限ルモトス

第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

- 一 重罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十回以上五十回以下ノ罰金ヲ附加ス
- 二 輕罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四十回以上四十回以下ノ罰金ヲ附加ス
- 三 違警罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二十回以上十回以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ證人カ刑事被告人ヲ陷害スルカ爲メニ偽證シタル所爲ヲ規定セリ此所爲タル無辜罪ニ陥リ其民刑ヲ受クルノ結果ヲ生スルカ故ニ社會ヲ害シ道德ニ背戾スルヲ第二百十八條ニ比スレハ更ニ重大ナラサルヲ得ス是レ其刑ノ重キ所以ナリ

本條ニ於テモ亦重罪ニ陥ラシムル爲メ云々、輕罪ニ陥ラシムル爲メ云々、又違警罪ニ陥ラシムル爲メ云々ハ重罪、輕罪、違警罪ハ文辭ハ被告事

件ナル文辭ヲ加ヘテ解釋セサルヲ得ス例ヲ擧ケテ之ヲ示サソ爰ニ強盜ノ被告事件アリ證人偽證シテ曰ク犯者ハ兇器ヲ携帯シテ強盜ヲ爲シタリト持兇器強盜ハ通常ノ強盜ヨリ其刑重シ重キ刑ヲ加ヘンカ爲メニ偽證シタル者ハ之ヲ罰スルノ必要アリ然レモ若シ本條ノ重罪ニ陥ラシムル云々ノ重罪ノ文辭ヲ以テ被告人ノ罰セラル可キ犯罪ト解スルハ本條ノ第一ヲ以テ此偽證者ヲ罰スルヲ得サル可シ何トナレハ重罪ヲ此ノ如ク解スレハ則チ重罪ニ陥ル爲メトハ輕罪又ハ違警罪ヨリシテ重罪ニ陥ルテ之イフモノ、如ク然レハ前例強盜モ持兇器強盜モ共ニ重罪ナレハ所謂重罪ニ陥ラシメタリト謂フヲ得サレハナリ之ニ反シテ本條ノ重罪ニ陥ラシムルカ爲メトハ重罪被告事件ニ關シ云々ト解スルハ此偽證者ヲ罰スルヲ得ヘシ是故ニ本條ノ重罪、輕罪、違警罪ノ文辭ハ被告事件ニ關シナル文辭ヲ加ヘテ之ヲ解釋シ而シ

偽証罪  
ナハ  
偽証ノ  
目的ニ  
シテ  
行ハル  
ルカ  
必要ト  
ス

テ被告人ヲ曲庇シタル偽証ニ於ケルカ如ク其罪ノ輕重ハ被告事件ノ  
輕重ニ從ヒテ定マルモノトス  
證人被告人ヲ陷害セント欲シテ偽証ヲ爲シタリト雖モ裁判官他ノ證  
據ニ據リテ被告人ヲ放免シタル非ハ偽證者其目的ヲ達セス或ハ又被  
告人處刑セラレト雖モ偽證事件ニ因ラスシテ他ノ事件ニ因リテ然  
ルモ亦偽證者其目的ヲ達シタリト云フヲ得ス此等ノ場合ニハ偽證  
ノ爲メニ無辜罪ニ陥リタルノ結果ナキニヨリ其罪ヲ遂ケサリシモノ  
ト爲スヘキカ曰ク否夫レ偽證罪ハ直接ノ目的ハ裁判所ニ於テ偽證ヲ  
述フルニ在リ既ニ之ヲ述ヘ了ルハハ危害ノ生シ得ヘキ位置ニ在リト  
ス故ニ其目的ノ成否ハ固ヨリ問フテ要セザルナリ

第二百二十一條 偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ  
罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シ  
タル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照  
シテ反坐ノ刑期ヲ減スルヲ得但シ減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スト  
テ得ス

前條ハ證人カ被告人ヲ陷害スル爲メ偽證シタル場合ヲ規定セリ而シ  
テ該條ハ被告人カ其偽證ニヨリテ刑ヲ受ケタル場合ヲ想像セス即チ  
唯偽證ヲ爲スモ被告人カ未タ刑ヲ受ケサル前ニ偽證ノ罪發覺シ之カ  
爲メニ被告人カ無罪トナリタル場合ノミヲ規定セルナリ之ニ反シテ  
本條ハ偽證ノ爲メ被告人刑ヲ受ケタル場合ヲ規定ス即チ本條ハ證人  
カ被告人ヲ陷害セント欲シテ偽證シ因テ以テ被告人刑ヲ受ケタル時  
ハ偽證人ヲ如何ニ處斷スヘキカヲ規定セリ蓋シ被告人カ刑ヲ執行セ  
ラレタル後ニ於テ偽證罪發覺シタル場合ト其刑ノ執行中即チ刑期限  
内ニ於テ發覺シタル場合トノ間ニ多少ノ差異アリト雖モ原則トシテ  
ハ反坐法ヲ以テ偽證人ヲ罰スルモノトス

反坐トハ羅典語之ヲタリヨト云ヒ佛語之ヲタリヨト云フ同害相報  
 フルノ義ナリ之ヲ詳言スレハ他ヲ害シタルト同一ノ方法ニテ加害者  
 ヲ罰スルヲ謂フ例ヘハ金錢ヲ竊取シタル者ハ其竊取シタル額ニ相當  
 スル金ヲ徵收シテ之ヲ罰シ人ヲ殺シタル者ハ其生命ヲ奪ヒテ之ヲ罰  
 スルカ如キヲ謂フ偽證罪ニ付キテ之ヲ曰ヘハ偽證ノ爲メニ被告人十  
 年ノ重懲役ニ處セラル、時ハ十年ノ重懲役ヲ以テ偽證者ヲ罰スルカ  
 如キ是ナリ此反坐法ナルモノハ古代ノ立法者多ク之ヲ採用シタリト  
 雖モ近時文明國ノ刑法ニ於テハ殆ト將サニ其跡ヲ絶タントスルニ至  
 ル其理由如何蓋シ反坐ヲ以テ刑ヲ定ムルハ其方法甚タ簡便ニシテ至  
 當ノ刑ナルカ如シト雖モ同害相報ナルハ即チ是レ復讐ニシテ社會刑  
 罰權ノ基礎ト爲ス可カラス且犯罪ノ種類ニヨリテハ到底反坐ハ目的  
 ヲ達スルヲ能ハサルモノアリ彼ノ竊盜罪殺人罪ノ如キハ容易ニ反坐

ノ目的ヲ達スルヲ得ヘキモ強姦罪又ハ姦通罪ノ如キハ如何ニシテ  
 反坐ノ目的ヲ達スヘキヤ強姦者ニ對シテ強姦シ姦通犯ニ對シテ姦通  
 スルカ如キハ事實上之ヲ爲スヲ得ス是レ各國ノ立法者タリヨト即  
 チ反坐ノ方法ヲ擯斥シタル所以ナリ然リ而シテ獨リ我立法者ハ之ヲ  
 偽證罪ニ採用シタルハ何故ナリヤ曰ク我立法者ノ採用シタル理由ハ  
 眞ニ簡單ナリ偽證ニヨリテ社會ニ生スル所ノ損害ハ即チ刑法中ニ規  
 定スル所ノ刑ノ一ヲ無罪者ニ受クシムルニ在ルヲ以テ偽證者ハ己レ  
 カ陷害シタル者ノ受クタル刑ト同一ノ刑ヲ受クルト最モ條理ニ適シ  
 正鵠ヲ得タルモノト爲スニ在リ然リト雖モ偽證者ハ罪ヲ定ムルニ反  
 坐法ニ據ラサレハ逆他ニ罪度ニ適應スル所ノ刑ヲ設クルヲ得サル  
 ニアラス何ヲ苦ミテ古代ノ遺物ヲ今日ニ襲用スルヤ且夫此法ニヨ  
 リテ偽證者ノ罪ヲ斷スルトハ奇怪ナル結果ヲ生スルヲ見ル例ヘハ證

人アリ被告人ヲ國事犯ナリト偽證シ被告人爲メニ其刑ニ處セラレタ  
 リ是レ此場合ニハ偽證者ハ被告人ノ受ケタル刑即チ國事犯ノ刑ヲ受  
 ケサル可カラズ偽證罪ハ非國事犯ナリ而シテ國事犯ノ刑ヲ受ク實ニ  
 背理ノ事ト謂ハサルヲ得ス或ハ曰フ立法者ノ反坐法ヲ設ケタルハ決  
 シテ偽證人ヲ利スルカ爲メニアラス故ニ此ノ如ク反坐ノ結果偽證人  
 ヲ利スルカ如キ場合ニハ非國事犯ノ刑ヲ科スルヲ至當トスト條理ニ  
 於テハ實ニ然リト謂ハサルヲ得ス然レモ此ク論結センニハ明文ヲ要  
 ス而シテ本法ニハ其明文ナキカ故ニ前ニ論シタルカ如ク奇怪ノ結果  
 ヲ生スルニ至レルナリ(ポアンナード氏ノ再閱修正草案ニハ明ニ此事  
 ヲ掲クルヲ見ル)要スルニ我立法者ハ反坐法ヲ以テ不良ノ制度ト認メ  
 タルニモ拘ハラズ獨リ偽證罪ニ關シテハ之ヲ正當視セリ然リト雖モ  
 反坐ハ到底不良ノ刑ヲ科スルモノニシテ刑法上ノ一大汚點ト謂ハサ

如何ナル  
 場合ニ反  
 坐法ヲ適  
 用スルカ

ルヲ得サルナリ

本法ニ於テ全然反坐法ヲ適用スルニハ被告人カ偽證ニヨリテ受ケタ  
 ル刑ヲ全ク受ケ了リタル後ニ於テ偽證罪ノ發覺スルヲ必要トス是  
 レ本條第一項ノ想像スル所ナリ若シ被告人カ全ク刑ヲ受ケ了ラサル  
 場合ニハ反坐法ヲ適用セサルニハ非サレモ多少ノ斟酌アリ是レ本條  
 第二項ノ想像スル所ナリトス

第一項ニ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ云々ト有リ所謂刑ニ處セ  
 ラレタル後トハ被告人カ刑ハ宣告ヲ受ケタル後トモ解シ得ヘク又ハ  
 處刑ノ裁判確定ノ後トモ解シ得ヘシト雖モ個ハ宜ク被告人カ全ク刑  
 ヲ受ケ了リタル後ト解スヘシ否ヲサレハ則チ本項ハ殆ト解スヘカラ  
 サルニ至ル何トナレハ若シ刑ノ宣告ヲ受ケタル後ト解スルモハ則チ  
 控訴上告ノ期間ニ於テ偽證罪ノ發覺シタル場合ニモ反坐法ヲ適用ス

ト謂ハサルヲ得スシテ立法者カ反坐法ヲ採用シタルノ主旨ニ背戻ス  
 ヘク若シ處刑ノ裁判確定ノ後ト解スルモハ本條第二項ト重複スヘク  
 レハナリ今之ヲ草案ニ徵スルニ草案ニハ其刑期終リタル後ニ於テ云  
 々ト掲載シタリ亦以テ予カ言ノ妄ナラサルヲ知ルヘシ  
 刑期限内ニ於テ偽證罪發覺シタル時ハ刑ヲ受ク終リタル後ニ發覺シ  
 タル時ト同シク反坐即チ同害相報ノ原則ヲ適用スト雖モ刑ヲ科スル  
 ノ方法ニ於テ多少ノ差違アリ即チ被陷害者カ現ニ刑ヲ執行セラレタ  
 ル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得タトヘハ偽證ニヨリテ被  
 陷害者三年ノ重禁錮ニ處セラシ二年タケ其刑ノ執行ヲ受クタリシニ  
 偶偽證罪發覺シタル時ハ偽證者ニ被告人カ實際執行セラレタル刑期  
 即チ二年ノ重禁錮ヲ科スルコトヲ得ルナリ法律カ此ノ如ク規定シタル  
 ハ何故ナリヤ曰ク被告人ノ實際受ケタル刑ハ二年ナルカ故ニ二年ノ

現ニ經過シタル日數ニ照シテ減スルハ  
 刑ノ性質ニ依リテ變シタルハ  
 減スルコトヲ得ルニシテ  
 刑ノ性質ニ依リテ變シタルハ  
 減スルコトヲ得ルニシテ  
 刑ノ性質ニ依リテ變シタルハ  
 減スルコトヲ得ルニシテ

重禁錮ヲ以テ偽證者ヲ反坐セシムルハ即チ同害相報フルノ原則ヲ最  
 モ狹ク適用シタルモノナリ本條第二項ハ以上ノ精神ヨリシテ規定セ  
 ラレタルモノトス

第二項ニ刑期限内ニ於テ云々トアリ乃チ本項ノ規定ハ前項ノ規定ハ  
 如ク一般ニ適用スルコトヲ得スシテ唯年月ヲ以テ定メタル刑即チ身  
 ハ自由ヲ剝奪スル所ノ刑ハミニ適用スヘシ而シテ所謂身軀ノ自由ヲ  
 剝奪スル所ノ刑ノ中ニハ唯有刑期ノミナラス無期徒刑ヲモ包含スルモ  
 ノトス。爰ニ研究ス可キ問題アリ曰ク所謂現ニ經過シタル日數ニ照  
 シテ刑期ヲ減スルハ刑期ヲ變スルト共ニ刑ノ性質ヲモ變スルカ或ハ  
 唯其刑期ヲ變スルノミニシテ刑ノ性質ハ依然變スルコト無キカ例ハ  
 偽證ニヨリテ九年ノ重懲役ニ處セラレタル被告人七少年間刑ニ服シ  
 テ無罪トナリシ時ハ偽證者ノ受ケル七年ノ刑期ハ既ニ本刑即チ重懲

役ノ最短期ヲ脱シテ輕懲役ノ期間ニ入ルヲ以テ輕懲役ト爲スヘキ乎  
 或ハ依然重懲役ノ刑トシテ之ニ服セシムルカ若シ例ヲ轉シテ該被告  
 人僅ニ三年間刑ニ服シタルノミナル時ハ偽證者ノ受クル三年ノ刑期  
 ハ輕罪ノ刑即チ重禁錮ノ刑期ナルヲ以テ偽證者ヲシテ重禁錮ニ服セ  
 シム可キカ將タ二年間ハ重懲役ノ刑トシテ服セシム可キカ予ヲ以テ  
 之ヲ見ルニ現行刑法ニ於テハ假令反坐ノ刑期ヲ減スルモ唯刑ノ期間  
 ヲ變スルハミニシテ刑ノ性質ヲ變スルモハニアラス前例ニ付キテ之  
 ヲ言ヘハ偽證者ハ七年ノ重懲役又ハ三年ノ重懲役ニ處セラレタルモ  
 ノトス然レモ前ニモ一言シタルカ如ク法律上七年又ハ三年ノ重懲役  
 無シ而シテ三年又ハ七年ノ重懲役ヲ科スルト曰フ實ニ奇怪ト謂ハサ  
 ルヲ得ス尙ホ一層奇怪ナルハ偽證ニヨリテ無期徒刑ニ處セラレタル  
 者五年ニシテ偽證罪發覺シタルカ爲メニ無罪トナル場合ナリ此場合

ニハ偽證者ハ五年ノ無期徒刑ニ處セラレタル者ト謂フヘキカ有期ノ  
 無期徒刑ヲ科ストイフコトハ誰カ復タ奇異ノ想ヲ爲サルモノアラソヤ  
 且草案起草者ノ説明スル所ヲ見ルニ此場合ニハ明ニ刑ノ性質ヲ變ス  
 ル者ナルコトヲ述ヘタリ即チ彼ヨリ論シ此ヨリ推スモ予ハ論結ハ不當  
 ナルニ似タリ然ルヲ予カ此ノ如ク諸ノ不都合ヲ生スルニモ拘ハラズ  
 又起草者ノ説ニ反對スルニモ拘ハラズ刑ノ性質ヲ變セスト斷言シタ  
 ルハ如何ナル理由ニ基ケルヤ曰ク他ナシ反坐ノ原則ヲ貫徹セシカ爲  
 メナリ今若シ刑期ノ變スルト共ニ刑ノ性質ヲモ變スルモノトスレハ  
 則チ到底反坐ノ原則ヲ貫徹スルコト能ハサルヲ見ル前例ニ就キテ之ヲ  
 觀シニ被告人ハ三年間重懲役ニ服シ而シテ偽證者ヲ三年ノ重禁錮ニ  
 處スルトスレハ偽證者ニハ重罪ノ刑ニ附加スル刑即チ公權剝奪又ハ  
 禁治産ヲ免レシメサルヲ得ス被告人ヲハ附加刑ヲ有スル刑ニ陷罪シ



テ而シテ己ノ獨リ附加刑ヲ受クルハ同害相報ノ原則ニ背クモ  
 ノニアラスシテ何ソヤ立法者既ニ偽證罪ニ反坐法ヲ採用シ而シテ尙  
 ホ其意ヲ擴張シテ本項ニ反坐ノ刑期ヲ減ス云々ト規定シタルニモ拘  
 ハラス刑ノ性質ヲ變スト論スルハ論理ニ合セサル所説ト謂ハサルヲ  
 得サルナリ故ニ假令七年ノ重懲役三年ノ重懲役又ハ有期ノ無期刑ト  
 イフカ如キ奇怪ナル結果ヲ生ストスルモ唯是レ一ノ例外ヲ規定シタ  
 ル者ト觀ル時ハ敢テ不都合ニモアラサル可シ

本條ニ據リ反坐ノ刑ヲ偽證者ニ科スルニハ被陷害者ノ受ケタル刑カ  
 前條規定ノ偽證ノ刑ヨリ重キトテ要ス故ニ被陷害者ノ現ニ經過シタ  
 ル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スル場合ニ減シテ前條偽證ノ刑ヨリ  
 降ル時被陷害者カ刑ヲ受ケ了リタルニヨリ其刑ニ反坐スル場合ニ前  
 條偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ本條ニ據リ反坐ノ刑ヲ科セス即チ前條ニ從

ヒ偽證ノ重罪輕罪又ハ違警罪ノ事件ヲ區別シテ各異ル所ノ刑ヲ科ス  
 ルモノトス

第二百二十二條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑  
 一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減  
 ス

若シ被告人ヲ死ニ陥ルハ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反  
 坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

本條ハ前條即チ反坐ノ原則ノ例外ヲ規定シタルモノナリ、偽證ニヨ  
 リ被告人死刑ニ處セラレタル時若シ反坐ノ原則ヲ貫徹セント欲セハ  
 偽證者ニ科スルニ死刑ヲ以テセサル可カラス此場合ニハ立法者充分  
 ニ斟酌ヲ加ヘスノハアル可カラズ蓋シ被告人ノ死ハ偽證者現ニ自ラ  
 手ヲ下シタルヨリ生シタルニ非スシテ裁判官ノ審判ノ結果ヨリシテ  
 生シタル者ナレハ間接ノ行爲ナリト謂ハサルヲ得ス加之裁判官カ無  
 罪人ニ對シ死刑ヲ宣告シタルハ偽證ニ基クト雖モ然レモ亦多少ノ過

失ナシト謂フ可カラス是ヲ以テ純粹ニ反坐法ヲ適用シテ偽證者ヲ死刑ニ處スルハ苛酷ニ過クルノ嫌ナキ能ハス是レ本條ニ於テ反坐ノ刑一等ヲ減ストイフ例外ヲ設ケタル所以ナリ

然レ証人カ被告人ヲ死ニ陥ルノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シ而シテ被告人犯罪ニ處セラレタル時ハ前段ト同一ニ論スヘカラス即チ此場合ニハ偽證者ヲ犯罪ニ反坐スルナリ蓋シ此場合ハ被告人ヲ死ニ陥レントテ豫期シテ詐僞ノ證言ヲ爲シタルニヨリ彼ノ謀殺即チ豫メ謀テ人ヲ殺シタルノ類ニシテ自ラ手ヲ下サ、ルモ裁判官ヲ欺キ之カ手ヲ假リテ人ヲ殺シタル者ナレハナリ

本條モ亦前條ト同シク偽證ニヨリテ被告人カ犯罪ノ執行ヲ受ケタルカ又ハ其執行ヲ受ケサルモ裁判既ニ確定シタル後ニ偽證罪ノ發覺シタルモノナルコトヲ要ス故ニ裁判確定以前ニ偽證罪發覺スルトハ本條

刑事ノ偽證ト民事ノ偽證ト

ニ據ラスシテ第二百二十條ヲ適用スルモノトス

本條ハ偽證罪ヲ被告人ノ未タ死刑ヲ執行セラレサル前ニ發覺シタル場合ヲ規定シ其死刑ニ陥ルノ目的ヲ以テ爲シタル時ハ一等ヲ減シ否ラサル時ハ二等ヲ減スルナリ

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前數條ハ刑事ニ關シテ爲シタル偽證罪ヲ規定シ本條ハ民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ爲シタル偽證罪ヲ規定ス但シ本條ニハ民事並ニ行政ノ三事項ヲ想像スト雖モ予ハ説明ノ便宜ノ爲メ總テ之ヲ民事トイフ刑事ニ對シテ云ヒタルモノナリ

民事上ノ偽證罪ニ關シテ特ニ一條ヲ設ケタルハ刑事上ノ偽證ト數多ノ異ル所アルヲ以テナリ即チ第一刑事上ノ偽證ヨリ生スル損害ハ直接

(第二百二十三條)

第二編

第四章

第六節

偽證ノ罪

四四三

ニ、被告人ノ身軀生命ニ及ブト雖モ民事上ノ偽證ハ當事者ノ身分又ハ財産ヲ害スルニ過キス故ニ其害タル刑事ノ如ク大ナラス從ヒテ其刑ヲ輕クスルノ必要アリ但シ民事上ノ偽證ハ刑事上ノ偽證ニ比スレハ害少ク從ヒテ刑亦輕カラサルヲ得スト雖モ犯罪構成ノ元素ニ至リテハ二者同一ナリトス諸君害少ク刑亦輕キカ爲メニ犯罪構成ノ元素ニ増減アリト速テセラレザランコト望ム、第二刑事上ノ偽證ニハ被告人ヲ曲庇スルト陷害スルトニ於テ刑ヲ區別スルノ必要アリト雖モ民事上ノ偽證ニハ此等ノ區別ヲ爲スコト得スト何トナシハ原被兩造ノ一方ヲ害セスシテ他ノ一方ヲ利シ若クハ一方ヲ利セスシテ他ノ一方ヲ害スルトハ爲シ能ハサル所ナレハナリ、第三刑事上ノ證人タルヲ得ルニハ宣誓ヲ必要トス宣誓ヲ爲サル時ハ假令虛罔ノ陳述ヲ爲シ以テ被告人ヲ曲庇又ハ陷害スルモ罪トナラス民事上ノ證人ハ宣誓ヲ要

セス故ニ宣誓ヲ爲サルモ虛罔ノ陳述ヲ爲セハ則チ偽證罪ヲ成ス、其他證人ノ資格ニ於テモ刑事ト民事トニ於テ差違アリト雖モ此ニ贅セス

此ノ如ク民事上ノ偽證ト刑事上ノ偽證ト相異ルカ故ニ別ニ本條ヲ設ケテ之ヲ規定シタルナリ

第二百二十四條 鑑定又ハ通辯ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處断ス

本條ハ法意明瞭ナリ故ニ説明ヲ爲サス

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑托シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

本條ハ他人ニ囑托シテ偽證ヲ爲サシメタル者ノ罪ヲ規定シタル者ニシテ總則教唆ノ原則ノ適例ヲ示シタルニ過キス我刑法ハ教唆ニ關シテハ其方法ノ賄賂ニ出ツルト約束脅迫威權ニ出ツルトヲ問ハス總テ有罪ノ手段ニ因リテ教唆シタルトハ悉ク共犯者トシテ之ヲ罰スルカ

偽證ノ  
受ケテ  
囑托者  
其カケ  
事

故ニ本條ノ如キ場合ハ無論總則ニ因リテ之ヲ罰スルヲ得ヘシ然リ  
而シテ此ニ之ヲ規定シタルハ何ゾヤ惟フニ賄賂等ノ手段ニヨリテ偽  
證セシメタル所爲ノ教唆ナリヤ否ヤ多少疑ナキヲ能ハサルヲ以テ之  
ヲ特規スルノ要アリト認メタルト本條ノ罪ハ佛國刑法ニモ亦規定セ  
ラレタルヲ以テ立法者ノ之ヲ因襲シタルトノ二箇ノ理由ヨリシテ本  
條ヲ規定シタルモノナランガ然リト雖モ此等ノ理由ハ到底本條ヲ此  
ニ存在セシム可キ價值アルヲ見ス  
本條ハ教唆ノ通例ナリ故ニ他人ノ囑托ヲ受ケテ偽證シタル者モ亦被  
教唆者トシテ之ヲ罰スルヲ得ヘシ爰ニ偽證ノ教唆ニ關シ攻究ス可  
キ二箇ノ問題アリ左ニ之ヲ見シ  
偽證ノ囑托ヲ受ケタル者ハ其囑托事件ノ詐欺ニ屬スルヲ知ラスシ  
テ證言スルヲ有リ此場合ニハ囑托者ハ所謂教唆者ナリヤ又被囑托者

件ノ詐欺  
ヲ知ラス  
シテ之ヲ  
行ハシテ  
偽證タル  
事

被告ハ  
教唆者  
ニ對シテ  
偽證タル  
事

ハ被教唆者ナリヤ此問題ハ教唆ノ原則ニ照シテ之ヲ論スレハ實ニ一  
見明瞭ナリ凡ソ教唆ノ成立ニハ教唆ノ手段カ被教唆者ノ精神ニ勢力  
ヲ及ホシタルヲ必要トス而シテ此場合ニ於テハ被囑托者ハ偽證タ  
ルヲ知ラス故ニ其精神ニ勢力ヲ及ホシタルモノト謂フヲ得ス從ヒ  
テ囑托者カ被囑托者トハ教唆ノ關係ヲ有セサルナリ然レハ囑托者ハ  
被囑托者ヲ罔シテ以テ裁判所ヲ欺キタル者ナレハ單獨ノ偽證者タル  
ヲハ疑テ容レサルナリ  
被告ハ其證人ヲ教唆シテ偽證ヲ爲サシメタル時ハ偽證罪成立スルヤ  
否ヤ曰ク此場合ニハ被告人ハ偽證者ノ教唆者トシテ罰セラルハナリ  
人或ハ疑ハソ被告人ハ證人タルノ資格ナシ其身自ラ法廷ニ於テ事實  
ヲ陳述スルニ當リテ尙ホ宣誓ヲ爲スト無シ故ニ被告人ハ偽證罪ヲ犯  
ストヲ得スト是レ深ク考ヘザルノ論ナリ若シ證人ノ資格ナキ者偽證

罪ヲ犯ストテ得ストイハ、等シク證人タル資格ナキ被告人ノ親屬又ハ雇人モ亦偽證ノ教唆者タルコトヲ得スト謂フヘキカ尙ホ他ノ例ヲ取テ之ヲ言ヘハ通常人官吏ヲ教唆シテ賄賂ヲ收受セシメタル時モ亦收賄罪ノ教唆者ニ非スト論不可キ乎凡ソ教唆ノ原則ニ於テ被教唆者ノ身分ニヨリ罪トナルモノハ教唆者ニ及ホスモノナレハ被告人ト雖モ豈偽證罪ノ共犯者タルコトヲ得サルノ理アラフヤ人又疑ハソ元來被告人ハ法廷ニ於テ詐僞ノ事實ヲ陳述スルモ尙ホ罪トナラス是レ自己ノ辯護權ヲ主張スル者ナレハナリ既ニ然リ此場合ニ於テモ亦其證人ヲ教唆シタルハ辯護權主張ノ結果ナレハ無罪ト決スルテ至當トスト予ヲ以テ之ヲ見ルニ此場合タル被告人ハ辯護權ヲ主張シタリト謂フコト得ス所謂辯護權ヲ主張シテ罪トナラサルニハ其陳述カ他ノ罪ヲ構成セサルモノナラサル可カラズ例ヘハ被告人自己ノ罪ヲ免レンカ爲

メニ虚欺ヲ陳述スルハ可ナリト雖モ其罪跡ヲ他人ニ委スルカ如キハ誣告罪ヲ構成ス何トナレハ他人ヲ誣告シテ以テ自己ヲ辯護スト謂フコトヲ得サルヲ以テナリ然ラハ則チ本問ノ場合ニ於テハ被告人ハ自己ノ關セサル別罪即チ偽證罪ヲ教唆シタル者ナレハ辯護權ノ結果ナリト謂ヒテ其教唆者タル資格ヲ辭スルコトヲ得ス要スルニ此場合ニハ被告人ハ辯護權以外ニ於テ偽證罪ヲ犯シタル者ト謂フヘキナリ

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス  
 本條ノ自首ハ總則ノ例外ニシテ宥恕全免ナリトス何故ニ偽證罪ハ裁判宣告前ニ自首スル時ハ宥恕全免ナリヤ曰ク偽證ノ所爲タル無辜爲メニ罰セラレ、ヲ以テ其結果實ニ容易ナラス若シ其裁判宣告ニ至ラサル前ニ自首スル時ハ無辜罰セラレ、ノ害無シ是ヲ以テ立法者ハ宥恕全免ノ道ヲ開キ罪犯ヲシテ可及的自首セシメ、コトヲ誘導セリ若シ

此道ノ開クサルハ偽證者ヲシテ罪ヲ犯セシメテ緘黙セシムルノ危険アリトス爰ニ攻究スヘキ一事アリ偽證ヲ陳述シタル者本件ノ辯論終結前其證言ヲ取消シタル時ハ如何曰ク本件ノ辯論已ニ終結シ未タ宣告アラサル前ニ自首シタル時ニ於テスラ尙ホ刑ヲ科セラレサルニヨリ辯論終結前ニ證言ヲ取消シタル時ハ刑ヲ科セラレサルヲ固ヨリ疑ヲ容レズ但シ自首シタル場合ト取消シタル場合トハ其結果相同シクシテ其性質大ニ差違アリ請フ左ニ之ヲ研究セシ

偽證ノ自首  
取消ト  
差違ト

裁判宣告前ニ自首シタル偽證者ノ本刑ヲ免セラルハ、ハ裁判所ノ宣告ヲ受ケテ而シテ刑ヲ免カル、モノニシテ有罪者ナリトス之ニ反シテ辯論終結前ニ證言ヲ取消シタル者ノ刑ヲ科セラレサルハ本來犯罪トナラサルニ由ル即チ一ハ有罪ニシテ一ハ無罪ナリ其差亦大ナラスヤ然レモ取消シタル者ノ無罪ナリトイフハ明文ナシ明文ナクシテ此

偽證罪ニ  
未遂犯ナ  
シ

ノ如ク斷言スルヲ難キカ如シト雖モ之ヲ草案ニ徴シ若クハ偽證罪ノ本質ヨリ論シテ此ク斷言スルノ至當ナルヲ知ル夫レ偽證罪ニハ未遂犯ナシ之ヲ換言スレハ偽證ノ終了即チ辯論ノ終結マテハ幾回虚欺ヲ陳述スルモ罪トナラサルモノナリ尙ホ之ヲ再言スレハ偽證罪ハ被告事件ニ關スル證言ヲ終了シテ始メテ罪トナル者ナリ是レ偽證罪ノ性質ノ然ラシムル所ナリ蓋シ證言ハ裁判官ノ問ニ應シテ爲スモノナレハ其問答數回若クハ數十回ニ涉ルヲ有ルモ悉ク相連絡申通シテ其終了即チ辯論終結ニ至リテ始メテ一個ノ證言トナルモノニシテ其偽證ノ場合ニ於ケル亦同一ナリ故ニ實際證人ガ裁判官ニ對シテ答フル所一ハ偽ニシテ一ハ信一ハ虚ニシテ一ハ實數回ノ應答中虚實信偽錯綜スト雖モ其終了マテハ固ヨリ完成セル偽證ナシ換言スレハ證言ハ終了前ニ其偽言ヲ取消スルハ偽證成立セズシテ消滅シタル者ト謂フ可

偽證ノ不  
可分

シ要スルニ偽證ハ不可分ノモノニシテ未遂犯罪ナシ未遂犯罪ナクハ則チ辯論前取消シタル者ノ無罪タルハ明瞭ナリト謂ハサル可カラス且草案第二百五十八條ニ取消スルハ罪ヲ宥ス下有リ亦以テ予ノ論斷ノ妄ヲササルヲ知ル可シ

以上ニテ本節ニ規定セル各條ノ講説ヲ了リタリ尙ホ本節ノ附説トシテ一言スヘキモノ有リ第一被告人ノ親屬カ偽證シタル時ハ偽證者トシテ之ヲ罰スルト第二事實參考人虚偽ノ陳述ヲ爲スモ偽證罪ヲ成サハルト即チ是ナリ

第一 本法ニ於テハ被告人ノ親屬ノ偽證ハ之ヲ罰ス各國ノ刑法ヲ案スルニ此場合ハ殆ト之ヲ罰スルト無シ草案亦明文ヲ掲クテ宥恕全免ト爲ス其理由ハ親族的情誼ニ於テ互ニ救援扶掖シ其極刑律ヲモ忍レサルニ至ルトハ人間ノ至情已ムヲ得サル所ナリトイ

フニ在リ我刑法ハ已ニ逃亡囚徒ノ親屬カ藏匿罪ヲ犯ス場合ニハ此理由ニ基キテ宥恕全免ノ制ヲ設ケタルヲ見ル而ルテ偽證ニ關シテハ各國刑法ニ倣ハス且草案ノ此條ヲ削除シタルハ何故ナリヤ曰ク被告人ノ親屬ハ證人タルヲ得ズ證人タルヲ得サレハ則チ裁判所ニ於テ證言ヲ陳述スルト無カルヘク裁判所モ亦之ヲ證人視シテ其陳述ヲ聽クカ如キト無カルヘシ然ラハ則チ被告人ノ親屬カ偽證スル場合無カルヘシトイフ理由ニ基キタル者ナル可シ然リト雖モ證人タル資格ナキ者ト雖モ證言ヲ陳述スル場合無シト謂フ可カラズ例ヘハ被告人ノ親屬詐リテ親屬ノ關係ヲ有セサル爲テ出廷シタル時或ハ裁判官誤リテ之ヲ證人視シテ宣誓セシムル時ノ如キ是ナリ此場合ニ若シ詐僞ノ陳述ヲ爲シタル場合ニハ偽證罪ヲ以テ罰セサル可カラサルカ如シ其理由ハ彼ノ逃亡囚徒ノ親屬ハ藏匿罪ニ關シテ宥恕全免トナルカ如キ

或ハ親屬相盜ノ宥恕全免トナルカ如キ皆ユレ明文ヲ待チテ後ニ之ヲ宥恕全免スヘク明文ナキ時ハ通常人ト等シク罪トシテ罰セサルヘカラス被告ノ親屬偽證ノ場合ニ於テモ亦明文ナキ時ハ勢ヒ之ヲ偽證罪ニ問擬セサル可カラサルニ至ルヘシ夫レ被告ノ親屬ハ藏匿罪又ハ竊盜罪ニ關シテ之ヲ宥恕全免シ而シテ偽證罪ニ關シテ宥恕全免セズ大ニ權衡ヲ失シタリト謂ハサルヲ得ス要スルニ我立法者カ草案ヲ削除シタルヨリ生スル結果ナリト謂ハサルヲ得ス實ニ草案ノ削除ハ惜ミテモ尙ホ餘リ有リトイフ可シ

第二、本法ニ於テハ事實參考人ハ虛偽ハ陳述ハ偽證罪ヲ成サス是レ曾テ一言シタル所ナリ何故ニ現行刑法ハ之ヲ罰セサルカ蓋シ事實參考人ハ唯事實ノ要點ヲ參考トシテ述ブルマテニシテ證人ノ如ク充全ノ信用ヲ得テ陳述スルモノニアラス且裁判所ニ於テモ亦充分ノ

事實參考人ノ虛偽ハ  
陳述ヲ成スル罪トシ

信用ヲ置キテ其陳述ヲ聽クモノニアラサルカ故ニ之ヲ罰スルノ必要ナシト云フ理由ニ因ルナリ然リト雖モ事實參考人ナリトテ虛偽ヲ陳述シ裁判所ヲシテ錯誤ニ陥ラシメントスルニ至リテハ證人ノ偽證ト殆ト逕庭ナシ唯其所犯情狀稍輕キノミ而シテ別ニ罰條ヲ設ケサルハ實ニ缺點ト謂ハサルヲ得ス最初ノ草案ニハ此罰條ナカリシカ修正ノ草案ニハ之ヲ設ケラレタルヲ見ル

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

度量衡ノ法ニ據レハ度量衡ハ政府ニ於テ製造スルニアラス又一般人民ノ製造シ得ルモノニアラスシテ特定ノ人官ノ允許ヲ得テ製造スル所ノモノナリ本節ハ一般人民カ私ニ度量衡ヲ偽造シタル所爲ヲ罰ス

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重

(第二百二十七條) 第二編 第四章 第七節 度量衡ヲ偽造スル罪 四五五



キニ從テ處斷ス

本條ニハ大ニ說明ヲ要スヘキモノナシ唯一言スヘキハ「販賣」ノ文辭ニ  
レナリ本條ニ販賣トアリ故ニ偽造變造ノ度量衡ヲ贈與シ若クハ使用  
シタルモノハ本條ヲ以テ罰スルノ限ニ在ラス或人曰ク使用ノ場合ハ  
本條ニ問フコトヲ得サレモ第二百二十九條第二項ニヨリ詐欺取財ノ罪  
トシテ處分スルコトヲ得ヘシト實ニ偽造又ハ變造ノ度量衡ヲ使用シタ  
ル者ハ詐欺取財ノ罪トシテ處分スト雖モ是レ第二百二十九條第二項  
ヲ適用スルニアラス該條ノ想像スル所ハ此場合ニアラス其餘下ニ於  
テ說明セシ

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條  
ノ刑ニ一等ヲ減ス

本條モ亦別ニ說明ヲ要セサル法文ナリトス

第二百二十九條 商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ  
一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二回以上二十四回以下ノ罰金ヲ附加

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス  
[定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者]トハ單ニ偽造又ハ變造ノ度  
量衡ヲ所有シタル者ト解スヘカラス蓋シ本法頒布ノ際度量衡法ノ改  
正アリテ民間尙ホ舊器ヲ存ス其存スル者ハ官之ヲ検査シタリト雖モ  
尙ホ未タ遺漏ナキヲ得ス其遺漏シタル舊器ハ之ヲ定規ニ對スレハ量  
目尺度ニ増減アリ此等舊器ハ偽造又ハ變造ト謂フ可カラス而シテ當  
時ノ商賈農工之ヲ所有スル者往々之レ有リ其危險偽造變造ノ度量衡  
ヲ所有スル者ト敢テ異ル所ナシ法律ハ此等ノ所爲ト偽造變造ノ度量  
衡ヲ所有スル者トテ併セ罰セント欲シテ此ノ如ク規定シタリ是レ定  
規増減ノ文辭ハ單ニ偽造變造トノミ解ス可カラサル所以ナリ  
本條ニヨリテ罰セラルハ者ハ其人ニ限リアリ即チ商賈農夫又ハ工匠  
換言スレハ職業上度量衡ノ使用ヲ爲スヘキ人ニアラサレハ則チ罰セ

ハ、ハ、ハ、無シ、  
何故ニ此等限定ハ人ハ使用ヲ罰スルヤ曰ク此等ノ人カ其職業場或ハ  
店舗等ニ於テ所有スルモノ之ヲ利用スルノ危険アルヲ以テナリ然レ  
本條ニハ單ニ所有トアリ故ニ其場所ノ自宅ナルト職業場又ハ店舗  
ナルト其他ノ場所ナルトヲ問ハス苟モ所有スルモノ悉ク罰セサル可  
カラサルカ如シ不都合ト謂ハサル可カラス

本條第二項ハ商賈農工カ定規ヲ増減シタル度量衡ヲ使用シテ利ヲ得  
タル場合ニシテ其詐欺取財ノ刑ヲ以テ罰スルヲ得ルハ本條ノ規定  
ヲ要セスシテ明ナリ

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シタル者ハ其囑託シタ  
ル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

本條ヲ熟讀スルニ所謂囑託者ハ總則ニ於ケル教唆者ハ如ク被囑託者  
ハ其被教唆者ハ如シト雖モ敢テ然ルニアラス是レ本條ノ被囑託者ノ

刑囑託者ノ刑ヨリ輕キヲ視テ之ヲ知ルヲ得ヘシ此ノ如ク本條ノ犯罪  
ニハ教唆ノ關係ナシトスルモノハ本條ハ實ニ解スヘカラサル法文トナ  
ル第二百二十七條ニ據ルニ度量衡ヲ偽造又ハ變造スルモノ之ヲ販賣セ  
ザルハ罪トナラサル規定ナルカ故ニ囑託者ニシテ其度量衡ヲ販賣セ  
サルモノハ無罪ニシテ其被囑託者ハ有罪ナリト謂ハサルヘカラス囑託  
者無罪ニシテ被囑託者ノミ有罪ナルハ亦奇ナラスヤ一步ヲ讓リテ囑  
託者無罪ニシテ被囑託者ノミ有罪ナリトスルモ被囑託者ノ刑ハ囑託  
者ノ刑ニ照シテ定ムルモノナンハ囑託者ニシテ無罪ナルモノハ徹底被  
囑託者ノ刑ヲ定ムルヲ能ハサルニ至ルヘシ或ハ被囑託者ノ罪ハ囑託  
者カ度量衡ヲ販賣シテ始メテ成立スル者ナンハ囑託者販賣セサルヲ  
以テ無罪トナルモノハ被囑託者モ亦無罪ナリト曰フ可キ歟果シテ然ラ  
ハ被囑託者ノ罪ハ有無ハ囑託者ノ方寸ノ中ニ在リト謂ハサル可カラ

ス、此ノ如ク疑問ヲ起シ來ルハ本條ハ實ニ解ス可クサルハ法文ナリトス

### 第八節 身分ヲ詐稱スル罪

本節ノ罪ハ道德ニ背戾スルノ度甚タ輕微ナリト雖モ一般ノ信用ヲ害スルヲ鮮少ナラス是レ信用ヲ害スル罪ノ下ニ本節ヲ規定シタル所以ナリ

#### 第二百三十一條

官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍、身分、姓名、年齢、職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ官署ニ對シテ身分、屬籍、姓名、年齢、職業ヲ詐稱シタル所爲ヲ罰スル所ノ法文ナリ故ニ通常ハ人ニ對シテハ本條ハ罪ヲ成サズ  
本條ニ官署ニ對シテ云々トアリ所謂官署ノ中ニハ職務ヲ行フ官吏ヲ包含スルヤ否ヤ例ヘハ警察官其出張先キニ於テ某ノ身分ヲ取調ヘタルニ某之ヲ詐稱シタリトスレハ某ノ罪ハ警察官ニ對シテモ亦成立ス

官署ノ中ニ職務ヲ行フ官吏ヲ包含スルヤ

被告人於被訴人所屬之職稱ニ對シテ其身分、姓名、年齢、職業ヲ詐稱シタルノ罪

ルモノナリヤ曰ク某ハ疑モナク身分詐稱ノ罪トシテ本條ニ問擬セラハ何トナレハ官吏職務ヲ執行スル場合ニハ官署ヲ代表スルモノナレハナリ

爰ニ又一疑問アリ被告ハ裁判所ニ於テ其屬籍身分等ヲ詐稱スル時ハ本條ノ罪ヲ成スヤ被告ハ民事裁判所ニ於テ詐稱スレハ則チ本條ハ罪ヲ成ストモ疑モ容シス若シ刑事裁判所ニ於テ詐稱スル場合ニハ果シテ本條ニ依リテ之ヲ罰スルヤ否ヤ是レ疑惑ノ存スル所ナリトス此場合タル實際屢生スル所ナルニモ拘ハラス大ニ議論アル所ナリ佛國ニ於テハ此場合ヲ詐稱罪トスルヤ否ヤニ付キ大審院ノ斷例并ニ學者ノ所說屢變更シテ久ク決スル所ナカリシカ現今詐稱罪ヲ成ストイフ說ニ一定シタルモノ、如シ我國ニ於テハ司法省ノ意見亦屢變更シ初メハ本條ヲ適用ストイヒ次キニハ本條ヲ適用ス可カラスト云ヒ其後

犯人罪ノ  
發覺ナリ  
シテ  
分ル  
タル  
時

又本條ヲ適用スト云ヒ一變一更常ナカリシカ明治十六年以降ハ本條  
ヲ適用セストイフ議論ニ決セリト聞ク果シテ信ナリヤ否ヤ夫レ此ノ  
如ク本問ノ場合ニ於クル適用論ハ佛國トイヒ我國トイヒ大ニ議論ア  
リタルヲ知ルヘシ予以爲ク被告人ハ刑事裁判所ニ於テハ自ラ辯護  
スルノ權アリ故ニ詐僞ノ陳述ヲ爲スト有リト雖モ辯護權ハ執行上已  
ム可カラサル結果ナレハ屬籍身分等ヲ詐稱シ以テ裁判所ヲ欺罔スル  
ハ大ニ惡ム可キ所爲ナリトハイ本條ヲ以テ之ヲ罰スヘカラサルナ  
リト是故ニ其被告事件有罪ナルトハ唯其罪ノミヲ問ヒ其罪ト詐稱罪  
トノ數罪俱發ヲ以テ問フテ無ク若シ被告事件無罪ナル時ハ被告人ハ  
全ク無罪トナル可シ。被告人刑事裁判所ニ於テ屬籍身分ヲ詐稱スル  
モ本條ノ罪ヲ成サ、ルトハ既ニ之ヲ了ス若シ犯罪人其罪ハ發覺ナレ  
レ若クハ刑事被告人ト爲ルハ苦ヲ厭ヒテ屬籍身分ヲ詐稱シタル場合

ハ本條  
トナルノ  
カ

モ亦本條ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得サル乎例ヘハ兇漢罪ヲ犯ス官未タ  
之ヲ知ラス然レモ其發覺ヲ畏レ到ル處官署ニ對シテ其屬籍身分ヲ詐  
稱シタル場合ハ詐稱罪ヲ成サ、ル乎白ク否此場合ニハ犯罪人未タ被  
告人トナラス從ヒテ未タ其罪ヲ辯護スヘキ位置ニ在ラス從ヒテ辯護  
權ハ結果ナリト爲ステ得サルニヨリ之ヲ本條ニ問ハサル可カラス若  
シ此場合ヲモ辯護權ノ結果ナリトシテ之ヲ罰セサル時ハ被告人民事  
裁判所ニ於テ文書偽造罪ノ發覺ヲ畏レテ屬籍身分ヲ詐稱シタル時モ  
亦之ヲ無罪トセサル可カラサルノ不都合ヲ生スヘシ然ラハ則チ辯護  
權執行ノ結果トシテ詐稱罪ニ問ハサルト辯護權執行ノ結果ナラスト  
シテ詐稱罪ニ問フトハ如何ナル點ニ於テ之ヲ區分スルヤ曰ク是レ實  
ニ困難ナル問題ナリ予ハ將サニ言ハントス刑事被告人タル位置ニ  
在リテ詐稱シタル時ハ辯護權ノ執行ト看做シ之ニ反シテ犯罪ノ發覺

(第二百三十一條) 第二編 第四章 第八節 身分詐稱スル罪 四六三

ヲ畏レテ詐稱シタル時ハ辯護權ノ執行ニアラスト看做スヘシト  
本條ノ官署ハ公署ニ適用スルコト得是レ明治二十三年十月法律第百  
號ヲ以テ規定セラレタル所ナリ此法律ニ關シテハ既ニ前ニ一言シタ  
ルヲ以テ茲ニ贅セス

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ  
勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二回以上  
二十回以下ノ罰金ヲ附加ス

官職位階ハ詐稱又ハ徽章勳章ノ僭用ハ其場所ハ如何ヲ問ハス本條ノ  
罪ト成ル乎本條ヲ一讀スルニ別ニ區別ヲ立テザルカ故ニ公クノ場所  
ハ勿論家内ニ於テ詐稱又ハ僭用スルモ本條ノ罪ヲ成スカ如シ公クノ  
場所ニ於テ詐稱又ハ僭用スレハ公クノ信用ヲ害スルヲ以テ本條ノ罪  
トシテ之ヲ罰スルコトハ何人モ是認スル所ナリ之ニ反シテ家内ニ於テ  
ル詐稱又ハ僭用ヲモ之ヲ罰スルトセハ疑訝ヲ狹マサル者ナカルヘシ

詐稱又ハ  
僭用ハ其  
場所如何  
ヲ問ハサ  
ルカ

今之ヲ草案ニ徵スルニ公然僭用ノ文辭アリタリシニ現行法ニ於テ之  
ヲ削除シタリ此點ヨリ考フレハ家内ニ於ケル詐稱僭用ヲモ罰スル精  
神ナルカ如シ果シテ然ルヤ否ヤ予以爲ク本條ノ罪ハ實ニ公クノ信用  
ヲ害スル罪ノ中ニ數ヘテ規定セルモノナルカ故ニ其詐稱又ハ僭用ノ  
所爲カ必ス公クノ信用ヲ害スルモノナルコトヲ要ス而シテ家内ニ於ケ  
ル詐稱又ハ僭用ハ一家ノ信用ヲ害スルノ點或ハ之レ有ラン其公クノ  
信用ヲ害スルコトハ毫モ之レ有ルヲ看ス乃チ本條ヲ適用シテ之ヲ罰ス  
ルハ立法者ノ精神ニアラス是故ニ公然ハ文辭ヲシト雖モ之ヲ本條ハ  
罪ヲ成スノ一條件トシテ解釋スルニアラサレハ必要ナキニ刑ヲ科ス  
ルニ至ルヘシ

詐稱又ハ  
僭用ハ其  
場所如何  
ヲ問ハサ  
ルカ

又ハ僭用スル時ハ本條ヲ以テ之ヲ罰スル乎曰ク本條ノ行文上ヨリ之ヲ言ヘハ此等附加刑ヲ受クタル者ヲモ包含シタルカ如シ然レモ本條ハ罪ハ其人ニ限り有リテ普通人タルトテ必要トス公權剝奪若クハ公權停止ハ刑ヲ受クタル者ハ第一百五十四條ヲ以テ之ヲ罰ス該條ニ云ク「公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時」云々ト「私ニ其權ヲ行ヒタル」トハ本問ノ場合ノ如キヲ謂フニ非スシテ何ソヤ又本條ノ刑ヲ該條ニ比スレハ本條ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮并ニ二圓以上二十圓以下ノ罰金ナレモ該條ハ一月以上一年以下ノ重禁錮并ニ二圓以上十圓以下ノ罰金ナリ即チ一ハ輕禁錮ニシテ一ハ重禁錮ナリ是レ公權ヲ剝奪セラレ又ハ停止セラレタル者カ官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章等ヲ僭用スルハ之ヲ公權ヲ有スル普通人ノ詐稱又ハ僭用ニ比スレハ罪度甚タ重キノミナラス罪ノ性質モ

投票偽造罪ノ性質

亦同一ナラサルヲ以テナリ故ニ之ヲ本條ニ問ヒテ輕キ刑ヲ科スルハ當テ得タル者ニアラス之ヲ要スルニ本條ハ行文上ヨリ看レハ一般的规定セルカ如シト雖モ其精神敢テ然ルニアラスシテ其人ニ限り有リテ普通ノ人ニアラザレハ之ヲ適用スヘカラス

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

本節ノ罪ハ公事ニ人ヲ撰舉スルニ當リテ投票ヲ偽造スル所爲ナリ即チ市町村會ノ議員若クハ市町村ノ名譽職ノ選舉又ハ郡會府縣會ノ議員並ニ帝國議會ノ議員等ノ選舉ニ關シ其投票ヲ偽造シタルノ所爲是ナリトス佛國ニテハ之ヲ憲法ニ對スル犯罪ナリトシテ國事犯ト爲スヲ見ル蓋シ我國ニ於テモ單ニ議員選舉ノ點ヨリ論スルモ政界ノ組織ニ關スルカ故ニ本節ノ罪ヲ稱シテ國事犯ナリト爲スヲ得ヘシト雖モ本節ノ罪ハ此ノ如ク政界ノ組織ニ關スルモノハミテ包含セズ現在

ト將來トテ論セス苟モ公事ニ關スル選舉ハ投票ヲ偽造スルハ皆本節ヲ適用ス例ヘハ所得稅取調委員ヲ選舉スル場合ニ其投票ヲ偽造スレハ疑モナク本節ノ罪ヲ成ス故ニ本節ノ罪ハ悉ク國事犯ナリト解スヘカラス之ヲ要スルニ本節ハ政治上行政上ニ關シテ選舉ハ投票ヲ偽造シタル者ヲサレ可カラス

公選ノ投票ナル文辭ハ本節ノ罪ノ區域ヲ定ムルニ於テ最モ注意シテ解釋セサル可カラス第一公選トハ公事ニ關スル選舉ト解スヘク之ヲ換言スレハ政治上行政上ニ關係スル選舉ト解スヘシ故ニ私事ニ關スル選舉タトヘハ諸種ノ會社ノ役員選舉又ハ集會ニ於ケル會長幹事等ノ選舉ニ關スル投票偽造ハ本節ノ包含セサル所ナリ蓋シ此等ノ投票ノ偽造ハ其害惡直接ニ社會ニ影響スルヲナク即チ公ケノ信用ヲ害スルヲナク且投票ノ結果ヲ改メテ正確ノ選舉トスルヲ容易ナルヲ以

テ此等ノ所爲ニ對シテハ社會刑罰權ヲ執行スルノ必要アルヲナシ  
第二、公選ノ投票トハ公事上人ヲ選舉スル時ハ投票ナルヲ要ス假令公事ニ關スルト雖モ事ハ可否ヲ投票スルモハナルキハ其偽造ハ本節ノ罪ヲ成サス此投票ハ例テ我國ニ索ムル甚々難シ陪審ノ制度ノ行ハル、國ニ於テハ陪審官被告人ノ有罪無罪ヲ投票シ又ハ行政上ノ問題ヲ人民ニ諮問シ投票ヲ以テ之カ答ヲ爲スノ國アリ現ニ佛蘭西ニ於テハ新制憲法ノ可否ノ如キ政治上ノ大事件ニ付キテハ「プレビス」ト即チ國民一般ノ投票ヲ要スルヲ有リ此種ノ投票ハ我國ニ於テハ未ダアラサル所ナルヲ以テ立法者之ヲ規定セサルナリ但シ草案ニハ「公クノ投票」ナル文辭アリテ其説明書ニ於テモ所謂此種ノ投票ノ偽造ヲ認メタリ現行法ニテハ假令異日此種ノ投票ヲ要スルノ慣習ヲ生シ而シテ其投票ノ偽造アルモ本節ノ罪トシテ之ヲ論スルヲ得サルナリ

本條ノ公選投票ノ包含スルカ

(第二百三十三條) 第二編 第四章 第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪 四七〇

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二回以上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス本條ニ於テ疑問ノ起ルハ公選投票ノ變造ヲ包含スルヤ否ヤトイフ是ナリ投票ノ變造トハ選舉者ノ爲シタル投票ノ人名又ハ人員ヲ増減變換シタルノ所爲トイフ此所爲タル選舉場ニ於テハ偽造ノ所爲ヨリハ最モ多ク現出スルモノナリ知ラス本條ハ之ヲ包含スルヤ否ヤ或ハ曰ク投票變造ハ本條ノ其數ヲ増減シタル者トイフ文辭中ニ包含スト予ノ聞ク所ニヨレハ投票變造ハ之ヲ本條ニ問フ可シトイフ訓令アリト果シテ信ナル歟是レ牽強ノ附會タルヲ免カレス所謂其數ヲ増減シタルトハ投票ノ結果ニ付キ其點數ヲ増減シタルトニシテ變造即チ選舉者ノ爲シタル投票ヲ増減變換シタル所爲ヲ指シタルニハアラサルナリ但シ投票變造ノ結果ハ即チ點數ノ増減ヲ爲スカ故ニ此點ヨリイヘハ變造ヲ包含ストイヒ得ルカ如シ然レハ此論法ニ據ンハ偽造ノ結果

モ亦點數ノ増減ヲ爲スト謂ハサル可カラサルカ如キ最モ奇怪ナル論決チ爲シ得ルニ至ルヘシ惟フニ我立法者カ文書又ハ貨幣等ノ變造罪ヲ規定スルヤ概チ其文法ヲ同一ニシ其偽造ト相並ヘテ規定スルトハ偽造又ハ増減變換シタル者云々ト記シ増減變換ノ文辭ヲ以テ變造ノ所爲ヲ言ヒ表ハセリ而ルチ本條ニハ此ノ如キ慣法ヲ用非スシテ特ニ其數ヲ増減シタル者ハ云々ト規定セルハ全ク變造ノ場合ヲ脱漏シタルト瞭然明白ナリトス實際最モ屢起ルヘキ投票變造ノ場合ヲ脱漏シタルハ立法者ノ不注意モ亦已甚シト謂ハサル可カラス

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲シメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以下二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三回以上三十回以下ノ罰金ヲ附加ス

選舉ノ事タル選被選ヲ問ハス公平廉潔ナルトヲ要ス若シ然ラスシテ賄賂ヲ行ヒテ投票ヲ得又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲ス者ハ道義上ノ罪

(第二百三十四條) 第二編 第四章 第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪 四七一



人タルハ勿論公ケノ信用ヲ害スルヤ最モ大ナリトイフ可シ是レ本條  
ノ設ケアル所以ナリ  
甲者アリ選舉ヲ得ント欲シテ乙選舉者ニ賄賂ヲ贈リテ自己ヲ投票セ  
シム乙者ハ固ヨリ甲者ヲ選舉スルノ意ナリシニヨリ賄賂ヲ收受シタ  
ルニ拘ハラスシテ甲者ヲ投票セリ甲者乙者ハ本條ハ罪ヲ成スヤ甲者  
ニ付キテハ本條ノ罪ヲ成スト疑ナシ乙者ハ如何曰ク本條ヲ設ケタル  
ハ賄賂ヲ收受シテ以テ投票ヲ爲ス所爲換言スレハ公職又ハ公權ヲ執  
行スルカ爲メニ賄賂ヲ受ケタルノ所爲ヲ罰スルモノナレハ投票者ハ  
假令曾テ自ラ適任者ト信シタルニモセヨ本條ヲ以テ之ヲ罰セサル可  
カラス且夫レ乙者カ固ヨリ甲者ヲ適任者ナリト信シタルトハ人ノ心  
意上ノ事ニシテ乙者以外ノ人ノ知ルコ能ハサル所ナレハ之ヲ以テ抗  
辯シ以テ賄賂ヲ受ケテ投票シタル事實ヲ消滅セシムルコトヲ得サルナ

リ  
賄賂ハ必スシモ金錢ニ限ラス手形物品ヲ授與シ又ハ授與スルトテ約  
束シタル所爲ミナ所謂賄賂ナリ但シ囑托ノ如キハ此限ニ在ラス蓋シ  
囑托ヲ爲シテ選舉ヲ得又ハ囑托ヲ受ケテ投票スルカ如キハ道義上議  
スヘキ無キニ非サレモ未タ法律上ノ罪トシテ之ヲ罰スヘカラサルナ  
リ且賄賂ハ選舉者ニ直接ニ授與シ又ハ授與スルトテ約束スルヲ必要  
トセス間接ニテモ可ナリトス  
又賄賂ヲ授與スルモノハ其資格ノ如何ヲ問ハス即チ選被選又ハ無資  
格者ニテモ可ナリ然レモ其投票ヲ成スモノハ選舉資格ヲ有スルモノ  
ナラサル可カラサルナリ例ヘハ予ハ選被選ノ資格ナキモ甲者ニ投票  
ヲ得セシメント欲シ乙選舉者ニ金錢ヲ贈與シテ甲者ニ投票セシメタ  
ル場合ニハ予モ乙者モ共ニ本條ヲ以テ罰セラル、ナリ

敢テ問フ賄賂ヲ收受シ又ハ收受スルハ約束ヲ爲シテ投票權ヲ拋棄シタル時ハ本條ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得ルカ曰ク此等ノ所爲ハ之ヲ罰スルノ必要アリト雖モ本條ニハ「……投票ヲ爲サシム又ハ……投票ヲ爲シタル者云々」ト有ルニヨリ本條ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得サルナリ

又問フ賄賂ヲ授與シテ投票ヲ爲ストテ抑止シタル者又ハ賄賂ヲ收受シテ投票ヲ爲サシムル者ハ本條ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得ル乎曰ク本條ニハ此等ノ所爲ヲ包含スルヲ無シ但シ明治二十二年二月法律第三號衆議院議員選舉法第九十一條同年同月法律第六號府縣會議員選舉罰則第六十條同二十三年五月法律第三十九號市町村會議員選舉法第三十九條并ニ同年同月法律第四十一號ニ於テ衆議院議員府縣會議員并ニ市町村會議員ノ選舉上本問ノ場合ヲ生スルルハ本條ヲ適用スルヲ

トナリタリ

以上掲載シタル法律ニハ本條ノ想像セサル賄賂ノ收受又ハ收受ノ約束ニ於ケル所爲ヲ罰スルノミナラス投票ニ關スル種々ノ所爲ヲ罰スルヲ見ル試ミニ之ヲ一讀セヨ大ニ本條ノ精神ヲ探知スルノ材料ト爲ルヘシ

第二百三十五條 投票ヲ検査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條 調査ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐偽ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前條及ヒ本條ハ前諸條ニ比スレハ其刑大ニ重シ惟フニ投票ヲ検査シ及ヒ其數ヲ計算スル者ニシテ投票ヲ偽造シ又ハ増減シ若シハ調査ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者ニシテ投票ノ數ヲ増減スル等ハ事甚タ

爲シ易シ而シテ其罪ノ發覺ニ至リテハ難シ是ヲ以テ其刑ヲ重クシテ之ヲ罰スルニ非サレハ不正ノ徒其犯シ易キニ乘シテ奸詐ヲ逞フスルニ至ル可シ是レ兩條ノ刑ノ大ニ重キ所以ナリ  
此兩條ニ付キ別ニ必要ノ問題ナシ次章ノ解ニ移ラン

### 第五章 健康ヲ害スル罪

健康ヲ害スル罪トハ公クノ健康ヲ害スル所爲ヲイヒ一私人ノ健康ヲ害スル所爲ノ如キハ本章中ニ包含セス例スルニ藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル所爲毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル所爲又ハ健康ヲ害スヘキ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル所爲ノ如キハ一私人ノ健康ニ關係スルカ故ニ本章ハ之ヲ規定スルヲ無シ之ニ反シテ阿片烟ヲ販賣スル所爲飲料ノ淨水ヲ汚穢スル所爲又ハ健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル所爲等ハ直接ニ社會ノ健康ニ危害ヲ及ボスヲ

以テ此等ノ所爲ヲ罰センカ爲メ本章ヲ規定シタルモノトス

### 第二節 阿片烟ニ關スル罪

阿片烟ノ害ハ予ノ曠々ヲ要セスシテ既ニ人ノ知ル所ナリ聞クカ如クソハ之ヲ吸食スレハ精神恍惚醉ヘルカ如ク其快言フ可カラサルモノ有リテ一タヒ其味ヲ知ルルハ復タ罷ムルヲ得サルニ至ルト是レ彼ノ支那ノ人民カ阿片烟ニ關シテ終ニ其土壤ヲ割キテ英國ニ與フルノ結果ヲ生スト雖モ尙ホ其嗜好ヲ絶ツヲ得サル所以ナリ我立法者深ク阿片烟ノ害毒ノ邦内ニ傳播センヲ憂ヘ之ヲ嗜ムノ惡慣未タ成ラサルニ先キタチ嚴刑ヲ設ケテ以テ之ヲ防カンヲ期ス即チ其重キモノハ無期徒刑ヲ以テ之ヲ罰スルニ至ル是レ刑其物ヨリ觀レハ殆ト野蠻ノ法律ノ如キ嚴酷ナルニ非サルヤノ疑アリ然レモ大害豫防ノ一方便トシテハ或ハ已ム可カラサル者アラシ

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ

有期徒刑ニ處ス  
本條ハ阿片烟ノ輸入者及ヒ製造者又ハ販賣者ヲ罰スル所ノ條文ナリ  
阿片烟トハ藥用品ノ阿片其物ニアラス藥用品ノ阿片ハ官許ヲ得レハ  
之ヲ販賣スルヲ得故ニコ、ニ所謂阿片烟ハ吸食ニ供スル所ノ者ナ  
リ以下條文ニ記スル所ミナ然リ

前ニ一言シタルカ如ク我立法者ハ阿片烟ノ害毒ノ本邦ニ傳播セシ  
ヲ豫防スルニ出テ、本條以下ノ罪ヲ定メタリ因リテ立法者ハ本罪ノ  
刑ノ輕重ヲ定ムルニ於テモ亦標準ヲ害毒傳播ニ取レリ乃チ傳播ノ度  
ノ多少ハ刑ノ輕重ヲ成ス本條ノ罪ハ阿片烟ニ關スル罪ノ中ニ就キテ  
其刑最モ重シ是レ阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ販賣スルノ所爲ハ  
之ヲ以下諸條ニ見ル所ノ器具ノ輸入及ヒ製造又ハ販賣ノ所爲ノ如キ  
或ハ吸食スル如キ者ニ比スレハ害毒ヲ傳播スルヲ甚タ速ニ一般的健

康ヲ害スルノ度最モ大ナルヲ以テナリ

第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之  
ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

阿片烟ヲ吸食スルノ器具ハ阿片烟其物ヲ吸食スルノ用ヲ爲ストハイ  
ヘ其物タル吸食者自ラ之ヲ製作スルヲ得可ク必スシモ輸入者製造  
者又ハ販賣者ノ手ヲ藉ルヲ要セス聞ク所ニヨレハ器具ナシト雖モ吸  
食スルヲ得サル者ニアラスト故ニ其器具ノ輸入製造又ハ販賣ノ所爲  
ハ之ヲ阿片烟其物ノ輸入製造又ハ販賣ノ所爲ニ比スレハ害毒傳播ノ  
度稍少カラサルヲ得ス是レ輕懲役ノ刑ヲ科スル所以ナリ

第二百三十九條 税關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタ  
ル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

凡ソ輸入品ハ税關官吏ノ手ヲ經由スルモノナルカ故ニ該官吏ニシテ  
阿片烟又ハ其器具ナルヲ知リテ之ヲ輸入セシメタルモノハ背徳加  
害ノ點ニ於テ最モ大ナリト謂ハサルヲ得ス是レ前二條ノ刑ニ照シ各

一等ヲ加フル所以ナリ  
 情ヲ知テ……………輸入セシメタル者トハ如何ナル場合ヲ想像シタルモ  
 ナリヤ例ヘハ税關官吏カ賄賂ヲ收受シテ阿片烟又ハ其器具ノ輸入  
 ヲ幫助シ又ハ特ニ他ノ道ヲ指教シテ上陸セシムルカ如キハ勿論之ヲ  
 想像シタルヲ知ル然レモ該官吏カ唯其輸入ヲ知リ又ハ見ツ、默許シ  
 テ輸入者ヲ上陸セシメタル場合ヲモ想像シタリヤ普通ノ解釋ヨリ云  
 ヘハ官吏ノ此種ノ所爲ハ刑法ニ問ハスシテ懲戒例ニ問フテ至當トシ  
 本條規定ノ罪ノ如キ非常ニ重キ刑ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得サルカ如  
 シ然レモ刑重クシテ犯罪ノ性質ト權衡ヲ得サルハ本罪一般ノ事ナレ  
 ハ刑ノ重キ故ヲ以テ此場合カ本條ニ包含スルヲ無シト論スヘカラス  
 況ヤ佛文案案ニハ輸入ヲ容易ナラシメタル者云々ト有リテ此場合ノ  
 如キモ之ヲ想像シタルヲ知了スルヲ得ルニ於テテヤ要スルニ税

關官吏カ阿片烟又ハ其器具ノ輸入ヲ知リ又ハ見ツ、之ヲ答メサルハ  
 所爲ハ方法ヲ指教シ又ハ幫助シテ以テ輸入セシメタル所爲ニ比スレ  
 ハ大ニ輕シト雖モ本罪規定ノ精神ヨリ推定シ本條ハ罪トシテ之ヲ論  
 セサル可カラズ

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕  
 懲役ニ處ス

人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ  
 本條第一項ノ所爲ハ普通從犯ノ變例ナリ夫レ房屋ハ阿片烟吸食ノ爲  
 メニ必須ノ條件ニアラスト雖モ然レモ房屋アルヲ以テ甚々便利ト爲  
 ス或ハ因リテ以テ人ノ知ル所トナラサルヲ得ヘク或ハ因リテ以テ  
 睡眠スルヲ得ヘシ是ヲ以テ房屋ヲ給與スルノ所爲ハ吸食者ノ從犯  
 タル資格ヲ有ス即チ普通從犯トシテ之ヲ罰センカ本罪規定ノ精神ニ  
 背ク何トナレハ房屋ヲ給與シテ犯罪ヲ容易ナラシムル所爲ハ自ラ吸

食スル者ニ比シテ害毒傳播ノ度更ニ弘大ナルモノ有レハナリ況ヤ本  
 條ノ罪ハ房屋ヲ給與シテ以テ利ヲ圖ルニアレハ其傳播ノ速ニ且大ナ  
 ルヲ自ラ吸食スル者ト同日ノ論ニアラサルニ於テチヤ是レ正犯即チ  
 吸食者ノ刑ヨリモ一層重キ刑ヲ以テ之ヲ罰スル所以ナリ  
 利ヲ圖ル云々ト有リ故ニ房屋ヲ給與スルモ利ヲ圖ルニ非サル時ハ本  
 條ノ罪ニアラス是レ普通從犯ニシテ次條即チ第二百四十一條ノ刑ヨ  
 リ一等ヲ減スルモノトス蓋シ房屋給與ハ害毒傳播ノ恐アリト雖モ然  
 レモ利ヲ圖ル者ト否ラサル者トチ區別セサル可カラサルナリ  
 第三項ハ所爲ハ教唆ノ例外ナリ何トナレハ人ヲ引誘シテ阿片煙ヲ吸  
 食セシメタルノ所爲ハ即チ是人ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシメタルモノ  
 ナレモ其刑却テ吸食者ヨリ重クレハナリ本項ノ所爲ハ既ニ教唆ノ關  
 係ヲ有スルヲ以テ其引誘カ被教唆者即チ吸食者ノ精神ニ勢力ヲ及ホ

シタルヲ想像セサル可カラス故ニ單タ人ニ對シテ此阿片煙ヲ吸食  
 セヨトイヒテ毫モ吸食者ノ精神ニ勢力ヲ及ホサル者ノ如キハ本項  
 ノ罪ニアラス又本項ハ唯吸食ニ關スル教唆ノ例外ナリ故ニ輸入製造  
 又ハ販賣等ノ教唆ハ正犯ト同シク罰セラル

第二百四十一條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮  
 ニ處ス

自ラ好ミテ阿片煙ヲ吸食スル者ハ自ラ害毒ヲ受クルヲ甘スルモノ  
 ナリ即チ法律ハ之ニ對シテ刑罰ヲ設クルノ理ナキカ如シ自ラ好ミテ  
 阿片煙ヲ吸食スル者ハ猶ホ自殺者ノコトク法律ハ自殺又ハ自殺ノ未  
 遂ヲ罰セサルニ非スヤ即チ本條ノ規定ハ無用ニ似タリ而シテ決シテ  
 然ラサルモノアリ蓋シ人一タヒ阿片煙ノ味ヲ感スレハ復タ之ヲ忘ル  
 ハ、トチ得スシテ數之ヲ喫シ遂ニ他人ニ傳播スルノ恐レアシハナリ是  
 レ本條ヲ設ケテ之ヲ罰スル所以ナリ

過テ飲料ニ汚穢スル者ハ  
ノ飲料ニ汚穢スル者ハ  
水ヲ汚穢スル者ハ  
供給スル者ハ  
ハサシメタル者ハ  
至ラズル者ハ  
本條ノ罪ニ  
トナルカ

(第二百四十二、三條) 第二編 第五章 第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪 四八四  
第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ  
一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス  
阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有スル者又ハ受寄シタル者モ亦害毒傳播  
ノ危険アリ故ニ本條ヲ以テ之ヲ罰ス

### 第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

飲料水ノ一般的健康ニ大ナル關係ヲ及ホスト固ヨリ予ノ喋々ヲ要セ  
ス本節ハ其飲料ニ供シタル淨水ヲ汚穢スル所ノ罪ナリ

#### 第二百四十三條

人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルヲ能  
ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二回  
以上五回以下ノ罰金ヲ附加ス

過テ人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルヲ能ハサルニ  
至ラシメタル者ハ本條ノ罪トナルカ曰ク否無意ノ所爲ニシテ本條ノ  
如キ重キ刑ヲ以テ罰セラルトセハ誰カ之ヲ至當トセシヤ我法律ハ  
人ヲ殺傷シタル場合ト雖モ過失ニ出ツルトハ纔ニ罰金ノ刑ヲ科スル

有意犯

ニ過キス而ルヲ況ヤ飲料水ヲ汚穢セシメタル所爲ヲヤ故ニ本條ハ罪  
ハ有意犯ナリ但シ故意ヲ以テ足レリトス草案ニハ明ニ故意ノ文辭ア  
リタレト之ヲ削除シタルハ遺憾ナリ之ヲ要スルニ過失ナラサル時ハ  
總テ本條ヲ以テ之ヲ罰スルモノトス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐  
敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三回以上三十回  
以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ故意ヲ以テ飲料水ノ質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル犯罪ニシテ  
其水質ノ變又ハ腐敗ヲ來タシタルハ健康ヲ害スヘキ物品ヲ用非タル  
ニ由ルヲ要ス敢テ問フ犯罪者ハ其物品カ健康ヲ害スヘキ者ナルト  
ヲ知ルヲ要スルカ曰ク否苟モ健康ヲ害スヘキ物品ヲ用非而シテ其結  
果トシテ水質ノ變又ハ腐敗ヲ來タシタル時ハ健康ヲ害スヘキ物品ナ  
ルヲ知ラスト雖モ本條ノ罪ヲ成ス但シ健康ヲ害ス可キ物品ナルト

(第二百四十五、六條) 第二編 第五章 第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪 四八六

ヲ知リタル場合ニ於テ殺意アル時ハ或ハ毒殺罪ノ既遂又ハ未遂ヲナ  
ス可有ルヘシ、之ヲ要スルニ本條ノ罪ハ前條ト同ク故意アルハ則チ  
成立シ而シテ健康ヲ害スヘキ品物ナルトヲ知ルト否トハ之ヲ問ハサ  
ルナリ、

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ  
毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス  
本條ニハ別ニ必要ナル問題ナシ

### 第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

本節ノ規定ハ別ニ詳細ナル規則アルトテ想像シタルモノナリ而シテ  
本節ハ唯其中ニ就キテ最モ重大ナル罪ヲ規定シタルニ過キス

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船  
舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ  
輕禁錮ニ處シ又ハ二十回以上二百回以下ノ罰金ニ處ス  
本條ニ輕禁錮ニ處シ又ハ.....罰金ニ處スト有リ是レ迄規定セラレ

タル科刑法ヲ見ルニ禁錮若クハ罰金ノミヲ科スルカ又ハ禁錮ニ罰金  
ヲ附加スルヲ以テ常トシタリシカ本條ニ於テハ又ハ大ナル文辭ヲ用  
井テ裁判所ニ輕禁錮ト罰金トヲ擇ハシムルノ權ヲ與フ蓋シ一變例ノ  
科刑法ナリ  
本條ハ犯罪ハ無意犯ナリ故ニ偶然規則ニ違反シタルト雖モ罰セラ  
ル

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制セ  
サル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

明瞭ナルヲ以テ講説ヲ省ク

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他  
所ニ出テタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十回以上  
百回以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ人ノ流行地方ヨリ他地方ニ出テタルトノミヲ想像シ而シテ物  
品ヲ流行地方ヨリ他地方ニ運搬セシメタル所爲ヲ想像セス缺典ト謂

(第二百四十七、八條) 第二編 第五章 第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪 四八七



(第二百四十九、五十條)第二編第五章第四節危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪 四八八  
ハサレ可カラズ

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ク際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
本條モ亦甚々簡明ニシテ講說スルヲ要セサル所ノ條文ナリ

#### 第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

本節ノ規定モ亦他ニ特別法アルトテ想像シタル者ナリ

第二百五十條 官許ヲ得シテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ニ官許ヲ得シテ云々トアリ故ニ官許ヲ得ル者ハ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設スルモ罪トナラス官許ヲ得ルノ手續ハ特別法ノ規定スル所ナリ乃チ本條ハ特別法ハ在ル有リテ始メテ活動スル所

危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ノ文辭ニ冠ラシメテ解スルカ

ハ法文ナリトス

「危害ヲ生ス可キ」トイフ文辭ハ物品ナル文辭ニ冠ラシメテ解スヘキカ又ハ製造所ナル文辭ニ冠ラシメテ解スヘキカ法文ニテハ物品ナル文辭ハ「危害ヲ生ス可キ」トイフ文辭ニ接續スルカ故ニ物品ナル文辭ニ冠ラシメテ解スヘキカ如シト雖モ其實製造所ナル文辭ニ冠ラシムルヲ正解トス即チ危害ヲ生ス可キ製造所ト解セザレハ則チ本條ノ精神ヲ貫徹スルヲ得サルニ至ルヘシ蓋シ危害ヲ生スヘキ物品ヲ製造スルモ製造方法ニヨリテハ毫モ危害ヲ生スルヲ無ク即チ其製造所ハ毫モ危険ヲ生セサルヲ往々ニシテ之レ有リ毫モ危険ヲ生セサル製造所ナル者ハ危害ヲ生スヘキ物品ノ製造ニ從事スルモ之ヲ罰スルノ必要無カ  
ル可シ此ノ如ク物品ハ毫モ危険ヲ生セスト雖モ製造所其物ハ大ニ危険ナルヲ有リ例ヘハ石鹼製造所ノ如キ石鹼其物ハ毫モ危害ヲ生ス可

(第二百五十條)第二編第五章第四節危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪 四八九

危害ヲ生

キ物品ニアラサレモ製造所其物ハ大ニ危険ナルコト有リ其他蒸氣機關  
 ヲ備付クル製造場塵埃ヲ生シ又ハ地ノ動搖ヲ起ス可キ工場ノ如キ  
 ハ其製造スル所ノ物品ノ何タルヲ論セス或ハ健康ヲ害シ危険ヲ生ス  
 ルコトアリ法律ハ此ノ如キ製造所ノ創設ニ關シテコレヲ刑罰ヲ設クルノ  
 必要アレモ毫モ危険ナキ製造所ヲ創設シタルニモ拘ハラズ其製造スル  
 所ノ物品ノ危害ヲ生ス可キカ爲メニ之ヲ罰スルハ不當ノ事ト謂ハサ  
 ル可カラス之ヲ佛文章案ニ徵スルニ物品ナル文辭ナク唯危険ナル工  
 作場云々ノ文辭ヲ見ルノミ今本條ニ物品ノ文辭アレモ爲メニ草案ノ  
 精神ヲ變更シタルモノト見ルコト得ス之ヲ要スルニ本條第一項ハ官  
 許ヲ得スシテ物品製造所ハ危害ヲ生ス可キモノヲ創設シタル者ハ云  
 々ト讀マハ則チ可ナラン  
 敢テ問フ危害ヲ生ス可キ製造所トハ如何ナル種類ハモノナリヤ法文

造スヘキ  
類如何種製

ニテハ之ヲ知ルヲ得ス即チ裁判所ノ解釋ニ任セサル可カラサル歟斯  
 ノ如ク簡單ニ斷了スルハ大ニ危険ナリ若シ裁判所カ其解釋ヲ嚴重ニ  
 シ其危険カ社會ヲ害スルニ足ラサル者ヲモ悉ク本條中ニ包含セシム  
 ルモハ製造所ハ殆ト起ラサルヘク工業ノ振興ヲ害スルニ至ルヘシ之  
 ニ反シテ裁判所カ其解釋ヲ寬ニシ危険已ニ社會ヲ害スルニ足ルモノ  
 ヲ本條ニ問ハサルモハ社會ノ安寧ヲ維持スルヲ得サルニ至ル可シ是  
 ニ由リテ之ヲ觀レハ本條ハ危害ヲ生ス可キ製造所ハ特別法ヲ以テ其  
 種類ヲ定ムヘキモノトス本節ノ題目ニ危害品云々ノ規則ニ關スル罪  
 トアルニ由リテ其然ルヲ知ル可シ然リ然リト雖モ未タ其特別法  
 ノ公布アルヲ見ス故ニ已ムヲ得ス裁判所ノ解釋ニ一任スルノ外無シ  
 之ヲ佛國ノ法ニ徵スルニ其法律ニテハ所謂官許ヲ要スル製造所ヲ三  
 箇ニ區別シ裁判所ヲシテ適從スル所ヲ知ラシム立法上大ニ參考トチ  
 (第二百五十條)第二編第五章第四節危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪 四九一

ル可キモノナレハ左ニ之ヲ掲ケン

第一健康ニ害アル製造所即チ人ノ健康ニ害アル惡水惡烟若クハ臭氣惡質ノ蒸氣ヲ發出スル製造所コレナリ

第二危險ナル製造所即チ火藥硝石及ヒ瓦斯又ハ火災ヲ生シ易キ危害ヲ生ス可キ製造所是ナリ某國ニテハ金屬鑄造所及ヒ若干馬力ノ蒸氣器械ヲ用井ル製造所ヲモ此部ニ加フ

第三他人ノ迷惑ヲ生ス可キ製造所即チ塵埃若クハ薪石炭ノ煙又ハ鳴響等ヲ發スルニ因テ人ノ妨害ヲ爲ス製造所コレナリ

以上述べタルカ如ク我邦ニテハ危害ヲ生ス可キ製造所ニ關シテ一般ニ公布セラレタル法律ヲシ然レモ府縣中警察上ヨリシテ製造所創設ノ規則ヲ定ムルモノ有リモ此規則ニ背キ允許ヲ得スシテ製造所ヲ創設シタル時ハ如何詳言スレハ此規則ニ於テ危害ヲ生スヘキ製造所

ト見做シ許可ヲ受ク可キノ手續アルニ之ニ背キテ許可ヲ得スシテ擅ニ創設シタル時ハ裁判所ハ其所爲ヲ以テ違警罪トシテ罰ス可キヤ或ハ本條ノ罪トシテ罰ス可キヤ此問題ハ二様ニ區別シテ之ヲ論セサル可カラス若シ府縣知事カ其事ヲ規定スルハ權限アルハ則チ本條ノ罪トナルヘク反之知事其權限ナキモ其所爲タル單々警察規則ニヨリテ處斷ス可キモノニシテ本條ヲ適用スルハ限ニ在ラス要スルニ其規則ノ性質ニ從ヒテ本條ヲ適用スルト否トヲ定メサルヘカラサルナリ

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

以上兩條ハ簡明ナルヲ以テ敢テ解説ヲ爲サス

### 第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ナ

(第二百五十一、二條)第二編第五章第五節健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪 四九三

### 販賣スル罪

人ノ健康  
ヲ害ス可  
キ物品ト  
ス如何

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シ  
 一人ノ健康ヲ害ス可キ物品トハ如何ナル種類ノモノナリヤ、前節ノ所謂  
 危害ヲ生スヘキ製造所ノ解釋ノ如ク特別法ヲ以テ之ヲ定ム可キ者ナ  
 リヤ、曰ク否、何ヲ以テ之ヲ謂フ曰ク元來危害ヲ生スヘキ製造所ノ如何  
 ナル物ナリヤヲ知ルハ實ニ専門家ヲ要シ裁判所ノ容易ニ知了スルヲ  
 得サルモノナリ加之此ノ如キ規定ハ多少人ノ自由若クハ所有權ニ對  
 シテ制限ヲ加フルモノナルカ故ニ豫メ特別法ヲ設ケテ其製造所ノ種  
 類并ニ允許ノ手續等ヲ定ムルノ要アリトス之ニ反シテ本條ノ所謂人  
 ノ健康ヲ害ス可キ物品ノ如何ナル者ナリヤノ如キハ容易ニ知ルヲ得  
 ル所ニシテ敢テ専門家ノ解釋ヲ要セス加之凡ソ此種ノ物品ハ其數非  
 常ニ多ク到底規則ヲ以テ之ヲ豫定スルヲ得サルヘシ是故ニ本條ハ

他ニ特別法アルヲテ想像セス人ノ健康ヲ害スヘキ物品ナルヤ否ヤハ  
 裁判所ノ認定ニ任スル者トス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上  
 百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ前條ト異ニシテ特別法ト相待チテ活動スル所ノ條文ナリ

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者  
 ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條モ亦甚々明晰ナル法文ナリ

### 第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

醫業ハ人ノ生命ニ關スル所ノモノナルカ故ニ之ヲ開クニハ成規ノ學  
 校ヲ卒業シ又ハ成規ノ試験ニ及第シ而シテ官許ヲ得ルヲ要ス然レ  
 世間往々官許ヲ得スシテ之ヲ爲ス者アリ本節ハ即チ之ヲ制裁スル  
 所ノ規定ナリトス

第二百五十六條 官許ヲ得ズシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以  
 下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪  
構成條  
件

「醫業」トハ醫ヲ以テ平生ノ營業トスルヲ謂フ、是故ニ官許ヲ得スシテ病人ヲ診斷シ藥劑ヲ投スルモ唯一時ノ事ニシテ營業トシタルニアラサ  
レハ本條ノ罪ヲ成サス例ハ醫ニアラサル者カ急病人ヲ救ハンカ爲  
メニ藥ヲ投シタリトセン此ノ如キハ一時醫ヲ爲シタリトイヒ得ルモ  
醫ヲ營業トナシタルニ非サルヲ以テ之ヲ罰スルヲ得ス、本條ニハ唯  
醫業ヲ爲シタル者トノミアレハ草案ニハ常ニ云々ノ文辭アリテ特ニ  
明瞭ナリキ之ヲ要スルニ本條ノ罪ヲ成スニハ官許ヲ得サルヲ及ヒ醫  
ヲ以テ營業ト爲シタルトハ二箇ハ條件ヲ要スル者ト知ル可シ、  
醫業ハ内外科ヲ總稱スルモノナリ故ニ産婆、按摩等ノ營業ニ關シテハ  
本條ノ包含スル所ニアラス

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シム  
ル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス  
治療ノ方法ヲ誤リ云々是レ固ヨリ事實論ナリ、今官許ヲ得スシテ醫業

ヲ爲シタル者治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺  
傷ノ各本條ニ照シ重キニ從ヒテ之ヲ罰スルハ本條ノ明言スル所乃チ  
此レヨリシテ官許ヲ得テ醫業ヲ爲シタル者ハ假令治療ノ方法ヲ誤リ  
テ人ヲ死傷ニ致スモ過失殺傷ヲ以テ處斷スルヲ得サルノ結果ヲ生  
ス夫レ人ニハ過失ナキヲ保セス然ルヲ官許ヲ得タル醫者ト官許ヲ得  
サル醫者トノ間ニ於テ此ノ如ク全ク相反背スル結果ヲ來タスハ甚ダ  
不都合ニ非サル無キヲ得ンヤ然レハ熟考スレハ此ク全ク相反背セル  
結果ヲ見ルハ立法上ニ於テ論理ニ合スルモノ有ルヲ知ル、抑、醫ノ疾ヲ  
診スルヤ其難症ハ言フマテモ無ク假令輕症ニテモ診斷其方ヲ誤マリ  
治療其道ヲ註マル者ナキニ非ス官許ヲ得タルモノ未タ必スシモ誤診  
ナキヲ保スヘカラス、官許ヲ得サル者亦未タ必スシモ診斷其道ニ合セ  
ズトイフ可カラス、十名醫ノ診斷一庸醫ノ診斷ニ如カサルトモ亦未タ

之レ無シト謂フヘカラス然レモ等シク官許ヲ得タル醫者ナル時ハ何  
 レモ同一資格ヲ有シ同一地位ニ在ル者ナリト謂ハサルヘカラス既ニ  
 同一資格ヲ有シ同一地位ニ在ル醫者ノ間ニ於テ治療ノ方法ニ付キ其  
 意見ヲ異ニスト雖モ孰カ是孰カ非彼レ正ニシテ此レ誤ナリトイフ  
 ハ殆ト之ヲ判別スルコトヲ得サルモノナリ故ニ官許ヲ得タル醫者ニ對  
 シテハ裁判所ハ誤診アリトシテ即チ治療ノ方法ヲ誤マリタリトシテ  
 過失罪ニ問フコトヲ得サルナリ是レ實ニ理ノ當ヲ得タルモノト謂ハサ  
 ルヘカラサルナリ反之官許ヲ得スシテ醫ヲ業トスルモノハ固ヨリ醫  
 タルハ資格ナシ故ニ其診斷ニ付キテハ是非正ト誤トヲ判別スルコ  
 トヲ得サルニアラス是レ即チ本條ノ規定ヨリ生スル結果ニ關シ立法上  
 敢テ不都合ニアラサル所以ナリ  
 然レモ諸君ハ以上ノ問題ニ付キ深ク注意セサル可カラス官許ヲ得タ

ル醫者ニシテ治療ノ方法ヲ誤リ人ヲ死傷ニ致シテ罪トナラサル場合  
 ハ彼ノ診斷ヲ誤リタルカ如キ或ハ誤診ノ結果トシテ投劑其方ヲ誤ル  
 カ如キ場合タトヘハ虎列刺病ヲ誤診シテ腸胃加答兒トイヒ從ヒテ虎  
 列刺ニ用井ル藥ヲ投セスシテ腸胃加答兒ニ用井ル藥ヲ與ヘタルカ如  
 キ場合ニ限リ彼ノ藥種ヲ誤用シ又ハ手術ヲ錯行シタル場合ハ如キ例  
 ヘハ腸胃加答兒ト診斷シツ、誤リテ虎列刺ニ用井可キ藥ヲ與ヘタル  
 カ如キ指ヲ截斷スベキ手術ヲ施スニ當リ過チテ他ハ四指ヲ截斷シ  
 タルカ如キハ即チ是レ純然タル過失罪ニシテ第三百十七條以下ノ刑  
 ト加フ可キモノトス

以上ニテ第五章健康ヲ害スル罪ノ講ヲ終了ス爰ニ一言スヘキ有リ本  
 章ノ罪タル多クハ他ニ特別法アルヲ想像シテ之ヲ規定シタル者ナリ  
 而シテ其中ニハ今日ニ至ルマテ尙ホ特別法ノ公布ナクシテ活動スル

ヲ得サル所ノ條文アリ凡ソ此種ノ法律ハ特別法ノ改正ト共ニ數其適用ヲ變シ又ハ其規定ヲ無用ニ歸セシムル等ノ恐アリテ之ヲ普通法ナル刑法ノ中ニ列擧スヘキ價值ヲ有セサル者ナリ傳染病豫防規則ニ關スル罪、危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪ノ如キ最モ然リトス異日本法改正ノ期到ラハ本章ハ著ク變更ヲ見ルヘキ箇所ノ一ナリト思考ス此事ニ關シテハ曾テ第五條ノ下ニ於テ一言シタルトアリ彼此參照セラレシムルヲ望ム

### 第六章 風俗ヲ害スル罪

本章ノ規定スル所ノ罪ハ猥褻賭博又ハ神佛ニ對スル不敬ノ所爲略言スレハ社會ノ美俗良風ヲ害スル所ノモノナリ

第二百五十八條、公然猥褻ノ所業ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス  
猥褻ハ所業ナル文辭ニ定義ヲ下ス下ハ蓋シ困難ハ事ト謂フ可シ然レ

公然ノ解

凡本條及ヒ次條ニ用井ル所ニ就キテ之ヲ解スレハ猥褻ノ所業トハ淫事ニ關シテ見ルニ堪ユ可カラサル醜行ヲ謂フナリ其指ス所大ニ廣シト雖モ之ヲ基トシテ本條ヲ解釋スルトテ要ス若シ夫レ其類例ノ如キハ予之ヲ言フヲ難カル所ナリ  
本條ハ罪ハ公然トハ一條件ナクハ則チ成立セサルナリ蓋シ猥褻ノ所爲タル固ト淫事ニ關スル者ニシテ人間ノ自然的情慾ノ結果ナレハ之ヲ秘密ニ行ヒテ人ヲ知ルテ能ハサラシムル時ハ敢テ之ヲ罪トスルノ必要ナシ然レモ若シ之ヲ公然ニ行フ時ハ社會淳良ノ風廉耻ノ俗ヲ紊ルニ至ル是レ此罪ニ公然ナル一條件ヲ要スル所以ナリ敢テ問フ公然トハ如何ナル義ナリヤ曰ク公然ノ文辭ハ本法中之テ處々ニ見ル而シテ其場所ニヨリテ各解釋ヲ與ヘサル可カラズ本條ニ所謂公然ナル文辭ハ場所ハ公クナルト又ハ公衆ハ目撃シ得ヘキ場所ト解

不可、例へハ人ノ往來スヘキ路上ニ於テ猥褻ノ所業ヲ爲ス者ハ偶々人ノ往來セサル時若クハ暗夜咫尺ヲ辨セサル時ト雖モ亦罪トナル何トナレハ場所其物ハ公ケニ屬スルヲ以テナリ又タトヘハ戸障子ヲ開放シタル家屋内ニ於テ猥褻ノ所業ヲ爲ス時モ亦場合ニヨリテ罪トナル即チ其戸障子ヲ開放シタルカ爲メ公衆ニ目撃シ得ラル、時ハ家屋其物ハ公ケノ場所ニ非スト雖モ亦罪トナルカ如シ之ヲ要スルニ公然ナルヤ否ヤニ關シテハ必ス實際上數多ノ疑問ヲ生スヘシト雖モ上ニ與ヘタル解釋ヲ以テ標準ト爲サハ則チ庶幾クハ大過チカラズ歟本條ハ罪ハ有意犯ナリ故ニ公然ハ外尙ホ故意ヲシ一條件ヲ要ス例ヘハ室内ニ於テ猥褻ノ所業ヲ爲シタル時偶々風ノ爲メニ障子ヲ吹キ飛ハサレテ其所業ヲ顯ハシタルカ如キハ故意ニ爲シタルニアラサルヲ以テ其所業カ公衆ノ目撃スル所トナリ公然ナル條件ヲ充タスト雖モ尙

ホ罪トナラサルナリ草案ニ故意ヲ以テ云々ノ文辭アリシニ之ヲ削除シタルハ遺憾ト謂フ可シ

第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ本條ノ公然トイフ文辭モ亦前條ト同意義ニ解釋スヘシ故ニ自家ノ室内ニ陳列スルモ罪トナラス

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條及ヒ次條ハ賭博ニ關スル法文ナリ此兩條ハ本法ノ頒布後特別法ノ爲メニ其効力ヲ停止セラレテ二十二年六月マテ不用ノ條文ナリキ然レハ此兩條ヲ解スルニ先キタテテ其次第ヲ叙スルハ敢テ無用ノ辯ニアラスト思考ス願ミレハ本法頒布ノ當時ハ彼ノ封建時代ヨリ繼續シ來リタル所ノ博徒尙ホ天下ニ普ク黨ヲ結ビ類ヲ聚メテ其勢甚ク猖獗良民ヲ害スル丁實ニ少小ニアラス初メ我立法者ハ賭博其物ハ本質



ヨリ又ハ他罪トノ比較上ヨリシテ本條及ヒ次條ノ刑ヲ設ケタリシカ  
 斯ノ如キ輕キ刑ニテハ到底其勢ヲ防遏スルニ足ラサルヲ以テ十七年  
 第一號ヲ以テ賭博犯處分規則ヲウモンヲ發布シテ此兩條ノ適用ヲ停  
 止シ此罪ノ處分ヲ行政警察官ニ一任スルニ至レリ抑此規則ハ上ノ如  
 キ必要上ヨリシテ設ケタルモノナルカ故ニ其刑極メテ苛酷加之治罪  
 上一般被告人ニ與ヘタル辯護人任用控訴上告等諸種ノ權利ヲ奪ヘリ  
 實ニ人ヲシテ一見野蠻的法律タルヲ慨セシム凡ソ此ノ如キ法律ハ一  
 時ノ必要ニ迫ラレテ設ケタル者ナレハ其必要ナキニ至レハ一日モ早  
 ク之ヲ廢止セサル可カラズ爾來年ヲ經ルニ從ヒ博徒殆ト其跡ヲ絶チ  
 賭博ハ唯普通人ノ間ニ行ハル、ニ過キサルヲ以テ終ニ二十二年法律  
 第十七號ニテ此規則ヲ廢止セリ此ニ至リテ本條及ヒ次條ハ再ヒ其効  
 カチ有スルニ至リタリ

賭博ヲ問  
 由スルノ理

賭博罪ハ前段ニ述ヘタルカ如ク本邦ニテハ非常ニ重ク之ヲ罰シタル  
 有ルノミナラス現行法ニ於テモ尙ホ本條及ヒ次條ヲ設ケテ之ヲ罪  
 トナセリ夫レ此賭博ナル所爲ハ立法上之ヲ罪トシテ論ス可キ者ナリ  
 ヤ否ヤハ學者間議論アル所ナリ然レ賭博ナルモノハ元來其種類及  
 ヒ方法ノ如何ヲ論セス大ニ社會ヲ害スル所ノモノナリ即チ善良ノ風  
 俗ヲ害スル所ノモノナリ蓋シ賭博ハ唯一時ノ僥倖ヲ之レ希ヒ偶生ノ  
 利益ヲ博スルヲ之レカメ游惰ニ流レテ家産ヲ治メス其一輪一贏適  
 以テ益進ミテ賭博ヲ爲ス念慮ヲ旺盛ナラシムル所ノ媒トナル一方ヨ  
 リ之ヲ觀レハ是レ賭博者ソレ自身ヲ害スルノミニシテ社會ニ影響ス  
 ル所無キカ如シト雖モ退キテ考フレハ此等ノ惡習一般ノ良民ニ浸淫  
 スルトハ風俗コ、ニ替レ終ニ國家ノ衰憊ヲ醸スノ結果ヲ生ス是ヲ以  
 テ法律ハ豫メ刑罰ヲ以テ之ヲ待シ其惡習ノ一般ニ浸淫スルヲ防ク

トテ勉メサル可カラス、要スルニ賭博罪ナルモノハ道德ニ背戾スルノ  
 點ハ極メテ輕々ニシテ單ニ此點ヨリ論スレハ或ハ罪トシテ問フヘカ  
 ラサルカ如シト雖モ社會ヲ害スルノ點甚タ顯著ナルヲ以テ之ヲ罪ト  
 爲スノ價值アリトス我立法者ノ本條及ヒ次條ヲ設ケタルハ職トシテ  
 之ニ由ル

以上解説スルカ如ク立法者ノ賭博罪ヲ設ケタルハ善良ノ風俗ヲ害ス  
 ルノ點ニ在リ即チ本條及ヒ次條ヲ解スルモ亦此標準ニ由ラサル可カ  
 ラス

賭博ノ解

賭博トハ如何本條ニ於テハ之ヲ知ルヲ得ス次條ニ就キテ之ヲ觀稍  
 其意ヲ窺フヲ得即チ賭博トハ二人以上約束シテ財物ヲ賭シ或ル方  
 法ヲ以テ偶然ニ之ヲ得ル所爲ヲ謂フニ過キス因テ賭博ニハ左ノ性質  
 ナ有スルトテ要ス否ラサレハ則チ本條及ヒ次條ノ罪トナラス

賭博ノ性

二人以上約束シテ之ヲ爲ストテ要ス、一人ニテ財物ヲ賭スルモ以テ賭  
 博ノ目的ヲ達スルヲ得サルナリ

財物ヲ賭シテ之ヲ爲ストテ要ス、其他ノ物ヲ賭スルモ罪トナラス、財物  
 トハ何ソヤ曰ク金錢ニ見積ルヲ得ル物件ハ皆テ所謂財物ナリ、飲食  
 物ハ金錢ニ見積ルヲ得ル物件ナレモ次條ニ於テ之ヲ賭スルモ罪ト  
 セス個ハ次條ニ至リテ解説ス可シ

偶生ノ性質アルトテ要ス、蓋シ賭博ハ決シテ當初ヨリ其輸贏ヲ知ルト  
 能ハス骨牌其他ノ器具ヲ使用シ偶然ニ生シタル數ノ結果ニ因リテ始  
 メテ輸贏ヲ決スル所ノ者ナレハ縱令財物ヲ賭シテ利益ヲ得ルモ偶生  
 ノ事項ヲ目的ト爲シタルニアラサレハ罪トナラサルナリ然レモ偶生  
 ノ性質アルモノ悉ク之ヲ賭博ト謂フ可カラス若シ然リトイハ、民法  
 上ノ射倖契約ハ悉ク賭博ト謂ハサル可カラサルノ結果ヲ生スルニ至

ル可シ豈復々此ノ如キ理アラシヤ夫レ民法上ノ射倖契約中博戯又ハ  
 賭事ト稱スル行爲ハ大ニ刑法上ノ賭博ニ類スト雖モ法律ハ或ル目的  
 ナ有スルニ於テハ適正ノ行爲ト看做ス即チ博戯ニ關シテハ博戯者ノ  
 勇氣力量巧技ヲ發達スヘキ性質アル軀軀運動ヲ目的ト爲シタル時賭  
 事ニ關シテハ賭者ノ直接ニ關係スル農工商業ノ進歩ヲ目的ト爲シタ  
 ル時ハ當事者ノ間ニ訴權ヲ與フ例ヘハ甲乙二人ノ競馬師アリ其技ヲ  
 競フカ爲メニ財物ヲ賭シテ馬ヲ驅リ甲遂ニ贏テ得テ賭シタル財物ヲ  
 得ルカ如ク又畫師兩人アリ共ニ財物ヲ賭シ其揮毫ノ畫ヲ繪畫共進會  
 ニ出シ優等點ヲ得タル者其財物ヲ得ルカ如シ此等ハ一ハ技藝ヲ發達  
 スヘキ軀軀運動ヲ目的トシ一ハ美術ノ進歩ヲ目的トシタルモノニシ  
 テ裨益アリテ其害アルコト無シ凡ソ賭博ノ如ク只財物ヲ得ルノ外他ニ  
 目的ヲ有セサルモノハ風俗ヲ紊ルヘシト雖モ民法上ニ於テ認容シタ

ル博戯又ハ賭事ノ如キハ縱令財物ヲ賭スルモ唯風俗ヲ紊ルコトナキノ  
 ミナラス却テ有益ナル結果ヲ生ス是ニ由テ偶生ノ性質アルモノ悉ク  
 賭博トシテ罰スルニアラス須ク民法上ノ射倖契約ト區別シテ以テ其  
 罪ヲ論セサル可カラサルナリ爰ニ注意スヘキ者アリ以上民法上ノ所  
 爲ハ只當事者間ニ於テ爲シタル時ハ以テ賭博罪ヲ爲サスト雖モ若シ  
 第三者カ此等ノ行爲ニ關シ其勝敗ヲ目的トシテ財物ヲ賭シタル時ハ  
 賭博罪トナルヘシ

以上ノ論決ハ我法文上ニ於テ明了ニ知了スルコトヲ得ス我刑法ノ賭博  
 罪ヲ規定スルヤ次條即チ第二百六十一條ニ單ク「財物ヲ賭シ」云々トス  
 ルニ過キス文辭其物ヨリ觀レハ苟モ財物ヲ賭シテ利益ヲ得ル行爲ハ  
 民法上ノ行爲ト雖モ凡テ賭博罪ナリト謂ヒ得ルカ如シ然レモ文辭ニ  
 拘泥シテ本罪ノ性質ヲ誤ルコトナキヲ要ス

爰ニ賭博罪ノ性質ヲ論了スルニ臨ミ第四百二十八條第四號ト比照シテ一言ス可キ者有リ本號ニ路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者トハ類似賭博ト稱シ得ヘキ者ナリ所謂類似賭博トハ如何凡ソ刑法ニ於テ一所爲ヲ罪ト爲ス場合ニハ明ニ罪ノ定義ヲ示シ若クハ一二ノ種類ヲ示シ以テ此罪ト彼罪ト種別シ又ハ執法家ヲシテ明瞭ナラシムルヲ常トス賭博罪ニ於テモ亦上段論述シタルカ如ク其罪ノ性質ハ刑法ニ依リテ之ヲ知ルヲ得ヘシ而ルニ第四百二十八條第四號ニ賭博ニ類スル云々ト規定シタルハ此所爲ヲ以テ賭博罪ト爲シタルモノナリヤ將タ賭博罪ニアラスト爲シタルモノナリヤ其區別甚タ明ナラス然レモ是レ唯語弊アルニ過キスシテ賭博ニアラサルハ勿論其指ス所モ亦自ラ分明ナリ即チ玉轉ラシノ如キ金錢ヲ出ダシテ以テ之ニ應スル物品ヲ獲若クハ獲サルコトアリ又ハ其金錢ニ不相應ナル高價ノ物品ヲ

獲ルコト有ルカ如キ所爲ヲ指シタルモノナリ元來此等ノ所爲ハ偶生の性質ヲ有スト雖モ寧ロ賣買ノ性質ヲ有シ之ヲ商業トスル者ハ代價ヲ得テ物品ヲ賣却スルノ一手段ト爲シタルニ過キス故ニ其性質ヲ極論スレハ賭博ニ屬スト謂ハソヨリハ寧ロ富講ニ屬セシムルヲ至當トス然レモ富講罪ニアラサルコトハ次條ニ於テ之ヲ知ルコトヲ得已ニ此所爲ハ賭博ニ非ス又富講ニ非ス而シテ其社會ヲ害スルノ價值充分ナラス是故ニ我刑法ハ之ヲ違警罪ト爲シ路上ニ於テ爲シタル者ノミヲ罰スルコトセリ

以上ハ本條及ヒ次條ニ關シ其總說トシテ述ヘタルモノナリ以下本條ノ解ニ入ルヘシ

本條ハ賭場ヲ開張スル者及ヒ博徒ヲ招結スル者ヲ罰スルノ條文ナリ賭場ヲ開張シテ利ヲ圖ルコトハ賭博ヲ爲ス場所ヲ開キ公衆ヲ聚メテ賭

博ヲ爲サシメ以テ利益ヲ得ルヲ謂フ單ニ家屋ヲ給與シタル者ハ本條ノ罪ヲ成サス。博徒ヲ招結シテハ賭博ヲ爲ス徒黨ヲ招集シテ一團ヲ成ス事ナリ。博徒トハ賭博ヲ常業トスル者ヲイフ。博徒招結ノ罪ヲ定ムルニハ主客ノ差別ヲ爲サル可ラス招結ニ應シタル者ハ所謂客ニシテ招結シタル者ハ主ナリ主ハ之ヲ本條ニ問フヘク客ニシテ現ニ博奕ヲ爲セハ之ヲ次條ニ問フヘシ

本條ノ賭場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ之ヲ罰ス是レ社會ノ危害大ナレハナリ

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者又同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラズ賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス本條ハ賭博ヲ爲シタル者ヲ罰スルノ條文ナリ賭博ノ定解ハ已ニ前條ニ於テ之ヲ悉セリ

「現ニ博奕ヲ爲シタル」云々ハ「現ニ」ハ文辭ハ如何ニ解スヘキカ本法中「現ニ」ハ文辭ハ之ヲ處々ニ用非タルヲ見ル夫ノ第四百四條數人共犯ノ場合ニハ二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者云々ト有リ此「現ニ」ナル文辭ハ曾テ述ヘタルカ如ク現實ニ罪ヲ犯シタルト謂フニシテ教唆者ニ對シテ用非タル文辭タルニ過キス知ラス此等無味ノ意義ヲ以テ本條ノ「現ニ」テウ文辭ヲ解スヘキカ曰ク否本條ノ「現ニ」ハ文辭ハ現行犯ノ意味ヲ表ハシタルモノナリ但シ「現ニ」ハ文辭ヲ指シテ直チニ現行犯ト解スルハ稍、妥當ヲ缺クノ恐ナキニアラサレモ草案ニハ「現行」ハ際ニ於テ發覺云々ノ文辭アリ而シテ本法ノ精神ヲ變更シタリト看ルヘキモノナキニヨリ現行犯ト解シテ毫モ不都合アルコトナシ實際ニ於テモ亦現行犯ニアラサレハ之ヲ罰セス

然ラハ則チ所謂現行犯トハ如何ナル場合ヲ指シタル者ナリヤ刑事訴訟

認法ニ所謂現行犯ノ場合ヲ指シタル者ナリヤ、刑事訴訟法第五十六條  
 ニ曰ク「現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル  
 罪ヲ謂フ」其第五十七條ニ曰ク「重罪、輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ  
 准ス、第一犯罪トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラル、并、第二兇器、贓物  
 其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人  
 ト思料ス可キ并、第三家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其  
 犯人ト思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戶主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタ  
 ルル」是レ一ハ眞ノ現行犯ニシテ一ハ准現行犯ヲ指定シタルモノナ  
 リ今本條ノ現行犯ハ准現行犯ヲ合マサルト多言ヲ要セスシテ明白ナ  
 リ然ラハ則チ第五十六條ニ規定シタル現行犯ノ場合ヲ指シタル者ナ  
 リヤ、該條ヲ分析スレハ所謂現行犯ニハ二ツノ場合アリ曰ク現ニ行ヒ  
 タル際ニ發覺シタルモノ、曰ク現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノ

現行犯ノ  
 如何ナル  
 合ナリヤ

是ナリ、本條ノ現行犯ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル場合ヲモ指  
 シタル者ナリヤ、詳言スレハ現ニ博奕ヲ爲シ終リタル際ニ發覺シタル  
 者ニテモ本條ヲ適用スルカ、予ノ見ント欲スル所ハ則チ此點ニ在リ曾  
 テ聞ク司法省ニテハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル場合ヲモ本條  
 ノ現行犯ノ中ニ包含セシメテ之ヲ解スト知ラス今尙ホ此說ヲ維持ス  
 ルヤ否ヤ抑、此說タル刑事訴訟法ニ基因シタルモノニシテ一理ナキニ  
 アラス然レモ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ未タ深ク考ヘサルノ說ナリト謂ハ  
 サルヲ得ス  
 學理上ヨリシテ論スレハ現ニ行ヒタル際ニ發覺シタル罪ニハラサレ  
 ハ現行犯ト謂フヲ得ス然レモ刑事訴訟法ノ現行犯ヲ規定シタルハ  
 證憑ノ湮滅若クハ犯人ノ逃走等治罪上ノ便宜ニ出テタルヲ以テ唯現  
 ニ行ヒタル際ニ發覺シタル罪ノミニテハ未タ足レリトセスシテ現ニ

行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲモ現行犯ト爲シタルナリ之ニ反シテ刑法ニ所謂現行犯ハ犯罪ノ成立ニ關スルモノニシテ現行犯ナレハ罪トナリ非現行犯ナレハ罪トナラサルノ分界ノ定マル所ナレハ學理ニ由リテ之ヲ解セサル可カラス決シテ治罪上ノ便宜ニ出テタル場合ヲ適用スヘキモノニ非ス刑事訴訟法上ノ現行犯ト刑法上ノ現行犯トノ間ニ太差アルコトハ曾テ犯罪ノ區別ヲ説述スルニ際シ詳言シタルコト有リ彼是參照アラントテ望ム(上卷九〇頁以下參照是)由テ之ヲ觀レハ本條ノ現行犯ハ唯現ニ行ヒタル際ニ發覺シタル場合ハミテ指シタル者ナレハ博奕ヲ爲シ終リタル際ニ發覺シタル者ハ賭博罪ト爲ストテ得サルナリ

賭博罪ハ何故ニ現行犯ト爲スルカ

敢テ問フ本條ノ犯罪ハ何故ニ現行犯タルコトヲ必要トスルカ曰ク元來賭博ハ二人以上合意ノ上偶生ノ利益ヲ博スルコトヲ企ツルノ所爲ナレ

房屋給與者ハ賭博者ニ從犯ト爲スルカ

ハ背徳ノ點甚タ少ク學者中此所爲ヲ犯罪視セサル者アリ唯前ニ一言シタルカ如ク風俗ヲ壞亂シ惡慣ヲ養成スルコト以テ之ヲ罰スルナリ而シテ實ニ風俗ヲ壞亂シ惡慣ヲ養成スルモノハ眞ノ現行犯ニアリ之ヲ覆説スレハ現ニ行ヒタル際ニ發覺シタルモノニシテ始メテ風俗ヲ害ストシテ之ヲ罰スルハ必要アリトス若シ夫レ現ニ行ヒ終リタル際若クハ其以後ニ於テ發覺シタルモノハ之ヲ罰スルノ必要アルコトナシ本罪ノ現行犯タルコトヲ必要トスルハ之カ爲メナリ

情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ現ニ博奕ヲ爲シタル者ト同一ニ之ヲ罰ス元來房屋ヲ給與シタル者ハ博奕ヲ爲シタル者ハ從犯ニ非サル歟若シ從犯ナレハ別ニ之カ罪ヲ規定スルノ必要ナキニアラスヤ然レモ是レ從犯ニアラス從犯ナル者ハ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シタルモノトス今此房屋ヲ給與シタルハ

飲食物ヲ賭スル者ノ理由

所爲ハ誘導指示ニアラサルハ言ヲ待タス房屋ハ器具ニ非サレハ器具ヲ給與シタル者ニモアラス豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シタルモハニ非サルトモ亦明白ナレハ從犯タル要件ヲ充タシタル點アルトナシ是レ此所爲ヲ以テ一罪ト爲シ而シテ正犯ト同一ニ罰スル所以ナリ飲食物ヲ賭スル者ハ之ヲ罰セス其理由如何條文ニ就キテ之ヲ考フレハ殆ト其理由ヲ發見スルト能ハス夫レ本條ハ單々飲食物トイヒテ類例ヲ示サス酒米味噌醬油等總テ所謂飲食物ニ非スヤ果シテ然リトセハ酒一石又ハ米一斗ヲ賭シテ博奕ヲ爲シタル者ハ何故ニ賭博罪トシテ之ヲ罰セサルカ酒トイヒ米トイヒ又ハ味噌醬油トイヒ此等飲食物モ亦金錢ニ見積ルトテ得ヘキ物即チ財物ニアラサルカ若シ之ヲ財物トスル時ハ賭博罪ヲサレ可カラス乃チ本條但書ハ無用ノ法文ニ歸スルカ如シ敢テ問フ本條ノ正解ハ如何日ク立法者ノ精神ヲ探ルニ草

現場ニ在ル賭博ノ器具賭博ノ場トイフ規定ノ不規則

案ニハ現在ノ飲食物云々ノ文辭アリ現行法ハ此文辭ヲ削リタレモ其精神ヲ變シタルヲ見ス是ヲ以テ本條ハ飲食物トハ賭場ニ於テ消費スル所ノ物ト解セサルハカラス例ヘハ茶菓子ヲ賭シタルカ如シ茶菓子ヲ賭シ事了ルノ後其場ニ於テ之ヲ食スルモ固ヨリ風俗ヲ害スルト無ク之ヲ罪トシテ罰スルノ必要アルヲ見ス本條飲食物ノ解此ノ如シ故ニ前ニ掲ケタルカ如キ米一斗酒一石ヲ賭スルカ如キハ固ヨリ現場ニ於テ消費スル所ノ飲食物ニアラサルヲ以テ賭博罪ト爲サル可カラサルナリ賭博ノ器具財物ノ現場ニ在ルモノハ之ヲ沒收ス是レ本條第二項ノ明規スル所ナリ立法者ノ此規定ヲ爲シタル旨意ヲ考フルニ犯罪ノ用ニ供シタル物件ハ特ニ明文ヲ要セスシテ總則ニヨリテ之ヲ沒收スルトテ得レト犯罪ノ體ヲ成シタル物件即チ犯罪ヲ構成スル所ノ物件ハ總



則沒收例ノ結果ニヨリテ之ヲ沒收スルコトヲ得ス今夫レ賭場ニ在ル器  
 具財物ニ就キテ之ヲ云ハシ此物件ヲ使用シ此財物ヲ得ル所爲ハ即チ  
 賭博ナレハ其器具財物ハ犯罪ノ用ニ供シタル者トシテ之ヲ沒收スル  
 コトヲ得ス乃チ此等ノ弊ヲ防ンカ爲メニ特ニ此規定ヲ爲シタルナラン  
 然レモ予テ以テ之ヲ觀ルニ賭場ハ器具財物モ亦賭博罪ノ用ニ供シタ  
 ル者ナリ蓋シ賭博罪トハ器具財物又ハ此等ノ器具ヲ使用シテ財物ヲ  
 得ル所爲ノ如キ有形的事實ヲ指シタル者ニ非スシテ此等ノ事實ニ附  
 着スル無形の感想ヲ指シタル者ナレハ器具財物ハ即チ此無形の感想  
 ナ生セシムルノ用ニ供シタル者ニ過キス故ニ特ニ本條ニ明言スルコ  
 トヲ要セスシテ總則ニ據リテ之ヲ沒收スルコトヲ得ヘキナリ是ニ由リテ  
 之ヲ觀レハ本條但書ハ不用ハ條文ト謂ハサルヘカラス然レモ人或ハ  
 條文ヲ辯護シテ曰フ普通ノ場合ニ於テハ犯罪ノ用ニ供シタル物ハ犯

罪ノ現場ニ在リタル物ト否トチ分タス之ヲ沒收スルコトヲ得レモ賭博  
 罪ノ場合ハ現場ニ在ル物ニ非サレハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス即チ此等  
 ノ點ニ於テ之カ規定ノ必要アリト是レ一理アル駁論ナレモ深ク考究  
 セサル所アリ夫レ賭博罪ハ現行犯ナリ即チ現ニ行ヒタル時ニ發覺シ  
 タルニアラサレハ罪トナラサルナリ故ニ其罪ヲ犯スノ用ニ供シタル  
 物件トイヒ得ルニハ現ニ行ヒタル場所即チ現場ニ之レ有リシ物ニア  
 ラサレハ稱スルコトヲ得ス既ニ現場ニ在ル物件ニアラサレハ稱シテ犯  
 罪ノ用ニ供シタル者ト謂フヲ得サレハ則チ總則ノ沒收例ヲ適用スル  
 モ所謂現場ニ在ル者ニアラサレハ沒收スルコトヲ得サルナリ要スルニ  
 現場ニ之レ有リシ物件ニアラサレハ沒收スルコトヲ得サルハ本罪ノ性  
 質上ヨリシテ然ラシムル所ノモノナレハ是レ亦本項ノ規定ナシト雖  
 モ敢テ不都合ナルニアラス否却テ本項ノ規定ナキヲ以テ至當トセザ

賭博者ノ  
行方カ者  
一カ者  
欺テノ  
得テノ  
ハテノ  
財ハ  
スカ  
取時  
成取

ル可カラサルナリ

本條ノ講説ヲ終了スルニ臨ミ緊要ナル實際上ノ疑問アリ研究シテ諸君ノ参考ニ資セン

賭博ヲ爲シタル當事者ハ一方カ詐欺ノ所爲ニテ贏チ博シ財物ヲ得タル時ハ詐欺取財ノ罪トナルカ其被害者ハ詐欺ニヨリテ贏チ博シ財物ヲ得タル者ニ對シテ返償ノ訴ヲ起ストテ得ルカ。曰ク予ハ思考スル所ニ據レハ賭博中詐欺ノ手段ニヨリテ被害者トナリシ者ハ返償ノ請求ヲ爲ストテ得其理由如何曰ク賭博ハ合意ヲ以テ同一ノ目的ヲ有シ同一ノ事業ヲ爲シテ而シテ輸贏ヲ決スル所ノ者ナリ若シ當事者ハ一方カ詐欺ノ方法ニ出テハ利益ヲ得タル時ハ是レ已ニ同一ノ目的ニテ同一ノ事業ヲ爲シタル者ニアラス換言スレハ賭博ニヨリテ偶生ノ利ヲ得タル

ニアラスシテ詐欺ノ手段ヲ以テ財物ヲ騙取シタル者ナリ已ニ詐欺ノ手段ヲ以テ財物ヲ騙取シタル者トス即チ之ヲ詐欺取財ノ罪ト爲ス亦何ハ不可カ之レ有ランヤ其所爲ノ賭博ニ原由スルハ以テ詐欺取財罪トナリ得ヘキ性質ヲ變スル者ニアラス例ヘハ甲者人ノ財物ヲ竊取シテ之ヲ所持シタルニ偶乙者來リテ復々之ヲ強取シ去レリトセン甲者ノ竊盜罪ハ以テ乙者ノ強盜罪ヲ構成セサルノ原由トナルカ何人ト雖モ然リト答フル者ナカルヘシ又例ヘハ甲乙二人共ニ或家ヘ忍入り財物ヲ竊取シ之ヲ分配スルニ當リ甲者之ヲ壟斷セントス乙者怒テ甲者ヲ殺セリトセン乙者ノ殺人罪ハ甲者ト共ニ犯シタル竊盜罪ノ爲メニ成立セサルカ是レ亦何人モ其然ラサルヲ知ラン是ニ由リテ之ヲ觀レハ賭博中詐欺ノ手段ニヨリテ利ヲ得タル者ノ詐欺取財ノ罪トナルトハ瞭然ナルヘシ夫レ既ニ之ヲ詐欺取財ノ罪トナセハ則チ其被害者ノ

返償ノ訴權アルトモ亦瞭然ナラシ夫レ賭博ハ法禁ノ所爲ナリ之ニ由  
 リテ受ケタル損害ハ假令合意ニ出テタリトスルモ法律ハ被害者ニ對  
 シテ訴權ヲ與ヘズ格言ニ曰ク己レノ醜惡ヲ憑據トシテ申立ツルモノ  
 ハ何人ト雖モ聽受セラルヘカラス又曰ク雙方同等ノ醜惡ナル場合  
 ニ於テハ取戻ヲ爲スヘカラスト然リト雖モ賭博犯者ハ一方カ詐欺ノ  
 手段ニヨリテ利ヲ得タル時ハ詐欺取財ノ罪ヲ成ヌテ妨クストナサハ  
 則チ他ノ一方ノ失敗ハ即チ詐欺ノ手段ニ因リテ騙取セラレタルナリ  
 詐欺ノ手段ニヨリテ騙取セラレタル時ハ之ヲ憑據トシテ訴追スルモ  
 己レノ醜惡ヲ憑據トスルニ非ス故ニ返償ノ訴ヲ聽受セラレサルハ理  
 ナカレハ又此場合ニハ一方ハ既ニ賭博罪ノ被害者ニアラスシテ詐  
 欺取財ノ罪ノ被害者ナレハ同等ノ醜惡アルニモ非サレハ返償ノ訴ヲ  
 却下セラレ可キ理毫モ之レ有ラサルナリ

富講ノ解

第二百六十二條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行  
 シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ  
 罰金ヲ附加ス

本條ハ富講ノ興行者ヲ罰スル條文ナリ富講トハ何ソヤ本條ハ不完全  
 ナカラモ其定解トシテ之ヲ視ルト得ヘシ凡ソ富講ニハ種々ハ方法  
 アリト雖モ要スルニ泛ク數多ノ富札ヲ賣却シ抽籤ニテ購買者中ノ或  
 者ヲシテ購買代價ヨリ高額ナル財物ヲ得ヘキトテ僥倖セシムル所ノ  
 方法ニ過キス然リ而シテ概シテ富札ヲ發賣スル者ハ當籤物ノ價額ヨ  
 リモ超過セシメテ多數ノ富札ヲ發賣スルヲ以テ決シテ損失ヲ被ムルト  
 無ク却テ非常ナル利益ヲ僥倖スルト得之ニ反シテ購買者ハ發賣セ  
 ル富札ノ饒多ナルカ爲メ當籤ノ僥倖ヲ得ルト甚ク難ク單タ一二ノ人  
 ヲ除クノ外ハ殆ト其富札代金ヲ損失スルモノトス富講ノ方法ソレ此  
 ノ如シ其社會ニ惡慣ヲ浸淫セシムルノ害賭博ト何ソ擇ハハ乃チ知ル

富講ヲ興行シタル者ハ勿論其富札ヲ購買シタル者ヲ責罰スルヲ得  
 へキ性質ヲ有スル者ナルヲ然レモ熟本條ヲ視ルニ我立法者ハ唯其  
 興行者ニ就キテノミ罪ヲ認メ富札ノ購買者ハ之ヲ問フ下無シ其理由  
 ハ畢竟立法者ハ興行者アルカ故ニ偶然購買者ヲ生セシムルニ至ルヲ  
 以テ豫メ其根本タル興行者ヲ罰シテ其枝葉ヲ罰セサルナリ換言スレ  
 ハ偶生ノ利益ヲ僥倖セントスルハ人ノ常情ナルカ故ニ立法者ハ富札  
 ヲ發賣スル者ヲ罰スル時ハ購買者ハ終ニ其慾ヲ恣ニスル下能ハスシ  
 テ止ムニ至ル可シト想像シタルナリ其然リ然レモ實際上ノ狀況ハ  
 往々立法者ノ豫想ニ反對スルノ結果ヲ生シ易ク往年西班牙無盡ト稱  
 スル一種ノ富講ノ我邦ニ入り來ルヤ人民爭ヒテ其札ヲ購ヒ爲メニ大  
 ニ風俗ヲ害シタルノミナラス其無盡ノ期限毎ニ大凡五六萬圓ノ貨幣  
 ヲ輸出シタルノ結果ヲ生シタリ是ニ於テ我立法者ハ富札ノ購買者ヲ

罰スルノ必要ヲ感知スルニ至レリ乃チ明治十五年五月第廿五號ヲ以  
 テ富籤賣買者處分ナル六箇條ヨリ成立スル所ノ法律ヲ頒布シテ購買  
 者ヲ罰スルト爲セリ同法第二條ニ曰ク凡富籤ヲ購買シタル者ハ其  
 價ヲ拂ヒタルト未ダ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁  
 錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買  
 シタル者及ヒ他人ヨリ讓受タル者亦同シ下其他同法ニハ富籤賣買  
 ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ヲモ罰スルノ明文アリ亦以テ立法者  
 カ富講罪ニ關スル留意ノ密ナルヲ視ルヘシ要スルニ現時ハ本條并ニ  
 明治十五年二月第二十五號布告ト並ヒ行ハレテ富札ハ賣買者賣買ノ  
 牙保又ハ幫助ヲ爲シタル者ヲ罰ス但シ此ノ如キ同種ノ犯罪ニ對シニ  
 箇ノ法律ヲ以テ處分スルハ不都合少カラス故ニ本法改正ノ期到ラハ  
 之ヲ刑法ノ中ニ規定スルヲ可ト爲ス爰ニ一言ス可キ者有リ佛國ニ

於テハ現時富講ノ目的貧民救助等有益ノ事業ニ在ルルハ政府ノ許可ヲ得テ之ヲ興行シ又ハ之ヲ購買スルコトヲ得故ニ該國法ニ於テ富講罪ヲ認ムルニハ官許ヲ得スシテ興行シタル一條件ヲ要スルコトナレリ此條件タル我刑法ノ富講罪ニ於テモ亦之ヲ採用スルノ價值アリト思

富講興行  
即ノ既遂  
リハ何時ナ

考ス  
本條ハ罪ハ何レノ時ヨリ完成スルカ換言スレハ富講興行罪ハ既遂犯ハ何時ナリヤ元來富講ハ富札ノ悉皆賣了シタル後抽籤ヲ行ヒテ當籤者ハ當籤物ヲ得興行者ハ利益ヲ僥倖スル者ナルガ故ニ富講ノ所爲ノ完結ハ抽籤ヲ行ヒ了リタル時ニ在リ從ヒテ富講興行罪ノ既遂ハ抽籤ヲ行ヒ了リタル時ナルカ如シ然レモ立法者ノ意ヲ探ルニ抽籤ヲ行ヒ了リタル時ニアラザレハ富講興行罪ノ既遂ト爲スコトヲ得スト云フニアラス本條ニ曰ハスヤ興行シタル者云々ト乃チ知ル本條ハ罪ハ興行

トハ一條件ヲ備フルトヲ要スルコト今夫レ富講ニ於テ抽籤ヲ行フ所爲ハ所謂興行ニ相違ナシ然レモ其富札ヲ賣ル所爲モ亦興行ニアラスシテ何ソヤ抽籤ノ時期即チ運命ヲ決スルノ時ニ到ラスト雖モ富札ヲ發賣シタル時ハ業已ニ社會ヲ害スルニ足ル因テ立法者ハ富札ヲ發賣スレハ即チ富講興行罪ノ既遂ト爲ス取テ問フ未タ富札ヲ發賣セサル時ハ既遂ト謂フ可カラサルカ曰ク然リ富札ヲ發賣セサル時ハ即チ是レ世人カ未タ富札ヲ買得セサル時ナリ縱令富講ノ準備已ニ整フモ是レ財物未タ醜集セシテ富講ヲ完成セサルノ時ナリ故ニ其間ニ如何ナル所爲アリトモ富講ヲ興行シタリト謂フコトヲ得ス因テ富講ヲ興行セントスル者未タ富札ヲ發賣セサル時ハ本條ハ罪ヲ成サハルナリ要スルニ富講興行罪ニ於テ富札ノ發賣ト否トハ犯罪成否ノ境界ニシテ發賣スレハ則チ既遂罪ト謂フヘク未タ發賣セサルハ則チ罪全ク成

立セ、是ニ由リテ之ヲ觀レハ本條ノ罪ハ性質上未遂ナシト謂フヘシ  
予ハ本條ヲ講了スルニ臨ミ偶彼ノ勸業義濟會ノ事ヲ想起セリ此會ノ  
事業カ富籤興行ノ罪トナルヤ否ヤニ付キ曾テ世上ノ一問題トナリシ  
トハ諸君既ニ之ヲ記憶セラル、ナラン今其事實ヲ示シ其所爲ノ罪ト  
ナルヤ否ヤヲ論スルハ本條ノ罪ノ性質ヲ講究スルニ於テ大ニ裨益ア  
リト信ス

抑勸業義濟會ノ起因ヲ釋ヌルニ昨二十三年開設セル第三回内國勸業  
博覽會ハ出品ノ數十六萬八千三百二十五點ノ多キニ達シタルニモ拘  
ハラズ其價額六十七萬九千七百餘圓ノ内賣買約束ノ整ヒタル者僅々  
十二萬七千餘圓ニ過キサルヲ以テ殘額五十五萬一千六百餘圓ノ出  
品ハ茲ニ販路ヲ失ヒ爲メニ小資本ノ一個人ハ勿論工藝品ヲ製作スル  
會社ト雖モ忽チ金融ニ差支テ生シ進退維レ谷マレル窮境ニ陥リタリ

是ニ於テ昨年九月有志ノ士相集リテ此會ヲ起シ以テ出品者ノ窮境ヲ  
救濟シ我邦美術工藝ノ前途發達ヲ阻碍スルコトナカラント期圖シ當  
時東京ニ在ル殘品ノ價額二十四五萬圓ヲ處分スルノ方法トシテ泛ク  
義捐金ヲ募集シ義捐金ノ一口ヲ金一圓ト定メ抽籤ヲ以テ一口毎ニ殘  
品ノ内ヨリ一品宛ヲ分配シ而シテ其品中ニハ數千圓ノ物品ヲ僥倖ス  
ルコトヲ得ルノ方法ヲ設ク加之募集金額ノ二割ヲ該會ノ經費ニ充テ  
カ爲メニ控除ス云々ノ約束ヲ設クタリ其目的ノ善美ナルヨリシテ朝  
野ノ貴顯紳士ハ翕然其募集ニ應シタリシカ期到レヒ抽籤スルコト無ク  
遷延本年ニ至リタルカ爲メ大ニ世人ニ奇異ノ感動ヲ與ヘ終ニ此會ノ  
事業ヲ目シテ富籤興行ノ所爲ナリト論議スルモノアリテ遂ニ告發ス  
ル所トナリタリ是ニ於テ新聞ニ演說ニ其所爲ヲ攻擊辯難シ實ニ當法  
律上ノ一大問題トナレリ予當初ヨリシテ此會事業ノ富籤興行ニアラ

サルコチ知ルカ故ニ之ニ對シテ論議セサルノミナラス却テ其法律上ノ一問題トナリシテ笑ヘリ然レモ議論益劇シキニヨリ終ニ一篇ノ論説ヲ府下ノ諸新聞ニ投シテ予カ意見ヲ公ニシタリキ、敢テ問フ、何故ニ此會ノ事業カ本條ノ罪トナラサルカ、予將ニ予カ當時新聞ニ掲ケタル論文ヲ採萃シテ之カ答ト爲サントス曰ク(前略)已ニ勸業義濟會ハ此ノ如キ目的ヲ以テ成立シタルモノナレハ會員ヨリ醜集シタル金員ノ如キハ固ヨリ純粹ノ義捐ニシテ此義捐金ヲ以テ購買シタル物品ヲ抽籤ノ法ニヨリ義捐者ニ分配スルハ此會關係者ヨリ義捐者ニ對スル一ノ報酬ニ過キス故ニ刑法ノ富籤興行ト曰フシテ語ル可カラズ刑  
法第二百六十二條ニ據ルニ本條ノ罪ヲ成スニハ財物ヲ醜集スルハ目的利益ヲ僥倖スルハ意ニ出テ抽籤ノ法ニヨリテ此目的ヲ達セトシタルコチ要ス而シテ義濟會ノ事業ハ利益ヲ僥倖スルノ目的ヲ以テ金

錢ヲ募集シタルカ其然ラサルコトハ此募集シタル金ヲ以テ現時困難ヲ極ムル所ノ美術工藝者ノ爲メニ其物品ヲ何等ノ必要ナキニ拘ハラズ購買セシニ依テ明ナリトス又抽籤ノ法ニヨリテ美術品ヲ分配スルハ利益ヲ僥倖スルノ目的ヲ達スル爲メナルカ是レ亦決シテ然ラサルコトハ既ニ購買シタル物品ヲ報酬トシテ義捐者ニ分配スルニ過キサルノ理ニヨリテ明ナリ(下略)勸業義濟會ノ事業ノ富籤興行罪トナラサルノ理由ソレ此ノ如シ知ラス諸君首肯スルヤ否ヤ

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
若シ不敬又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

神祠佛堂墓所等ハ人ノ尊敬不可キモノナリ故ニ縱令自己ノ信仰セサル宗教ニ關スル神祠佛堂墓所ナリトモ之ニ對シテ不敬ノ所爲アルヘカラス若シ不敬ノ所爲アルトハ人ノ信仰上ノ感觸ヲ傷害ス又人ハ自

本條ト第  
四百二十六  
條ノ關係  
ト

己ノ信仰スル宗教ニ基キ禮拜ヲ爲シ又ハ説教ヲ爲シ若クハ之ヲ聽聞  
スルハ固ヨリ自由ナリ其自由ハ他ヨリ妨害スヘキ者ニアラス是レ本  
條ノ因テ生スル所以ナリ

神、祠、佛、堂、墓、所、等、ニ、對、ス、ル、不、敬、ハ、所、爲、ハ、公、然、ナ、ル、ヲ、要、ス、公、然、ナ、ラ、ザ、ル  
時、ハ、罪、ト、ナ、ラ、ス、是、レ、此、罪、ハ、一、般、ノ、道、德、ヲ、害、ス、ル、者、ナ、レ、ハ、ナ、リ、不、敬  
ハ、所、爲、ト、ハ、如、何、神、祠、佛、堂、ヲ、汚、損、毀、壞、ス、ル、カ、如、キ、有、形、的、所、爲、ハ、無、論、不  
敬、ノ、所、爲、ナ、リ、ト、雖、モ、言、語、ヲ、以、テ、罵、詈、ス、ル、カ、如、キ、無、形、的、所、爲、ハ、所、謂、不  
敬、ノ、所、爲、ナ、リ、ヤ、曰、ク、然、リ、本、條、ニ、於、テ、ハ、固、ヨ、リ、其、所、爲、ノ、有、形、タ、ル、ト、無  
形、タ、ル、ト、ヲ、問、ハ、サ、ル、ナ、リ、既、ニ、神、祠、佛、堂、等、ヲ、汚、損、毀、壞、シ、タル、者、ハ、本、條  
ノ、所、謂、不、敬、ノ、所、爲、ナ、リ、ト、ス、ル、モ、ハ、本、條、第、一、項、ト、第、四、百、二、十、六、條、第、十  
二、號、ト、ノ、關、係、ハ、如、何、第、四、百、二、十、六、條、第、十、一、ニ、曰、ク、神、祠、佛、堂、………ヲ  
汚、損、シ、タル、者、ト、是、レ、殆、ト、同、一、ノ、事、實、ヲ、規、定、シ、タル、カ、如、シ、ト、雖、モ、之、カ

區別ヲ爲サ、ル可カラズ即チ本條第一項ハ惡意ヲ要シ第四百二十六  
條第十一ハ故意ニテ犯罪成立ス故ニ神祠佛堂等ニ對シテ公然之ヲ汚  
損スルモ惡意ナキ時ハ第四百二十六條第十二ノ罪トナルナリ

本條ハ宗教ニ對スルノ罪ナリ其宗教トハ政府ヨリシテ公然允許セラ  
レタル者ノミナリヤ、曰ク此疑問ノ起ルハ蓋シ草案ニ公認云々ノ文辭  
アリテ現行法之ヲ削除シタルニ由ル予以爲ク縱令公認セラレサル宗  
教ナリトモ苟モ人ノ尊敬スヘキ宗教ハ總テ本條ニ包含スト其理由ハ  
本條ノ罪ノ性質ニ於テ之ヲ知ル夫レ本條ノ罪ハ一般ノ道德ヲ害スル  
罪ナリ即チ公益ニ關スル罪ナリ故ニ一般ノ人即チ公衆ノ尊崇スル宗  
教ニ對シテ公然不敬ヲ爲シテ以テ信仰ノ感觸ヲ害シ又ハ信仰ノ自由  
ヲ妨害スル時ハ宗教ノ公認タルト否トテ區別スルノ要ナキナリ強テ  
之ヲ區別スレハ則チ終ニ本條ヲ設クタルノ精神ニ背馳スルノ結果ヲ



生スルニ至ル可シ且此疑問ハ草案ノ削除ニ起因ストハイヘ予ヲ以テ之ヲ觀レハ其削除ハ却テ適用ノ範圍ヲ廣クシタル者ナルヲ知リ得ヘキナリ要スルニ此疑問ハ價值ヲ有セサル疑問タルヲ免レズ茲ニ注意スヘキ者アリ本條ハ宗教ハ公認ト否トヲ問ハスト雖モ兎ニ角其宗教ハ公衆ハ信仰尊崇スルモノナルヲ要ス公衆トハ其範圍判明ナラサル所アレト個ハ事實論トシテ裁判所ノ認定ニ任カスヘキモノトス但シ一私人ノ公衆ニアラサルトハ固ヨリ多言ヲ要セス故ニ某ノ人ニ限リテ尊敬スル禮拜堂ニ對シテ不敬ノ所爲アルモ本條ノ罪トナラス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

本章ハ人ノ死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル所爲ヲ罰ス死屍ヲ尊敬スルハ人間ノ至情ノ然ラシムル所ニシテ此慣習ハ獨リ我邦ノミナラ

ス殆ト文明諸國ノ常慣タリ是故ニ死者ヲ毀棄シ又ハ墳墓ヲ發掘スルカ如キ無法ノ所行ヲ爲セハ死者ノ榮譽上ニ對シテ不敬ナルノミナラス死者ノ親族ニ汚辱ヲ加フルモノナリ故ニ此等ノ所爲ニ對シテ刑罰ヲ設クルハ各國ノ法律殆ト然ラサルハナシ是ニ由テ本條ノ罪ハ前章ト同シク風俗ヲ害スル所ノモノナリ故ニ學問上ヨリ言ヘハ前章中ニ包含セシムヘキ罪ナリトス

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二回以上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ニ於テ講究ス可キハ本條ノ犯罪ニハ如何ナル犯意ヲ要スルヤトイフト是ナリ醫師アリ死屍ヲ解剖ス解剖ハ一種ノ毀棄ニ外ナラス以テ本條ノ罪ト爲スヘキカ醫師ノ解剖ヲ爲スヤ種々ノ手續ヲ經由シテ執行スル者ナルカ故ニ本條ノ罪ト爲ス可カラサルハ贅辯ヲ要セスシテ之ヲ知ルヲ得ヘシ然ラハ醫師手續ヲ經由セスシテ解剖シタル時ハ

本條ノ罪ニハ如何ナル犯意ヲ要スルカト

如何此場合ニハ手續ヲ經由セサル罪ユニアレ豈之ヲ本條ノ罪ト爲シ  
 一月以上一年以下ノ重禁錮并ニ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科スル  
 程ノ重大ナル犯罪ナリト謂フヲ得ンヤ要スルニ此等ハ本條ノ犯罪ニ  
 要スヘキ犯意ナキニ由リ罪トシテ之ヲ論スルヲ得サルナリ爰ニ天  
 稟至孝ノ人アリ其父死ス之ヲ棺ニ納メテ埋葬スルルハ其屍早ク腐敗  
 スルヲ恐レ瓶ニ納メテ埋葬セントス然レモ其屍ヲ納ルハニ足ルヘキ  
 大瓶ヲ購フノ資財ナシ乃チ一策ヲ案出シ其所有ノ小瓶ヲ取り父ノ屍  
 ヲ寸斷シテ之ニ納メ以テ埋葬ヲ爲シタリ此所爲ハ本條ノ罪ト成ルカ  
 聞ク是レ實際裁判所ニ現ハレタル事實ナリト知ラズ裁判所ハ之ニ對  
 シテ如何ナル判決ヲ與ヘタルヤ予ハ此場合モ尙ホ本條ノ罪ヲ成サ  
 スト斷言セシ何トナレハ此場合ニ於テモ亦彼ノ醫師ノ例ニ於ケルカ  
 如ク未ダ本條ノ犯罪ニ要スヘキ犯意アラサレハナリ然ラハ本條ハ犯

罪ニ要スヘキ意思ハ如何予以爲ク本條ハ犯罪ニハ惡意ヲ要ス惡意ヲ  
 以テ死屍ヲ毀棄スルコトヲ要ス換言スレハ屍體ヲ害スル意思ヲ以テ之  
 ヲ毀棄スルコトヲ要ス但シ本條ノ法文上ヨリシテ此ノ如ク斷言スルハ  
 稍妥當ヲ缺クノ恐アルニ似タレモ草案ニハ明瞭ニ惡意ヲ以テ云々ノ  
 文辭アリ此レヨリ推シテ以テ本條ヲ解スル亦不可ナルナシ既ニ屢述  
 ヘタルカ如ク草案ニハ犯罪ノ意思ヲ知ルコト困難ナル場合ニハ凡テ惡  
 意若クハ故意等ノ文辭ヲ挿入シテ一見瞭然ナラシムルヲ常ト爲シタ  
 レモ現行法ニテハ總則第七十七條ニ罪ヲ犯スノ意ナキ所爲ハ其罪ヲ  
 論セストイフ原則ヲ存立セシメ而シテ別ニ各本條ニ於テ犯意ヲ示ス  
 ノ必要ナシト思惟シテ悉ク之ヲ削除セリ本條モ亦其削除ノ一ナリト  
 ス是レ大ニ不可ナル所ニシテ終ニ人ヲシテ各犯罪ニ要スヘキ犯意イ  
 如何ヲ知ルニ苦マシムルノ結果ヲ來シタリ然レモ講法者ハ草案ノ精

神ヲ酌ミテ之ヲ解スルモ亦不可ナルヲナシ是レ予ノ本條ノ犯罪ニ要  
 スル意思ハ惡意ヲ要スト斷言シタル所以ナリ今假リニ一步ヲ讓リ草  
 案ニ據ラスシテ之ヲ論スルモ前例ノ如キ惡意ナキ所爲ニ對シテ本條  
 ノ如キ重キ刑ヲ科スルハ豈人間普通ノ感覺ニ於テ是認スル所ナラン  
 ヤ要スルニ前數例ノ如キハ故意アリト雖モ死躰ヲ害スル意思即チ惡  
 意ナキカ故ニ本條ノ罪トシテ之ヲ論スルヲ得サルモノトス  
 本條ハ一見簡單ノ條文ナルカ如シト雖モ諸種ノ實例ヲ生シ并ニ諸種  
 ノ疑問ヲ生セシトハ實ニ本條ノ歴史ニ於テ之ヲ知ル然レモ予カ前段  
 ニ於テ論定シタル犯意ニヨリテ解釋スル時ハ水解セサルモノナカル  
 ヘシ例ヘハ往來ニ斃者アリ自家ニ携ヘ歸リ治療ヲ施シタレモ蘇生ノ  
 見込ナシ因テ復タ之ヲ舊處ニ棄テタルカ如キ又ハ船中浮屍ヲ引キ揚  
 ク治療ヲ加ヘタレモ功ナシ因テ之ヲ水葬シタルカ如キ場合ニハ死躰

ヲ害スルノ意思ナシ故ニ本條ノ罪ト爲ストヲ得ス然レモ自己ノ邸宅  
 ノ傍ヲ流ル、河岸ニ死屍アリ其取扱ノ煩ハシキヲ厭ヒ之ヲ河中ニ投  
 シタルカ如キ場合ニハ惡意アルカ故ニ之ヲ本條ノ罪ト爲サルヘカ  
 ラス

本條ヲ講了スルニ臨ミ一言スヘキ者アリ予ハ既ニ本條ノ犯意ハ惡意  
 即チ死躰ヲ害スル意思ヲ要スト斷言シタリ而ルニ刑法學者中異論ヲ  
 唱フル者ナキニ非ス或ル學者ハ論シテ曰ク本條及ヒ次條ノ罪ヲ成ス  
 ニハ權利ナキ者之ヲ行フヲ要ス即チ權利ハ有無ヲ以テ犯罪成否ノ  
 標準トスヘク敢テ其意思ハ惡意ニ出テタルヤ否ヤヲ問フヲ要セスト  
 此說ニヨレハ本條ノ犯罪ニハ惡意ヲ必要トセス故意アレハ則チ罪ヲ  
 成スト爲サル可カラス其深ク考ヘサルノ說ナルトハ上來述ヘタル  
 所ニヨリテ之ヲ知ルヲ得ン尙ホ次條ニ至リ此說ノ不當ナルヲ見ル

ヘシ

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三回以上三十回以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五回以上五十回以下ノ罰金ヲ附加ス

本條モ亦前條下同シク惡意即チ死屍ヲ害スルノ意思ヲ以テ犯シタル者ニ非サレハ罪トシテ論スルヲ得サルナリ然レモ前條ノ終尾ニ於テ一言シタル或學者ハ本條ノ罪モ亦權利ノ有無ヲ以テ犯罪成否ノ標準トス可ク敢テ惡意ニ出テタルヤ否ヤヲ問フヲ要セスト斷言セリ是レ實ニ深ク考ヘサルノ說ナリトス例ヘハ甲其亡友乙ノ墳墓即チ他人ニ屬スル墳墓ノ小ナルヲ愛ヒ其遺骨ヲ他所ニ改葬シテ壯麗ナル墓ヲ建立セリ此所爲ノ如キ予ヨリ之ヲ慨レハ故意トイフモ惡意ナキカ故ニ本條ノ罪トナラサルヲハ分毫モ疑フ所ナシ然レモ學者ハ必ス曰ハ

ノ是レ縱令善意ヲ以テ爲シタルニ相違ナキモ元來其所爲ハ權利ナク

シテ行ヒタルヲ以テ本條ノ罪ヲ成スト又例ヘハ未亡人某既ニ埋葬シタル先夫ノ遺骸ヲ改葬シタリトセシ此所爲モ又本條ノ罪トナラサルヲハ疑ナシ然レモ或學者ハ必ス曰ハソ夫ノ死去シタル後ハ夫妻ノ關係全ク斷絶スルカ故ニ妻ハ他人ト同シク先夫ノ遺骸ヲ左右スルノ權利ナシ因テ其所爲ハ縱令好意ニ出ツルモ之ヲ本條ノ罪トセサル可カラスト然レモ此二個ノ場合ノ如キ甲者又ハ未亡人ハ假令法律上埋葬ノ權利ヲ有セストスルモ毫モ死屍ヲ害スルノ意思ナク其道德ニ背戾セサルヲハ勿論其風俗維持ノ點ニ於テモ亦何程ノ害アリヤ予ハ之ヲ發見スルヲ得ス又之ヲ普通ノ感覺ニ訴フルモ本條ノ如キ重キ刑ヲ加ヘテ之ヲ責罰スルノ必要アルヲ認ムルヲ得ス若シ我刑法ハ此ノ如キ所爲ニ對シ本條ノ刑ヲ加ヘテ之ヲ責罰スル者ナリトスレハ則チ我刑法ハ野蠻的刑法ト謂ハサルヲ得ス予ハ我刑法ヲ以テ野蠻的刑法

トハ爲サ、ルナリ之ヲ要スルニ本條ハ廣シ或ル學者ノ説ノ如ク適用  
スヘカラサル條文ナリ即チ墳墓ヲ發掘シテ棺槨若シハ死屍ヲ見ハス  
モ又ハ其死屍ヲ毀棄スルモ惡意ヲ以テ爲シタルニアラザレハ罪トシ  
テ論スルヲ得サルナリ別言スレハ本條ノ罪ハ惡意ノ有無ヲ標準トシ  
テ犯罪ノ成否ヲ判別セサル可カラサルナリ

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ送ケサル者  
ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ハ敢テ説明ヲ要セスシテ分明ナルヘシ

### 第八章 商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪

本章ハ農工商業ノ自由ヲ妨害スルノ罪ナリ農工商ハ國家經濟ノ本源  
ナリ故ニ此等ノ職業ニ對シテ法律ノ保護ヲ加ヘサル時ハ經濟社會ヲ  
紛擾シ細民ヲシテ塗炭ニ苦マシムルノ結果ヲ生スルノ恐アリ是レ本  
章ヲ設ケタル所以ナリ此ク本章ハ重大ナル犯罪ヲ規定シタルニモ拘

ハラス立法者ノ認メタル所爲并ニ其記載セラレタル事項ニ於テ大ニ  
明瞭ヲ缺ク所アリ解釋上最モ注意セサル可カラズ爰ニ本章ノ解釋ト  
シテ常ニ解釋家ノ念頭ヲ去ル可カラサル一條件アリ曰ク本章ノ罪ハ  
公益ニ關スル罪ニシテ其危害カ公衆ニ及ホスモノナラサル可カラズ  
ト云フ、是ナリ此條件ヲ念頭ニ藏メ而シテ後ニ本章ノ規定ヲ解釋ス  
ルニ非ザレハ則チ忽チ五里霧中ニ彷徨スルノ憾アルヘシト信ス

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ殺類其他衆人ノ需用ニ缺ク可カ  
ラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ  
處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス  
本條ハ偽計又ハ威力ヲ以テ殺類其他衆人ノ需用ニ缺クヘカラサル飲  
食物ノ賣買ヲ妨害シタル所爲ヲ罰スル條文ナリ、偽計トハ詐欺ノ計畧  
ナイヒ「威力」トハ暴行脅迫ナイニ需用ニ缺クヘカラサル食用物トハ如  
何ナル物ヲ指シタリヤ其解ニ苦マサルヲ得ス蓋シ裁判官ノ認定ニ任

本條ノ如  
何トハ買  
如買何

カスヘキモノナリ  
本條ノ想像スル賣買ハ如何ナル場合ヲ指シタルモノナリヤ例ヘハ甲  
者其隣家ニ住スル米屋乙者ノ米ヲ賣ルニ當リ偽計又ハ威力ヲ用非テ  
之ヲ妨害シタル時又ハ丙者乙者ヨリ米ヲ買ハントスルニ當リ偽計又  
ハ威力ヲ以テ妨害シタル時ハ如何一ハ米ノ賣主ヲ妨害シ一ハ米ノ買  
主ヲ妨害ス以テ本條ノ罪ト爲スヘキカ是レ疑モナク威力又ハ偽計ヲ  
以テ人ノ需用ニ缺クヘカラサル米穀ノ賣買ヲ妨害シタル者ナリ故ニ  
本條ノ罪トシテ之ニ一月以上六月以下ノ重禁錮ヲ科ストセシカ吾人  
ハ實ニ之ヲ普通ノ感覺ニ訴ヘテ其不可ナルヲ知ル若シ我立法者此  
所爲ノ如キ輕微ノ所爲ニ對シテ本條ノ刑ヲ科ストイハ、立法者ノ暴  
モ亦極マルト謂フ可シ今之ヲ理論ニ徵スルニ此所爲ハ果シテ公益ヲ  
害スルカ即チ公衆ニ危害ヲ及ホスヘキカ予テ以テ之ヲ觀ルニ是レ唯

一私人ノ利益ヲ害スルニ止マリテ公衆ノ利益ヲ害スルヲ無シ或ハ仔  
細ニ論スレハ公衆ノ利益ヲ害スルヲ無シト謂フヘカラサルモノアリ  
ト雖モ間接ニシテ直接ニ公益ヲ害セス要スルニ此所爲ノ如キハ私罪  
中ニ入ルヘキモ公罪トシテ之ヲ本條ノ中ニ規定スルハ立法ノ精神ヲ  
知ラサル者ト謂フ可シ然ラハ則チ本條ノ所謂賣買ハ之ヲ草案ニ徵シ  
又ハ之ヲ本條ノ位置上ヨリ考フルトハ巨大ナル賣買ヲ想像シタルヲ  
知ル佛文草案ニハ輸出入運搬賣買ヲ妨害シタル云々トアリ日本文章  
案ニハ運輸賣買ヲ妨害シタル云々トアリテ一見巨大ナル賣買ヲ想像  
シタルヲ知ルヲ得而シテ現行法ハ草案ヲ削除シテ單ニ賣買ナル文辭  
ノミヲ存スト雖モ立法ノ精神ハ草案ト異ナラス何トナレハ本條ハ公  
益ニ關スル罪ノ中ニ規定セラレ而シテ巨大ナル賣買ヲ妨害シタルニ  
アラサレハ公益ヲ害セサレハナリ例ヘハ我國ノ或地方ニテ米作不稔

偽計又ハ  
威力ヲ以

爲メニ米價騰貴シテ貧民將ニ餓死セントスル慘狀ヲ呈セリ因テ其土地ノ紳商相計リテ大ニ南京米ヲ輸入シ以テ人民ニ低價ノ米ヲ購買スルヲ得セシメント欲シタルニ爰ニ其地方ニテ多クノ米ヲ所有スル者アリ南京米輸入ノ爲メニ己レ獨リ利益ヲ壟斷スルヲ得サルニ至ルヲ恐レ偽計又ハ威力ヲ以テ巧ミニ其輸入ヲ妨害シタル所爲ノ如キハ所謂巨大ナル賣買ヲ妨害シタル者ニシテ是ヨリ生スル害ハ直接ニ公衆ニ及ホスモノトス要スルニ此ノ如キ巨大ナル賣買ニ對シ偽計又ハ威力ヲ以テ妨害シタル所爲ニアラサレハ本條ノ罪トナラサルナリ但シ本條ニハ單ニ賣買トノミアリ而ルテ之ニ巨大トイフ文辭ヲ加ヘテ解釋スルハ缺漏ヲ彌縫スルノ嫌アルカ如クナレハ敢テ然ルニハアラサルナリ

然ラハ則チ偽計又ハ威力ヲ以テ巨大ナル賣買ヲ妨害シタルハ悉ク

テ巨大ナル  
賣買ヲ  
妨害シ  
タルハ  
悉ク  
本條  
ノ罪ト  
ナリ

本條ノ罪ヲ成スカ今日博ク經濟社會ヲ觀察スルニ商業自由ノ範圍大ニ擴張シ從ヒテ其競争ノ度大ニ劇烈ヲ致ス有リ是時ニ當リテ商人カ自己ノ所持スル物品ノ價額ヲ維持スルカ爲メニ多少權謀術策ヲ用井他ノ賣買ヲ妨害スルヲ往々ニシテ之レ有リ若シ其妨害カ巨大ナル賣買ニ對シテ爲シタルハ以テ本條ノ罪ヲ成スカ曰ク否夫レ商業上ノ競争ハ商業ノ發達并ニ擴張ニ關シテ大ニ必要ナルモノニシテ其極多少ノ權謀術策ヲ以テ他ヲ妨害スルヲ殆ト免カル可カラサルノ數ナリ故ニ之ヲシモ本條ヲ適用シテ處罰ストスレハ則チ商人ハ商業ノ自由ヲ失ヒ商業ノ自由ヲ保護スル法律ソレ自身カ却テ其商業ノ自由ヲ妨遏スルニ至ルヘシ故ニ此ノ如キ所爲ハ本條ノ罪トシテ之ヲ論スヘキモノニアラサルナリ然ラハ本條ノ想像スル所ノ妨害ノ程度ハ如何曰ク本條ハ商業ノ自由ヲ妨害シタル所爲ナルトテ要ス詳言スレハ本

（第二百六十八、九、七十條）第二編第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪 五五〇

條ハ偽計又ハ威力ヲ以テ巨大ナル賣買ノ自由ヲ妨害シ之ヲシテ賣買スルヲ得サラシムル場合ニ非サルハ則チ罪下シテ論セサルナリ是ニ由テ之ヲ觀ルニ本條ハ狹ク之ヲ解釋シ因テ以テ法律ノ目的ヲ註リ商業ノ發達ト擴張トヲ妨害スルヲ勿ラントテ要ス

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル所爲ヲ罰スル所ノ條文ニシテ前條ノ精神ニヨリ之ヲ解釋セサル可カラズ

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦々前條ニ同シ

本條ハ別ニ説明ヲ要セスシテ明了ナル條文ナリ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ如何ナル場合ニ於テハ想像スル

本條モ亦前條ト同シク其所爲ノ公益ヲ害スル者ナルトテ要ス例ヘハ農家ニ雇役セラル一夫アリ其賃錢ノ甚ク廉ニシテ生活ニ困難ナルヲ以テ主人ニ脅迫シテ曰ク主公賃錢ヲ増セ否ラサレハ則チ予主公ヲ殺サント此所爲ノ如キ雇主タル一私人ノ利益ヲ害スルモ直接ニ公益ヲ害スルト無キカ故ニ本條ノ想像スル所ニ非サルナリ本條ハ實ニ彼ハ同盟罷工即チ英語ノストライキ佛語ノグロトアヨリ生スル弊害ヲ想像シタル者トス同盟罷工トハ勞役者相聯合シテ職業ヲ休止シ以テ雇主ニ對シテ賃錢ノ増加ヲ強請追求スル事ヲイフ此事タル動モスレハ輒チ殖産ノ萎靡商業ノ不振ヲ致スノ恐ナキニ非サレハ職工カ自由ノ意思ヲ以テ協同聯合シテ其業務ヲ休止シ因テ雇主ト競争スルカ如キハ是レ固ヨリ職工ノ自由ナリト謂ハサルヲ得ス且人ハ利害得喪ヲ共ニスル者ト聯合シテ利益ヲ計畫スルノ權利ヲ有ス職工カ此權利ヲ



實行シテ以テ自己ノ地位ヲ改良スルハ實ニ至當ノ行爲タルノミナラ  
 ス社會ノ爲メニモ亦利益アル事ト謂ハサルヲ得ス故ニ此ノ如キ平和  
 ハ行爲ニ出テタル同盟罷工ハ法律ノ力ヲ以テ之ヲ罰シ可カラズ然レ  
 且同盟罷工ハ往々自由意思ハ聯合ニ出テ以テ平和ニ雇主ト競争スル  
 ニ非スシテ暴行脅迫ヲ以テ又ハ詐謀僞計ニ由リテ雇主又ハ他ノ雇人  
 ヲ妨害スルコト有リ此ノ如キ同盟罷工ハ農工業ノ自由ヲ妨害スル所  
 モノニシテ社會ヲ害スルカ故ニ之ヲ責罰スルハ必要アリトス蓋シ同  
 盟罷工ノ慣行ハ未タ我國ノ農工社會ニ現出セス歐米諸國ニ於テハ盛  
 ニ行ハレ往々他人ヲ脅迫シ徒黨ヲ團結シテ農工業ヲ妨害シ爲メニ非  
 常ノ擾亂ヲ現出スルコト有リ我國ニ於テモ農工業愈々旺盛ニ赴ク非  
 同盟罷工ノ慣行必ス現出スヘシ從ヒテ暴行脅迫又ハ詐謀僞計ヲ以テ同  
 盟罷工ヲ企ツルノ輩ナキヲ保スヘカラス立法者コトニ慮ル所アリテ

本條ヲ設クルニ至リタルナリ之ヲ要スルニ本條ハ想像スル所ハ農工  
 ノ雇人通謀徒黨シテ僞計又ハ威力ヲ以テ雇主又ハ他ノ雇人ノ自由ヲ  
 妨害スル所爲ナリトス但シ本條ノ行文上ヨリ觀察スレハ以上ノ如ク  
 解釋スルハ實ニ法文ノ缺漏ヲ彌縫スルノ嫌ナキニ非サレ且法律ノ精  
 神ハ文辭ノ不完ヲ以テ滅却スルコトヲ得ス今之ヲ本法ノ母法タル佛國  
 刑法ニ徴スルモ亦本法ノ精神ヲ寓スル所ヲ窺知スルヲ得ヘキナリ(佛  
 國刑法第四百十四條)

前段ニ述ヘタルカ如ク本條ノ罪ヲ成スニハ農工ノ雇人ハ通謀徒黨ス  
 ルコトヲ要ス故ニ通謀徒黨スルコト無ク己レ一人ニテ業務ヲ休止シ威力  
 ヲ以テ雇主又ハ他ノ雇人ヲ妨害スルノ所爲ハ或ハ脅迫罪ヲ成スコトア  
 ルモ本條ノ罪ヲ成サス佛國刑法ハ此點ニ於テ大ニ本法ト異ナリ即チ  
 通謀徒黨アルコトヲ必要トセス一人ニテ暴行脅迫若クハ詐謀僞計ノ事

ヲ爲スモ之ヲ罪ト爲ス  
 農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ云々所謂景況トハ意義宏漠實ニ妥當  
 ナラサル文辭ト謂フ可シ今之ヲ佛文草案ニ徵スルニ草案ニハ「コンヂ  
 シヨ」ナル語アリテ條件トイフ意義ニ使用シ即チ「農工業ノ仕事ハ條  
 件ヲ變セシムル爲メ」云々ト記載セラレタリ仕事ノ條件トハ就業ノ時  
 間又ハ就業ノ人員等ノ場合ヲ指ス因テ草案ニ據レハ雇人カ就業時間  
 ヲ減セシムルカ爲メ若クハ就業ノ人員ヲ増サシムルカ爲メニ同盟罷  
 工ヲ爲ス所爲ヲ想像シタルナリ但シ「コンヂシヨ」ナル文辭ハ條件ノ  
 外ニ模樣度合等ノ意義ヲ有スルカ故ニ本條ハ「コンヂシヨ」ヲ景況ト  
 譯シタルニ相違ナシト雖モ此レニテハ宏漠ニ失スルカ故ニ本條ノ景  
 況ナル文辭ハ草案ト同シク條件トイフ意義ヲ用非テ解スルヲ以テ至  
 當トス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇  
 人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ  
 同シ

本條ハ前條ノ反對ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ即チ雇主カ雇賃ヲ  
 減シ又ハ農工業ノ就業ノ條件ヲ變更スルカ爲メニ通謀徒黨シテ雇人  
 又ハ他ノ雇主ノ自由ヲ妨害シタル所爲ヲ罰スルナリ乃チ前條ハ雇人  
 ノ場合ヲ規定シ本條ハ雇主ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ其解釋ノ  
 精神同一ナルハ茲ニ贅セズ

第二百七十二條 虚偽ノ風説ヲ流布シテ殺類其他衆人需用物品ノ價值  
 ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪  
 構成條  
 件

本條ノ罪ヲ成スニハ二個ノ條件ヲ具備スルヲ要ス第一虚偽ノ風説ヲ  
 流布シタルヲ第二物品ノ價值ヲ昂低セシメタルト即チ是ナリ  
 本條ノ犯罪ノ原素此ノ如クニシテ甚タ明瞭ナル法文ナリ然レモ本條  
 ハ其適用上ニ於テ大ナル困難アルヲ見ル蓋シ虚偽ノ風説ヲ流布シタ

ルノ事實ハ之ヲ證シ之ヲ明ニスルヲ難キニアラサル可シト雖モ價直ノ昂低ハ其原因千差萬別ニシテ果シテ虛偽ノ風説ノ爲メニ昂低シタルヤ否ヲ證明スルヲ實ニ至困至難ノ事ナリトス假令其證明ハ之ヲ爲シ得タル場合ニ於テモ其昂低ノ度幾何マテハ以テ本條ノ罪ヲ成スカタ定ムルヲ容易ナラサルナリ是故ニ本條ヲ實際ニ適用セント欲セハ其範圍狹隘ニシテ殆ト適用スヘカラサルニ至ルノ恐ナキニアラス

### 第九章 官吏瀆職ノ罪

官吏一國ノ行政ニ關與スル所ノモノナレハ職務ニ違反シ又ハ其職權ヲ濫用スル時ハ公益ヲ害スルヲ實ニ大ナリトス本章ハ其制裁トシテ之ヲ設ケタルナリ本章ノ犯罪ヲ分チテ三種トス第一官吏公益ヲ害スル罪第二官吏人民ニ對スル罪第三官吏財産ニ對スル罪是ナリ

#### 第一節 官吏公益ニ關スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ法律規則ヲ公布施行スルノ職務アル官吏カ故ラニ其公布施行ヲ爲サル場合及ヒ官吏カ故ラニ他ノ官吏ノ職務ヲ以テ法律規則ヲ公布施行スルヲ妨害シタル場合ヲ規定セリ此ニツハ場合ハ何レモ故意又ハ惡意ヲ以テ犯シタルニ非サレハ罪トナラス換言スレバ此罪ハ有意犯ニシテ過失又ハ懈怠ニテハ成立スルヲ無キナリ本條ノ罪ハ今日ニテハ其範圍甚々狹隘トナレリ何トナレハ法律規則ハ官報又ハ新聞等ノ手續ニ據リテ公布スルカ故ニ從來ノ如ク官吏ノ手ヲ經由シテ公布スル場合甚々少キニ至リタルヲ以テナリ

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ廳長其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(第二百七十三、四條) 第二編 第九章 第一節 官吏公益ニ關スル罪 五五七

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
此兩條ハ甚々簡單ナルハ説明ヲ要セス

### 第二節 官吏人民ニ對スル罪

其權利ナキ事ヲ行ハシメトハ如何ニ解スルカ

第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁  
[擅ニ威權ヲ用ヒ云々トハ官吏カ其職務ヲ行フニ際シテ擅ニ威權ヲ用井タルノ謂ナリ故ニ官吏カ其職務ヲ行フ場合ニアラサル時ハ假令擅ニ威權ヲ弄シテ人民ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害スルモ本條ノ罪トナラサルナリ  
其權利ナキ事ヲ行ハシメ云々は實ニ解シ難キ文辭ナリ單ニ文辭ノ上ヨリスレハ何人ト雖モ人民ヲシテ其權利ヲ有セサル事ヲ行ハシメ云々ト解ス可シ而シテ此ク解スルルハ實ニ奇怪ナル結果ヲ生スヘシ

例ハ人ハ同類ヲ殺傷スルノ權利ナシ故ニ官吏威權ヲ用井人民ヲシテ人ヲ殺サシメタル時ハ之ヲ本條ノ罪トナサ、ル可カラス人ハ往來禁止ノ道路ヲ通行スルノ權利ナシ故ニ官利威權ヲ用井人ヲシテ往來禁止ノ道路ヲ通行セシメタル時ハ之ヲ本條ノ罪トナサ、ルヘカラス此等官吏ノ所爲ハ殺人罪又ハ往來禁止ノ道路ヲ通行シタル罪ノ教唆ニシテ本條ノ罪ヲ成サ、ルコトハ何人モ之ヲ是認スヘシ且本條ハ官吏人民ニ對スル罪ニシテ其被害者ハ人民ナリ所謂權利ナキ事ヲ行ヒタル者是レ本條ノ罪ノ被害者ナリ彼ノ官吏ノ威權ヲ畏レテ人ヲ殺シタル者又ハ往來禁止ノ道路ヲ通行シタル者ハ何等ノ害ヲ被ムリタルカ此等ノ犯人ハ權利ナキ事即チ爲スヘカラスト思惟シタル事ヲ爲シタルニヨリ多少不愉快ノ感アルヘキモ害ヲ被ムリタルニ非サルナリ故ニ此文辭ハ之ヲ文辭ノ上ヨリ解スレハ徹底其意ヲ知ルコト能ハス予以

爲ク是レ文辭ノ間ニ錯誤アルニ由ル其權利ナル文辭ハ義務ナル文辭  
 ノ錯誤ナリト試ニ義務ナキ事ヲ行ハシメ云々トシテ本條ヲ解釋スレ  
 ハ一讀明瞭ナルヘシ例ヘハ人民ハ官吏ニ對シテ敬禮スルノ義務ナシ  
 故ニ官吏威權ヲ用非人民ヲシテ強イテ已レニ對シテ禮拜セシメタル  
 カ如キ是レ實ニ本條ノ想像スル所ノ場合ナリトス而ルテ誤リテ義務  
 ナ權利ト規定シタルヨリシテ講法家ヲシテ之カ解釋ニ苦マシムルニ  
 至レリ立法者ノ不注意モ亦甚シト謂フ可シ。或ハ本條ヲ辯護シテ曰  
 ク所謂其權利ナキ事トハ官吏カ人民ニ對シテ爲サシムヘキ權利ナキ  
 事ト解スヘシト是レ唯權利ナキ事ヲ行ハシメ云々ノ文辭其物ノミナ  
 ル時ハ此ク解釋スルモ亦敢テ不可ナカルヘシト雖モ本條ノ冒頭ヨリ  
 讀下スル時ハ所謂其權利テウ文辭ハ人ヲシテノ人ノ代名詞即チ人テ  
 ウ文辭ヲ受クタル者ナルコトハ毫モ疑ヒ無シ之ヲ官吏ノ點ヨリ觀察シ

テ解釋スルハ妥當ナラス

第二百七十七條 人ノ身軀財產ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事、  
 檢察官、警察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ十五日  
 以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二回以上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ豫審判事、檢察事及ヒ警察官吏カ身軀財產ニ對スル犯罪アルニ當  
 リ其報告ヲ受ケテ速ニ人民ヲ保護スルノ處分ヲ爲サ、ル所爲ヲ罰ス  
 ル所ノ條文ナリ本條ハ之ヲ實際ニ適用スルトハ殆ト無用ノ條文ト謂  
 ハサルヲ得ス其故何ソヤ曰ク先ツ豫審判事ニ付キテ之ヲ觀察セン豫  
 審判事ハ法律上人民保護ノ義務アリヤ之ヲ刑事訴訟法ニ徵スルニ豫  
 審判事ナルモノハ豫審處分ヲ爲スノ義務アルモ毫モ被害者ヲ保護ス  
 ルノ義務ナシ令狀ヲ發シ證據徵憑ヲ集取シ又ハ被告人ヲ訊問スル等  
 ノ處分ヲ爲スヘキノ規定アルモ曾テ被害者ヲ庇蔭保護スルノ規定ナ  
 シ故ニ豫審判事カ保護處分ヲ爲サ、レハトテ本條ヲ適用シテ之ヲ罰

スルヲ得ス、検事ハ告訴發現行犯等ニヨリテ犯罪アルヲ認知シ  
 又ハ犯罪アリト思料シタルハ其證據及ヒ犯人ヲ捜査シ公訴ヲ起ス  
 ノ義務アレモ被害者ヲ保護スルノ義務無シ其公訴權ヲ實行スルノ權  
 ハ被害者ヲ保護スルカ爲メニアラス即チ被害者保護ノ處分ヲ爲サ、  
 レハトテ亦以テ本條ヲ適用スヘキニ非ス警察官吏ニハ二様ノ職務アリ  
 リ其司法警察官トシテハ被害者保護ノ義務ナキハ猶ホ檢事ノ其義務  
 ナキカコトシ其行政警察官トシテハ人民保護ノ義務アルカ故ニ若シ  
 故意ニ被害者ヲ保護セサル時ハ本條ヲ適用スルヲ得サルニ非ス然  
 レモ之ヲ理論ニ訴ヘ之ヲ普通ノ感情ニ徴スルニ官吏懲戒例ニ據リテ  
 之ヲ罰スレハ則チ足レリ之ニ刑ヲ加フルニ至リテハ暴モ亦甚シ  
 之ヲ要スルニ法律ハ其命シタル義務ヲ盡サハル者ニアラサレハ之ヲ  
 罰スルヲ得ス豫審判事檢事又ハ司法警察官吏ハ法律上被害者保護

ハ義務ナシ故ニ假令故意ニ被害者ヲ保護スルハ處分ヲ爲サハルヲ有  
 ルモ本條ヲ適用スルヲ得ス故ニ曰ク本條ハ殆ト無用ハ條文ナリト

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定ムル程式規則ヲ遵守セスシテ人  
 ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁  
 錮ニ處シ二回以上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過ク  
 ル毎ニ一等ヲ加フ

吾人ハ法律ニ定ムル所ニ依ルニ非サレハ逮捕監禁ヲ受クルノ義務ナ  
 シ(帝國憲法第二十三條)從テ官吏ハ法律ノ定ムル所ニ依ルニ非サレハ  
 人民ヲ逮捕監禁スルノ權利ナシ是ヲ以テ刑事訴訟法等ニ於テ被告人  
 ヲ逮捕監禁スルノ程式規則ヲ規定シ以テ逮捕官吏ニ之ヲ遵守スルノ  
 義務ヲ命セリ本條ハ實ニ逮捕官吏カ其程式規則ヲ遵守セスシテ人民  
 ヲ逮捕シ監禁シタル場合ヲ規定シ以テ刑事訴訟法等ノ効力ヲ保證シ  
 タル法文ナリトス  
 本條ハ有意犯ナリ故ニ惡意アルハ勿論故意アルハ則チ罪トナル但

シ其惡意ノ場合ト故意ノ場合トハ罪度ニ輕重アリ從ヒテ其刑ヲ異ニスルノ必要アリ然レモ立法者ハ其區別ヲ立テス同一刑ヲ科スルトモテリ蓋シ其故意ト惡意トハ容易ニ知ル可カラサルカ爲メナラン

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

「放免」ノ文辭妥當ナラス何トナレハ放免ハ獨リ裁判官ノ爲シ得ヘキ事ニシテ司獄官ハ此權ヲ有セザレハナリ放免ハ宜ク出獄ト解スヘシ

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ除去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁

錮ニ處シ四回以上四十回以下ノ罰金ヲ附加ス  
因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

本條ハ說明ヲ要セス  
第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クトナ念リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

本條ハ右  
無意犯  
ナリ

本條ハ一讀スル時ハ甚タ簡單ニシテ說明ヲ要セサルカ如シト雖モ一言以テ法意ノ存在スル所ヲ闡明セサルヘカラサル者有リ本條ハ文辭ノ上ヨリ之ヲ解スレハ司獄官吏カ水火震災ニ際シテ囚人ノ監禁ヲ解クトナ念リタルカ爲メ略言スレハ懈怠即チ無意ノ所爲ノ爲メニ囚人ヲ死傷ニ致シタルハ毆打創傷ノ各本條ニ照シテ之ヲ罰スルカ如シ然ラハ則チ毆打創傷罪ノ輕キハ輕罪ノ刑ヲ以テ罰セラレ重キハ重罪ノ刑ヲ以テ罰セラレカ故ニ司獄官吏ハ無意ノ犯罪ノ爲メニ重罪ノ刑ヲ科セラル、ト有リト謂フヲ得ヘキニ似タリ我刑法ハ無意犯ヲ規定スルト多シ然レモ無意犯ニ科スルニ重罪ノ刑ヲ以テシタルトナシ例ヘハ看病婦過チテ火ヲ失シ爲メニ病人數十名燒死シタル場合ノ如キ我刑法ハ之ヲ罰スルニ罰金即チ輕罪ノ刑ヲ以テス蓋シ其所爲ヨリ生シタル實害太タ多シト雖モ背德ノ點非常ニ少キガ故ニ之ヲ罰スル

ニ重罪ノ刑ヲ以テセサルナリ而ルニ獨リ本條ノ所爲ニ至リテハ之ヲ罰スルニ重罪ノ刑ヲ以テスルハ其理由何クニ存スルヤ或ハ官吏ハ人民ト違ヒ其責任重大ナルカ故ニ之ヲ罰スルニ重罪ノ刑ヲ以テスルノ必要アリト曰ハシカ無意犯ヲ罰スルニ重罪ノ刑ヲ以テスルハ決シテ正當トスルヲ得ス予ノ思惟スル所ニ據レハ本條ノ以上説明シタルカ如キ不當ノ結果ヲ生スルハ職トシテ文辭ノ上ヨリ解釋シテ其法意ヲ探ラサルニ由ルノミ本條ニ怠リテウ文辭ヲ用非タルハ立法者ノ不注意ニ出テタリ蓋シ救フ可キ手段アルニ故ラニ之ヲ救ハサルトハ正義ヲ表サントシテ過チテ怠リテウ文辭ヲ用非タルニ過キス立法者ノ精神ハ決シテ本條ノ所爲ヲ以テ無意犯ト爲スニアラス法ヲ解スル者辭ヲ以テ意ヲ害スル無カラントテ要ス

第二百八十二條 裁判官檢察官及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ

重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

拷問方ノ弊害

本條ハ裁判官檢察官警察官吏罪ヲ治ムルニ當リテ拷問ヲ用非テ被告人ヲ審訊スル所爲ヲ罰スル法文ニシテ刑事訴訟法ト相待テ我法律ノ一大進歩ヲ現ハシタルモノトス、古昔ハ裁判上拷問方ヲ慣用シ其用非ルノ害アリテ益ナキコトヲ知ラサル者ノ如シ曰ク石責曰ク水責曰ク火責曰ク蛇責其他釣責海老責毆責等殆ト枚擧ニ遑アラス其慘虐ナルト之ヲ追想スレハ人ヲシテ毛髮慄然タラシム願フニ古昔ト雖モ此種ノ拷問方ヲ妄用シタルニ非ス多クハ示シテ以テ人ヲ虛喝スルノ手段トシタルニ過キスト雖モ之ヲ用非タルハ固ヨリ顯著ナル事實ナリトス斯ク古昔拷問方ヲ用非タルノ理由ヲ釋ヌルニ人ヲ罰スルニハ必ス自白アリタルトテ要シ自白ナクハ罪ヲ斷スルコトヲ得サルヲ例トス



ルカ故ニ其罪狀ヲ自白セシメシト欲シ終ニ拷問方ヲ用井ルニ至レル  
ナリ  
然レモ拷問ニヨリ罪狀ヲ自白セシムルトハ甚タ難キ事ニシテ宛モ汝  
其罪狀ヲ自白セヨ自白スレハ汝ヲ罰セント曰フカ如シ犯人ノ罪狀自  
白ヲ敢テセサル實ニ明瞭ナリト謂フ可シ加之拷問ヲ用井テ治ム  
ルホハ寧ロ刑ヲ受ケテ以テ拷問ノ痛苦ヲ免カレハトスルハ情ヲ生シ  
終ニ無辜冤ニ泣クカ如キ最モ厭惡スヘキ結果ヲ生スルニ至ル拷問ノ  
害アリテ益ナク而カモ其目的トスル所ヲ達スル能ハサルト其レ斯ノ  
如シ是ヲ以テ刑事訴訟法ニ於テハ罪ヲ治ムル一ニ證據ニ據レリ被告  
人ノ自白モ證據ノ一ナレモ古昔ノ如ク勢力アル證據トナラスシテ假  
令其罪ヲ自白セサルモ他ノ證據ニシテ充分ナル時ハ罪ヲ論スルトテ  
得ルニ至リ刑法ニ於テハ本條ヲ設ケテ裁判官檢察事警察官吏ノ拷問ヲ

用井ルヲ罰シタルニヨリ舊習殆ト其跡ヲ絶ツニ至ンリ賀スヘキノ  
事トス聞ク本邦ニ於テ拷問方ヲ廢スルニ至リタルハボアンナード氏  
實ニ與リテ力アリト知ラス果シテ信ナリヤ否ヤテ  
此ノ如ク刑事訴訟法ニテハ證據ノ範圍大ニ擴張シタルカ故ニ裁判上  
拷問ヲ用井ルノ必要ナク從ヒテ本條ヲ設クルノ必要無キニ似タリト  
雖モ將來拷問ヲ用井ルノ裁判官檢察事ナキヲ保スヘカラス直接ニ人民  
ニ接スル警察官吏ノ如キ實ニ之ヲ用井ルヲ無キヲ保ス可カラズ之ヲ  
實際家ニ聞ク被告人ノ執拗ニシテ且狡猾ナルニ遇フホハ拷問ヲ用井  
ント欲スル念慮ヲ起スニ至ルト且文明ノ中心ト誇稱スル佛蘭西ノ如  
キモ拷問法ヲ禁止シタルハ實ニ八十餘年前ニ在リタルニモ拘ハラス  
千八百七十九年マテハ實際拷問ヲ行ヒタリトイフ我立法者ノ弊害ヲ  
未萌ニ防カント欲シテ本條ヲ規定シタル亦ヨカラズヤ

第二百八十三條 裁判官檢察官故シテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ選  
延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上  
五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

裁判拒絕  
ノ罪ヲ設  
ケタル原

本條ハ佛語ノ所謂「ド、シユスチース」即チ裁判拒絕ノ罪ヲ規定シ  
タル法文ナリ夫レ國ニ裁判所ノ設アルハ認テ斷スルニ在リ故ニ裁判  
所ニ顯出セル事件ハ大小輕重若クハ種類ノ如何ヲ論セス假令法律ニ  
不明不備若クハ欠缺アルモ悉ク之ヲ受理シテ裁判セサル可カラズ彼  
ノ管轄違ノ事件ハ其事件ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルノ限  
リニ在ラサルカ如シト雖モ尙ホ之ニ對シテ管轄ニ非ストイフ裁判ヲ  
與ヘサル可カラス若シ認アリ而シテ其裁判ヲ拒絕スルト得ルトス  
レハ則チ結局原被兩造腕力ヲ用非テ雌雄ヲ決スルニ至ル事若シ此ニ  
至ラハ則チ國ニ裁判所ヲ置クノ必要安クニカ在ル是レ檢察事故ナシ告

訴告發ヲ受理セス又ハ起訴セサル場合、裁判官故シテ檢察若クハ人民  
ノ起訴ヲ受理セス又ハ其認テ裁判セサル場合ハ刑罰ヲ以テ之ヲ待ス  
ルノ必要アル所以ニシテ本條ノ規定アルハ實ニ以上述ヘタルカ如キ  
必要アルニ由ルナリ

然レモ本條ハ適用上其範圍大ニ狹隘ナルヲ覺フ夫レ檢察ハ起訴ノ自  
由ヲ有シ假令告訴告發アルモ其所爲ヲ以テ犯罪ト思料セサル時ハ固  
ヨリ之ヲ起訴スルヲ得サルヘク即チ檢察ハ起訴スルノ義務ナシ(但  
シ檢察ハ裁判所構成法第八十二條刑事訴訟法第四百二十二條ノ場合  
ニハ起訴スルノ義務アリ)故ニ檢察カ告發告訴ヲ受ケテ公訴ヲ提起シ  
實行セサルヲ有リト雖モ直チニ本條ヲ適用スルヲ得サルヘシ、裁判  
官モ亦既ニ公訴ヲ受理シタル時ハ直チニ之ヲ裁判セサルヘカラスト  
イフニ非ス裁判事務ノ都合ニヨリ之ヲ遷延スルト得ヘシ故ニ裁判

官カ既ニ受理シタル事件ヲ遷延シテ裁判セサル場合モ亦直チニ本條ヲ適用スルコトヲ得サル可シ但シ本條ニ故ナクシテト有ルニヨリ正當ノ理由ナキ場合ヲ想像シタルナリ然レモ所謂正當ノ理由ナキ場合ハ實際上之ヲ證明スルコト甚々難カルヘシ故ニ曰ク本條ハ適用上其範圍大ニ狹隘ナルヲ覺フト

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏收賄罪ノ理由タル由

本條以下ハ官吏ノ賄賂罪ヲ規定ス夫レ賄賂ヲ受ケテ事ヲ爲スハ實ニ鄙劣醜陋ノ行爲ニシテ君子ノ爲スヲ屑トセサル所而シテ官吏之ヲ受クルニ至リテハ道德ニ背戾スルハ勿論社會ニ對シテ言フ可カラサルノ弊害危險ヲ醸成スヘシ蓋シ官吏ハ政府ヨリシテ應分ノ俸給ヲ受ケ常ニ優渥ナル待遇ヲ受クル者ナレハ別ニ賄賂ヲ受ケテ不義ノ富ヲ獲

官吏賄賂罪ノ構成要件

得セントスルハ非常ノ惡事タリ而シテ賄賂ヲ贈遺スルハ其目的直キヲ曲ク他ヲ害シ又ハ不正ノ行爲ヲ遂行セントスルニ在ルカ故ニ官吏之ヲ受納シテ以テ賄賂者ノ目的ヲ達セシメタルハ公益爲メニ侵害セラレ陋風社會ニ浸潤スルニ至ル是レ官吏ノ收賄ハ世界萬國之ヲ罪トシテ認メサル者未タ曾テ之レ有ラサル所以ナリ  
本條ハ一般ノ官吏ニ付キ賄賂罪ヲ規定シ裁判官、檢察官、警察官吏ニ對スル賄賂罪ハ次條以下ニ規定ス然レモ犯罪構成ノ條件ニ至リテハ共ニ同一ナリトス  
賄賂罪ヲ構成スルニハ左ノ三條件ヲ具備スルヲ要ス  
第一、官吏タルヲ要ス  
第二、官吏其職務上ニ關シ囑託ヲ受ケタルヲ要ス  
第三、賄賂ヲ收受シ又ハ聽許シタルヲ要ス

第一、官吏タルヲ要ス

賄賂罪ハ官吏タル資格有ルヲ必要トス故ニ普通ノ人民ハ賄賂ヲ受クルヲ有ルモ本罪ヲ成サ、ルナリ例ヘハ醫師鑑定人帝國議會ノ議員カ賄賂ヲ收受シテ而シテ不正ノ事ヲ爲シタリトテ或ハ他ノ罪ヲ成スヲ有ルモ本罪ヲ成サス

第二、官吏其職務上ニ關シテ囑託ヲ受ケタルヲ要ス

此條件ハ本條之ヲ明言セス然レモ本條第二項之因テ不正ノ處分ヲ爲シタル云々ヨリ推スルハ官吏カ職務上或事ヲ爲スニ當リ其事ニ關シテ囑託ヲ受ケタル場合ニ非サレハ賄賂罪ヲ成サ、ルヲ知ル可シ故ニ官吏其職務外ノ事ニ關シテ囑託ヲ受クルヲアルモ賄賂罪ヲ成サ、ルナリ職務トハ官吏カ職權ヲ以テ現ニ執ル所ノ事務ト解スルヲ要ス故ニ

官吏囑託ヲ受クルモ其現ニ執ル所ノ事務ニ非サル場合ニハ本罪ヲ成サス例ヘハ東京控訴院ノ判事カ宮城控訴院ノ管轄ニ屬スル事件ニ關シ囑託ヲ受クルルハ罪ヲ成スカトイフニ訴訟事件ハ裁判官ノ執ル所ノ事務ニ屬スト雖モ宮城控訴院ノ管轄ニ屬スル事件ハ東京控訴院判事ノ執ル所ノ事務ニアラサルカ故ニ之カ罪ヲ成サ、ルナリ之ニ反シテ長官カ僚屬ノ執ル所ノ事務ニ關シテ囑託ヲ受クルルハ現ニ其事務ヲ執ラスト雖モ監督權ヲ有スルカ故ニ囑託ヲ受ケテ賄賂ヲ收ムル時ハ其權利ヲ濫用シテ不正ノ行爲ヲ爲スト無キヲ保ス可カラズ因テ此場合ニハ罪ヲ成ス可シ

爰ニ注意スヘキ有リ賄賂罪ヲ構成スルニハ官吏ハ受ケタル囑託ハ目的ハ必スシモ枉法ト不枉法トヲ問ハス又所爲ト缺爲トヲ論セス故ニ例ヘハ贈賄者裁判官ニ囑託スルニ公平ノ裁判ヲ爲ストテ以テシタル

ニ當リ裁判官其囑託ヲ受ク而シテ賄賂ヲ收受シタル時ハ亦罪トナル可シ

第三、賄賂ヲ收受シ又ハ聽許シタルヲ要ス

賄賂罪ヲ成スニハ賄賂ヲ收受シ又ハ聽許シタルヲ要ス賄賂トハ或事ヲ囑託スルカ爲メニ贈ル物件ニシテ財産上ノ利益ト爲リ得ルモノヲ謂フ收受トハ現ニ賄賂ヲ受領スルヲイヒ聽許トハ賄賂ヲ受クルヲ承認約諾スルヲ謂フ賄賂罪ヲ成スニハ賄賂其物ヲ現實ニ受領スルヲ要セス之ヲ受領スルヲ承認シ約諾スルモ亦罪ヲ成スナリ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許スルニハ必スシモ直接ナルヲ要セス間接ニテモ亦可ナリトス例スルニ官吏自ラ之ヲ聽受セスシテ其親戚ノ名義ニテ之ヲ聽受スルモ亦本罪ヲ成スヲ妨ケス且賄賂ヲ聽受スル方法ノ如何ヲ問ハス人智進ムニ從ヒ賄賂ノ方法モ亦大ニ進ミ種々ノ方法

ヲ按出シ以テ法網ヲ免ルコトヲ計ル例ハ官吏ノ所有物品ヲ非常ノ高價ニテ買受シテ其外形ヲ賣買ト無スモノ或ハ官吏家賃ヲ拂ハスシテ家屋ヲ借り而シテ其外形ヲ賃貸借ト爲スモノ、類實ニ枚擧ニ遑アラズ此等ハ唯賄賂ヲ受クル方法ノ變様ニシテ結局財産上ノ利益ヲ得ル者ナレハ賄賂罪ヲ成スヲ妨ケサルナリ  
官吏其職務上ニ關シテ囑託ヲ受クルニ因テ響應セラレタルハ賄賂罪トナルカ響應ハ唯人ヲシテ口腹ノ快ヲ得セシムルニ過キスシテ之ヲ稱シテ財産上ノ利益ト爲スコトヲ得ス故ニ賄賂罪ヲ成サス要スルニ此等ノ所爲ハ官吏懲戒例ニ照サルカ或ハ裁判官及ヒ裁判所書記ナラハ忌避ノ原因トナリ其事件ニ關與スルノ能力ヲ失スルニ過キサルナリ

以上説明シタル所ヲ要約スルニ賄賂罪トハ官吏カ其職務上ニ關シ囑

託ヲ受ケテ財産上ノ利益トナル物件ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル所  
爲ヲ謂フ

爰ニ注意ス可キ者有リ賄賂罪ハ官吏カ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ  
聽許スレハ則チ直チニ成立スル所ノ犯罪ナレハ其犯罪ノ成立スルニ  
ハ官吏ノ之カ爲メニ不法ノ處置ヲ爲シタルト否トヲ問フヲ要セス又  
其囑託シタル事項ヲ爲シタルト否トヲ論セサルナリ但シ賄賂ニヨリ  
テ不法ノ處置ヲ爲シタルト否トニヨリ刑ニ輕重ノ差ナキニ非ス個ハ  
本條第二項ノ規定スル所ナリ  
本條第二項ニ規定シテ曰ク因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加  
フト所謂不正ノ處分トハ如何曰ク相當ノ處分ヲ爲サル事ヲ謂フ例  
ヲ裁判官ニ執ラシメ原告人ノ勝訴トナル可キ事件ニ對シ枉クテ被告  
人ヲシテ勝タシムルカ如キ是ナリ

賄賂罪ニ  
未遂犯アリ

予ハ本條ヲ解スルニ當リ多ク裁判官ノ例ヲ引證シタリト雖モ是ノ說  
明ノ便ヲ圖リタルニ過キス既ニ一言セル如ク本條ハ之ヲ裁判官ニ適  
用スヘキ者ニ非ス諸君請フ諸ヲ諒セヨ  
賄賂罪ニ關シ研究スヘキ數多ノ問題アリ叙次本條ノ下ニ於テ之ヲ解  
明スヘシ

第一問、賄賂罪ニ未遂アリヤ  
曰ク賄賂罪ニ未遂犯ナシ何ヲ以テ之ヲ謂フ曰ク元來賄賂罪ハ賄賂ヲ  
聽受スレハ則チ直チニ成立スル所ノ犯罪ニシテ賄賂ノ聽受ト否トハ  
賄賂罪ノ成否ヲ判スル所ノモノナレハ此罪ハ本質上未遂ノ場合ヲ生  
セサル者ト謂ハサルヘカラス例ヘハ官吏一千圓ノ賄賂ノ中其半ヲ收  
受シタルコト有リトセン縱令全額ノ賄賂ヲ收受セサルモ賄賂ヲ收受シ  
タルニ相違ナクハ賄賂ノ既遂犯ニシテ決シテ未遂犯ニハアラサル

ナリ例ハ官吏既ニ賄賂ヲ收受シタルニ其子父ノ惡ヲ掩ハシカ爲メ  
 父ノ知ラサルニ乘シ竊カニ之ヲ贈賄者ニ返還シタル場合アリトセン  
 此場合ト雖モ其意外ノ障礙ハ官吏カ既ニ賄賂ヲ收受シタルノ後換言  
 スレハ賄賂罪完結ノ後ニ賄賂ヲ返還シタル者ナシハ之ヲ賄賂ノ未遂  
 ト曰フヘカラス更ニ例ヲ轉シ官吏既ニ賄賂ヲ收受シタルノ後大ニ其  
 非ヲ悔ヒテ直チニ之ヲ返還シタル時ハ如何トイフニ此場合ト雖モ賄  
 賂收受ノ後ニ返還シタル者ナシハ之ヲ賄賂罪ノ既遂ト謂ハサルヲ得  
 ス此場合ハ恰モ他人ノ物品ヲ竊取シタル後悔悟ノ念ヲ生シ之ヲ所有  
 主ニ返還スルモ尙ホ竊盜罪ノ既遂ニ問ハルカ如シ但シ此場合ハ實  
 害ヲ生セス而シテ官吏已ニ悔悟シタルニヨリ既遂罪トシテ之ヲ罰ス  
 ルハ嚴ニ失スルノ嫌ナキニ非ザレバ法律上之ヲ賄賂ノ既遂犯トシテ  
 罰セサル可カラス要スルニ賄賂罪ニハ性質上未遂犯ナク賄賂ヲ收受

官吏ニ非  
 サルモノ  
 ハ賄賂罪  
 ノ共犯罪  
 ナラズハ  
 キルヲ得  
 ンカ

シ又ハ聽許スルハ則チ罪茲ニ成立ス若シ收受聽許ハ事ナクハ則チ  
 之ヲ賄賂罪ト爲スコトヲ得サルナリ  
 第三問、官吏ニ非サル者カ官吏ヲ教唆シテ賄賂ヲ收受セシメタル時  
 ハ賄賂罪ノ教唆者トナルカ  
 曰ク賄賂罪ヲ構成スルニハ官吏タル身分ヲ有スルヲ必要トスルカ  
 故ニ官吏タル身分ヲ有セサル者ニ係ルハ官吏ヲ教唆シテ賄賂ヲ收  
 受セシムルモ賄賂罪ノ共犯トナラサルカ如シト雖モ敢テ然ラサルナ  
 リ蓋シ教唆者ノ現犯者ト同シク罰セラル、所以ハ犯罪ノ一部ニ加功  
 シタルニ由ル詳言スレハ教唆者ハ現犯者ヲシテ罪ヲ犯スコトヲ決定セ  
 シメタルモノニシテ犯罪ノ原因ヲ作り出シタル者ナリ教唆者ハ智力  
 上ノ働キヲ負擔シ被教唆者ハ體力上ノ働キヲ負擔シテ一箇ノ犯罪ヲ  
 構成スル所ノ者ナリ故ニ官吏ニ非サル者ト雖モ賄賂罪ノ原因ヲ作り

賄賂者ノ官吏ニ  
シテ分テ法  
ノ處分メ  
爲サシメ  
タル者  
ハハ教  
トシテ  
得ルカ  
ルカ

出シ其智力上ノ働キヲ負擔シタル場合ニハ之ヲ賄賂罪ヲ犯セル者ト  
爲サ、ル可カラズ而シテ此理ヲ推スルハ官吏ニ非サル者カ官吏ヲ誘  
導指示シテ之ヲ幫助シ因テ以テ收賄ノ所爲ヲ容易ナラシメタル場合  
ハ賄賂罪ノ從犯トシテ之ヲ論セサル可カラズ  
第三問、賄賂ヲ贈リ官吏ヲシテ枉法ノ處分ヲ爲サシメタル通常人ノ  
處分如何  
曰ク官吏ヲ教唆シテ賄賂ヲ收受シ又ハ聽許セシメタル者并ニ其豫備  
ノ所爲ヲ幫助シタル者ハ官吏ノ身分ヲ有セスト雖モ賄賂罪ノ共犯ト  
爲ルト雖モ賄賂者ニ關シテハ賄賂罪ノ共犯トシテ罰スルハ明文ナシ  
故ニ之ヲ罰スルコトヲ得ズ然レモ賄賂者ノ官吏ヲシテ枉法ノ處分ヲ爲  
サシメ、ト欲シ之ニ賄賂ヲ贈リタルニ官吏之ヲ收受シ又ハ聽許シテ  
其囑託ニ從ヒ枉法ノ處分ヲ爲サタル時ハ之ヲ罰スルハ明文アリ即チ

贈賄者官吏ノ共犯トシテ換言スルハ賄賂罪ノ教唆者トシテ總則第百  
五條ヲ適用セラル、モノトス曾テ屢論シタルカ如ク教唆トハ贈與威  
權其他ノ手段ヲ以テ人ヲシテ重罪輕罪ヲ犯サシメタルヲ謂ヒ而シテ  
之ヲ被教唆者ト共ニ罰スルニハ贈與其他ノ手段ヲ被教唆者ノ精神ニ  
對シ罪ヲ犯スノ決定ヲ爲サシムル勢力ヲ有スルコトヲ要ス今本問ハ場  
合ハ賄賂ヲ贈リ官吏ヲシテ不正ノ處分ヲ爲スノ決定ヲ爲サシメタル  
ナリ反言スレハ官吏カ賄賂ノ勢力ノ爲メニ其精神ヲ枉屈シ以テ不正  
ハ處分ヲ爲シタル場合ナリ故ニ贈賄者ハ賄賂罪ノ教唆者ナリトイフ  
豈復タ不可ナカラザヤ然レモ世間或ハ此場合ヲ以テ教唆ニ非ストシ  
之ヲ無罪ナリト論スル者無キニ非ス予ハ其理由トスル所ノ詳細ヲ知  
了セスト雖モ粗左ノ數點ニ歸着スルカ如シ

第一、我刑法ハ收賄者ヲ罰スルノ明文アルモ贈賄者ヲ問フハ正條



第二、草案第三百二十二條ニハ賄賂者ヲ罰スルハ條文アリ而シテ  
 審査修正ノ際之ヲ削除シタルハ之ヲ無罪トスルハ意思ナリト謂  
 フヲ得ヘシ

第三、贈賄者ハ固ヨリ公平ナル處分ヲ受クルハ權利アリ而シテ特  
 ニ金銀其他ノ物件ヲ贈リタルハ寧ロ賄賂罪ノ被害者ニアラスヤ  
 而シテ之ヲ罰スルハ不當ナリ

此等ノ理由ハ一見スレバ稍可ナルニ似タリト雖モ到頭予ノ決論ヲ駁  
 撃スルノ價值ナキナリ夫レ我刑法ニハ果シテ贈賄者ヲ罰スルノ正條  
 ナキカ第二百八十四條以下ニハ收賄者ヲ罰スルノ明文アリテ此ノ如  
 キ贈賄者ヲ問フノ正條ナシト雖モ之ヲ以テ刑法中ニ贈賄者ヲ問フノ  
 正條ナシト速了スルヲ得ス凡テ立法者ノ法ヲ制スルヤ一事實毎ニ之

ヲ明言スルノ必要アリトスレバ其煩雜ニ堪ヘサルノミナラス却テ徒  
 爲ニ屬スル者ナリ故ニ各本條ニ明言セサル者ハ總則ヲ適用スルヲ  
 得セシム是レ予カ總則ヲ適用シテ贈賄者ヲ罰スト曰ヒシ所以ナリ  
 草案ヲ削除シタルハ大ニ理由ノ存スル所ニテ贈賄者ヲ無罪トスルカ  
 爲メニ非ス我立法者以爲ク贈賄者ハ概シテ教唆者ノ地位ニ在リ故ニ  
 官吏其教唆ニ乘シ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ總則ヲ適用シテ之ヲ罰  
 スルヲ得レハ特ニ之ヲ明言スルノ要ナク且草案ハ官吏カ不正ノ處  
 分ヲナササル時ニ於テモ尙ホ贈賄者ヲ罰スト明言セラレタルモ是レ  
 大ニ教唆ノ原則ニ背戾スルモノニシテ之ヲ保存スルハ甚タ不都合  
 ノ結果ヲ生スト是レ審査ノ際斷然草案ヲ削除シタル所以ナリ。贈賄  
 者ハ賄賂罪ノ被害者ナレハ之ヲ收賄者ト同シク罰スルハ妥當ナラサ  
 ルカ如シト雖モ贈賄者ヲ教唆者トシテ罰スルニハ官吏カ其賄賂ニヨ

五八六  
リテ贈賄者ノ囑託ヲ満足セシメタル場合ニシテ贈賄者カ利益ヲ得タルヲ想像シタルモノナラハ論者ノ想像シタルカ如キ不當ノ結果ヲ生スルヲ無キナリ。以上説明スル所ニ據レハ賄賂ヲ贈リテ官吏ヲシテ不正ノ處分ヲ爲サシメタル者ハ賄賂罪ノ教唆者ヲ以テ之ヲ論スルハ大ニ正當ニシテ立法者ノ精神ニ適應スルヲ知了スヘク從ヒテ官吏賄賂ヲ收受スルモ不正ノ處分ヲ爲スト無キ時ハ教唆ノ事實ノミアリテ其結果ヲ生セス即チ犯罪ノ決定ノミアリテ實行ナキ場合ナレハ贈賄者ヲ以テ賄賂罪ノ教唆者トシテ所罰スルヲ得サルヲ知得ス可シ。或人予ニ問ヒテ曰ク賄賂收受ノ事タル必シモ官吏カ他動的ニ賄賂ヲ收受シタル場合ノミニ限ラス間自動的ニ之ヲ收受スル場合アリ即チ官吏カ或ル處分ヲ爲スニ當リ賄賂ヲ得マク欲シ自ラ之ヲ請求シテ後

ニ收受シタル時ハ贈賄者ハ官吏ヲシテ賄賂ノ決定ヲ爲サシメタルト謂フヲ得サルカ如ク從ヒテ官吏カ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ贈賄者ヲ以テ賄賂罪ノ教唆者トシテ論スルヲ得サルカ如何ト。予答ヘテ曰ク此場合タル一見スレハ稍疑ヲ生スヘキカ如シト雖モ贈賄者ヲ教唆者トシテ論スルニ於テ毫モ不可ナルヲ見サルナリ例ハ余甲者ニ宿怨アリ乙者夙ニ之ヲ知リ余ニ説キテ曰ク僕今子ノ爲メニ子ノ惡ム所ノ甲者ヲ殺スヲ難カラス子請フ僕ニ萬金ヲ與ヘヨト余因テ其請ニ應シ萬金ヲ與ヘタルカ爲メニ乙者終ニ甲者ヲ殺害セリトセシ是レ其發議ハ乙者ニ出ツルト雖モ之ヲシテ殺人ノ決心ヲ強固ナラシメタルハ余ノ與ヘタル萬金ニ在ルヲ明白ニシテ余カ乙者ノ行爲ノ教唆者タルヲハ誰カ復タ疑ヲ容レシヤ惟フニ官吏ノ自動的ニ賄賂ヲ收受シタル場合ト其事實ニ異レ論決ニ至リテハ彼此敢テ異アル有ルヲ

知ラサルナリ。人又予ニ問ヒテ曰ク然ラハ則チ官吏或ル處分ヲ爲スニ當リ恐喝手段ヲ以テ金錢ヲ收受シタル時ハ官吏ハ賄賂罪ヲ成スカ、官吏因テ以テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ贈遺者ハ教唆者トシテ論ス可キカ如何ト。予答ヘテ曰ク是レ官吏ハ恐喝ノ手段ヲ以テ金錢ヲ收受シタルニヨリ賄賂罪ヲ成サ、ルハ固ヨリ言ヲ待タズ其金錢ヲ騙取シタル場合ニハ詐欺取財ヲ以テ之ヲ論セサル可カラス既ニ然リトス、贈遺者ハ賄賂罪ノ教唆者ヲ以テ之ヲ論スル丁チ得サルヤ明白ナリトス。

第二百八十五條

裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ隠シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條以下ノ賄賂罪ハ特ニ司法官吏ニ對シテ規定シタルモノナリ但シ裁判所書記ハ前條ニ因リテ處斷セラル可シ

司法官吏ニ對スル賄賂罪ノ規定ニ關シテ如何ナル理由ニ依リテ之ヲ規定スルニ當リ

特ニ司法官吏ニ付キテ賄賂罪ヲ規定スルノ理由安クニ在ルヤ曰ク賄賂ノ事タル之ヲ實際ニ徵スルニ最モ裁判事件ニ多ク行政上ノ處分ニ關シテハ最モ少シトス夫レ最モ多ク生スル場合ハ最モ多ク種々ノ關係ヲ生ス是レ特ニ司法官吏ノ賄賂罪ヲ規定シタルノ第一理由トス。裁判官ハ人ノ冤枉ヲ洗雪シ人ノ權利ヲ確認スル所ノ任務アルニモ拘ハラズ賄賂ヲ受ケテ枉法ノ裁判ヲ爲スハ無辜罪ニ陥リテ其冤ヲ雪クテ得ス貴重ノ權利枉屈セラレテ伸張スルヲ得ス結局腕力ニ訴ヘテ輸贏ヲ決スルニ至ル可シ腕力ニ訴ヘテ輸贏ヲ決スルハ強者ハ毎ニ勝ヲ博シ弱者ハ唯怨ヲ吞ミテ服從セサル可カラサルニ至ル弱者ハ不幸亦甚シト謂フ可シ況ヤ裁判ノ刑事ニ關スルハ人ノ自由生命ニ對シテ直接ナル結果ヲ生スルニ於テチヤ是ヲ以テ司法官吏ハ之ヲ他ノ一般ノ官吏ノ賄賂罪ニ比スレハ其罪度重カラサルヲ得ス從ヒテ其刑

裁判官ノ  
前條ノ支  
配ヲ受ク  
ルヲ無キ

五九〇  
ヲ重クセサルヲ得ス是レ特ニ司法官吏ノ賄賂罪ニ付キテ規定シタル  
第二理由ナリトス

本條ハ單ニ民事ノ裁判ニ關シテハミ之ヲ規定シ刑事ノ裁判ニ關シテハ之ヲ次條ニ送リ其理由如何曰ク民事ト刑事トニ關シテ裁判官ノ賄賂收受ヨリ生スル所ノ結果ニ差違アレハナリ即チ民事上ノ事件ハ其最モ重キモノト雖モ猶ホ人ノ財産又ハ身分ニ影響ヲ及ホスニ過キス之ニ反シテ刑事事件ハ直接ニ人ノ身體生命ニ影響スルヲ以テ刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂罪ヲ規定スルニハ之ヲ民事ト同一ニスルヲ得ス是レ刑事ハ之ヲ次條ニ送リ單ニ民事ノミテ本條ニ規定シタル所以ナリ  
茲ニ注意ス可キ者有リ裁判官ノ賄賂罪ハ之ヲ本條以下ニ規定スルカ故ニ裁判官ハ前條ノ支配ヲ受ケサルニ似タリト雖モ敢テ悉ク然リト

爲スヲ得ス凡ソ民事裁判所ニ現ハルヘキ事件ハ必シモ原被兩造アリテ權利行爲ヲ論争スルモノ、ミニ限ラス彼ノ失踪事件ニ關シ其推定宣言ノ請求ノ如キ後見人ノ認可請求ノ如キ相續ノ限定受諾ニ關スル事件ノ如キ其他民法ノ規定ニ從ヒ裁判所ノ認可及ヒ許可ヲ受クル請求事件ハ所謂非訟事件ト稱スルモノニシテ此等ノ事件ニハ原被ノ兩造ナク唯一人ニテ裁判所ノ認可及ヒ許可ヲ受クル者ナリ裁判官若シ此等ノ事件ニ關シテ賄賂ヲ收受スルモ前條ノ罪トナル何トナレハ本條ニ所謂裁判ナル文辭ハ佛語ノシユトシマシ即チ原被兩造ノ論争ヲ判決スル場合ヲ想像シタレハナリ是レ裁判官モ亦前條ノ支配ヲ受クル場合アルナリ

第二百八十六條 裁判官、檢察官、警察官吏、刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ濫許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス